JSecurity
All for Japan Security

PCFILTER

ユーザーマニュアル

株式会社 Jsecurity

第 3 版	2025/06/27

目次

1. PCFILTER 紹介 4
1.1. PCFILTER システム要求事項 4
2. エージェントのインストール 5
3. エージェント HOME 9
4. 個人情報保護 13
4.1. 個人情報保護メイン 13
4.2. 個人情報検査 14
4.2.1. 全体検査 14
4.2.2. 選択検査 24
4.2.3. Outlook 検査 29
4.2.4. 簡単検査 33
4.2.5. 管理者検査 34
4.3. 個人情報保護処理 37
4.3.1. 個人情報ファイル 暗号化 37
4.3.2. 個人情報ファイル パスワード圧縮 40
4.3.3. 個人情報ファイル 隔離 42
4.3.4. 個人情報ファイル ごみ箱移動 44
4.3.5. 個人情報ファイル 完全削除 46
4.3.6. 個人情報ファイル 検査除外 48
4.3.7. 個人情報ファイル 保有登録 52
4.4. リアルタイム検査 55
4.5. 暗号化ファイル復号化 56
4.6. 簡単機能 58
4.6.1. 簡単暗号化する 58
4.6.2. 持ち出し用暗号化 63
4.6.3. 簡単削除 66
4.7. ファイル保有状況 68
4.7.1. 個人情報ファイル 69
4.7.2. 暗号化ファイル 70
4.7.3. 削除猶予ファイル 71
4.7.4. 隔離ファイル 73
4.7.5. 保有登録ファイル 74
4.8. ログを見る 77
4.9. 付加機能 80
4.9.1. 暗号化ファイル検索 81
4.9.2. 共有フォルダ管理 83

5. 情報漏洩防止 84
5.1. 情報漏洩防止 84
5.2. ファイル持ち出し 85
6. 環境設定 90
6.1.1. リアルタイム検査設定 92
6.1.2. 全体検査設定 94
6.1.3. 簡単検査設定 96
6.1.4. OUTLOOK 検査設定 98
6.2. オプション設定 100
6.3. 環境設定 107
7. トレイメニュー 110
7.1. エージェントアンインストール 117
8. 付録 119
8.1. FAQ 119

1. PCFILTER 紹介

PCFILTER は PC 内の個人情報を含む文書およびイメージファイルを検出し、暗号化、完全削除などの情報保護処理が可能です。またリアルタイムモニタリングを通じて個人情報の漏えいリスクを事前に予防することができます。 更に印刷制御、外付けメディア制御、コピー/移動遮断など DLP(Data Loss Prevention)機能を搭載して重要情報の外部流出を根本的に遮断し、PC のセキュリティホールを診断･対処できる DLP 適用 PC 個人情報保護ソリューションです。

※本製品ならびに個人情報アルゴリズムは、各種情報の漏洩防止を保証するものではありません。また、ここでいう「個人情報」は、「個人情報の保護に関する法律」で定義される内容をすべて包含するものではありません。

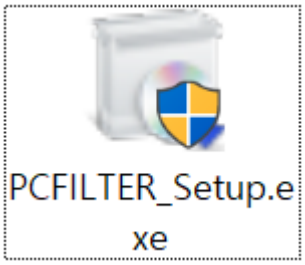
1.1. PCFILTER システム要求事項

PCFILTER が動作するための最小環境要件です。

区分	システム最小要件	
エージェント	H/W	CPU：4Core 以上 RAM：2GB 以上 HDD：500MB 以上(インストール容量)
	OS	Windows 7 32/64bit Windows 8, 8.1 32/64bit Windows 10 32/64bit Windows 11 32/64bit

2. エージェントのインストール

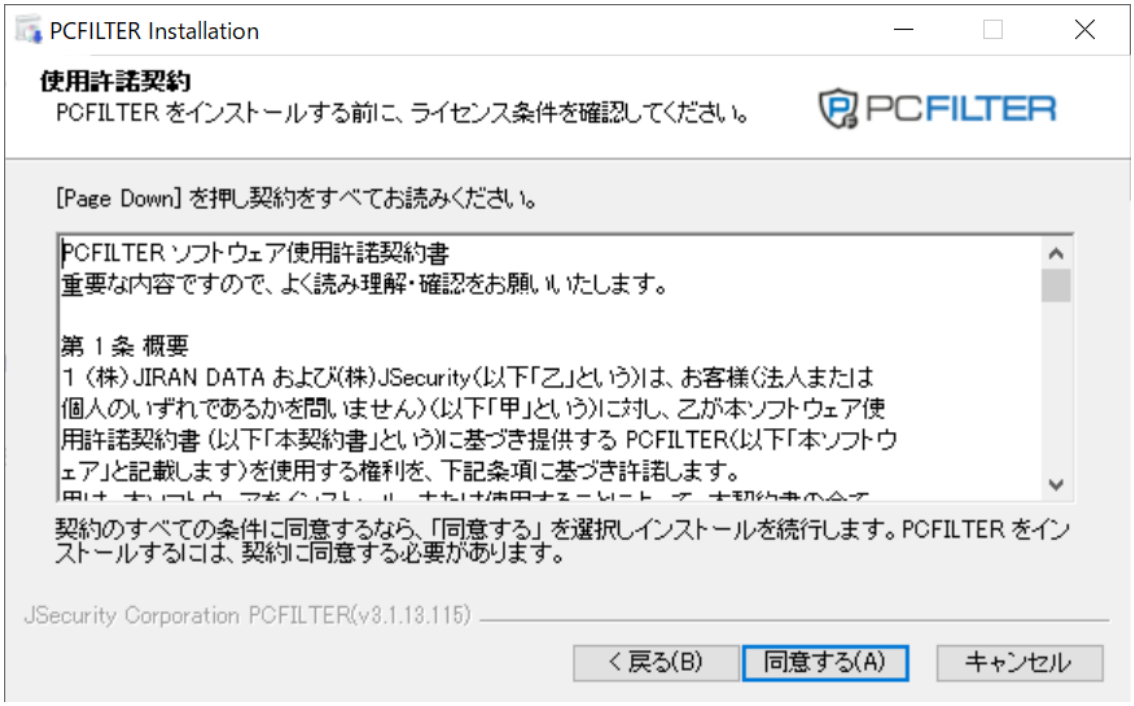
1. PCFILTER_Setup.exe のインストールファイルを実行します。

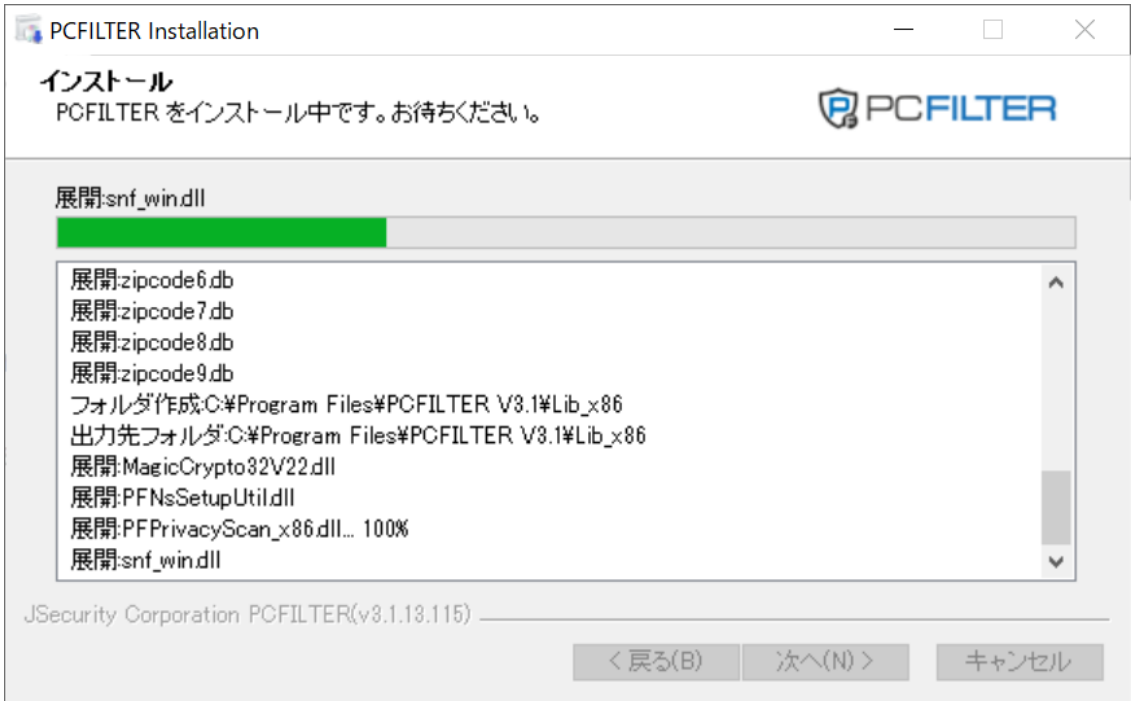


2. PCFILTER のインストールを開始する前に、対象端末で起動中のすべてのプログラムを終了してください。

   その後、インストールファイル（PCFILTER_V3.xxx_Setup.exe）を実行し、「次へ」ボタンを押下します。

3.　すべてのライセンス条件に同意し、「同意する」ボタンを押下してインストールを開始します。

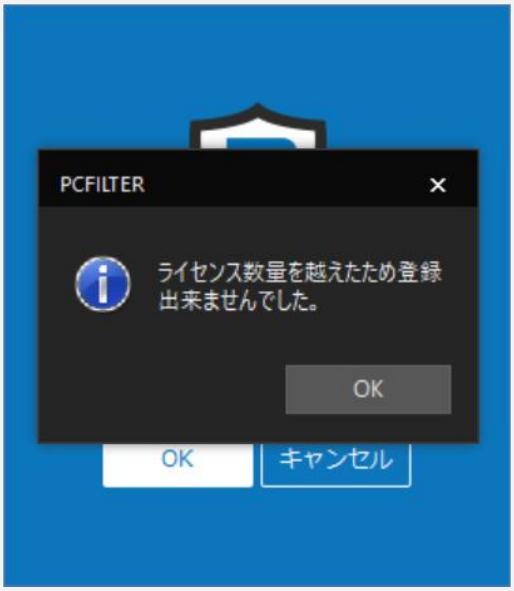




4.　インストール完了画面で「完了」ボタンを押下すると、エージェントが自動で起動します。

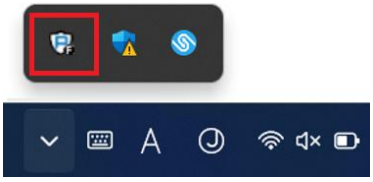
5.　製品番号（ライセンス証書に記載されている「ライセンスキー」）を入力し、「登録」ボタンを押下します。

注意事項
-利用ライセンス数が不足している場合、以下のメッセージが表示され、エージェントのアクティベートに失敗します。

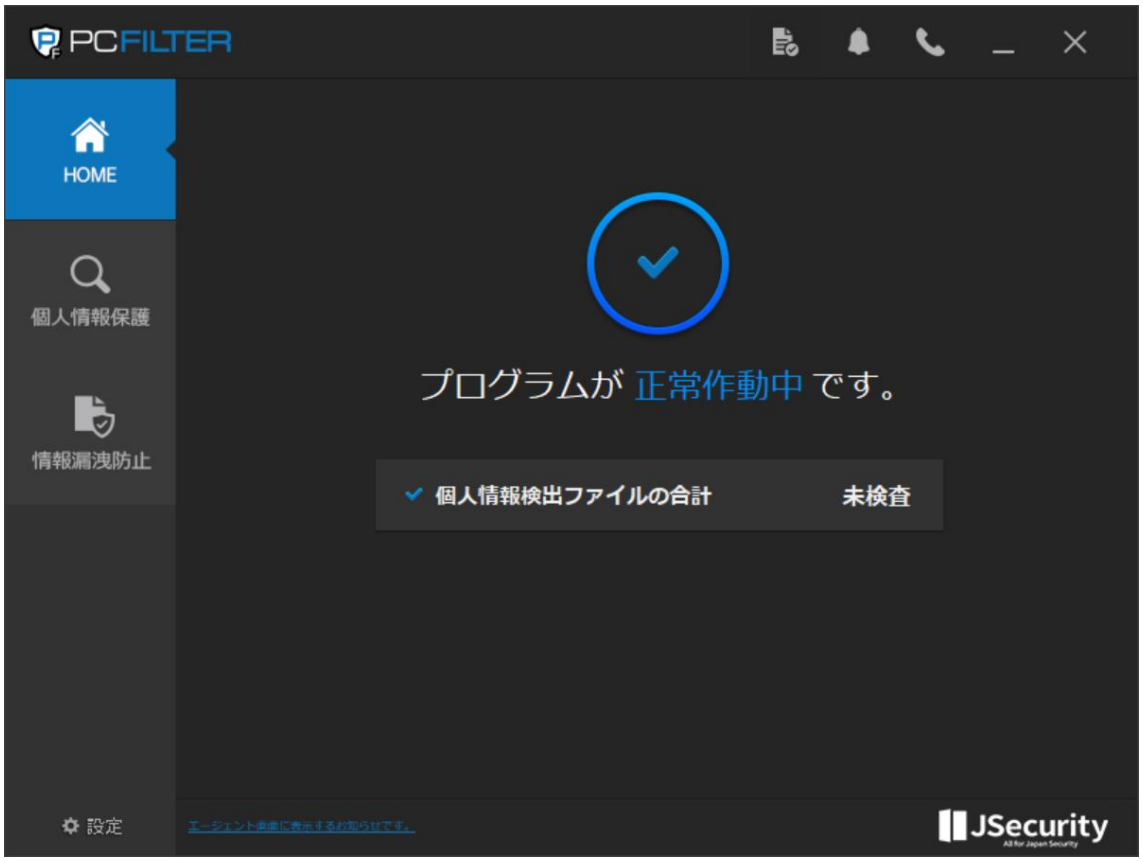


6. ユーザー名や社員番号などの情報を入力します。 （機関のポリシーによって入力情報が異なることがあります。）

7. 製品番号の登録が完了すると、エージェントの動作が開始し、画面右下の通知領域内にアイコンが表示されます。



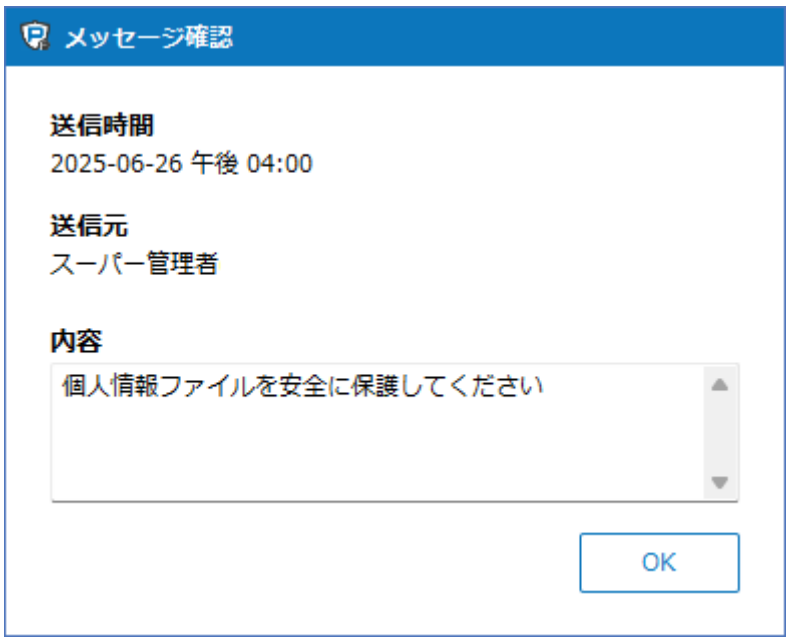
3. エージェント HOME



1. ：管理者からのメッセージが表示されます。

- 全削除：受信したメッセージをすべて削除します。
- 削除：選択した受信メッセージを削除します。

- メッセージをクリックして内容を確認できます。



2. ：サポートセンターのメニューが表示されます。

- マニュアル：PCFILTER ユーザーマニュアルを実行します。

- 電話でのお問い合わせ案内：管理者が設定したお問い合わせ担当者が表示されます。

- 製品情報：製品バージョンが表示されます。

3. HOME 画面を表示します。

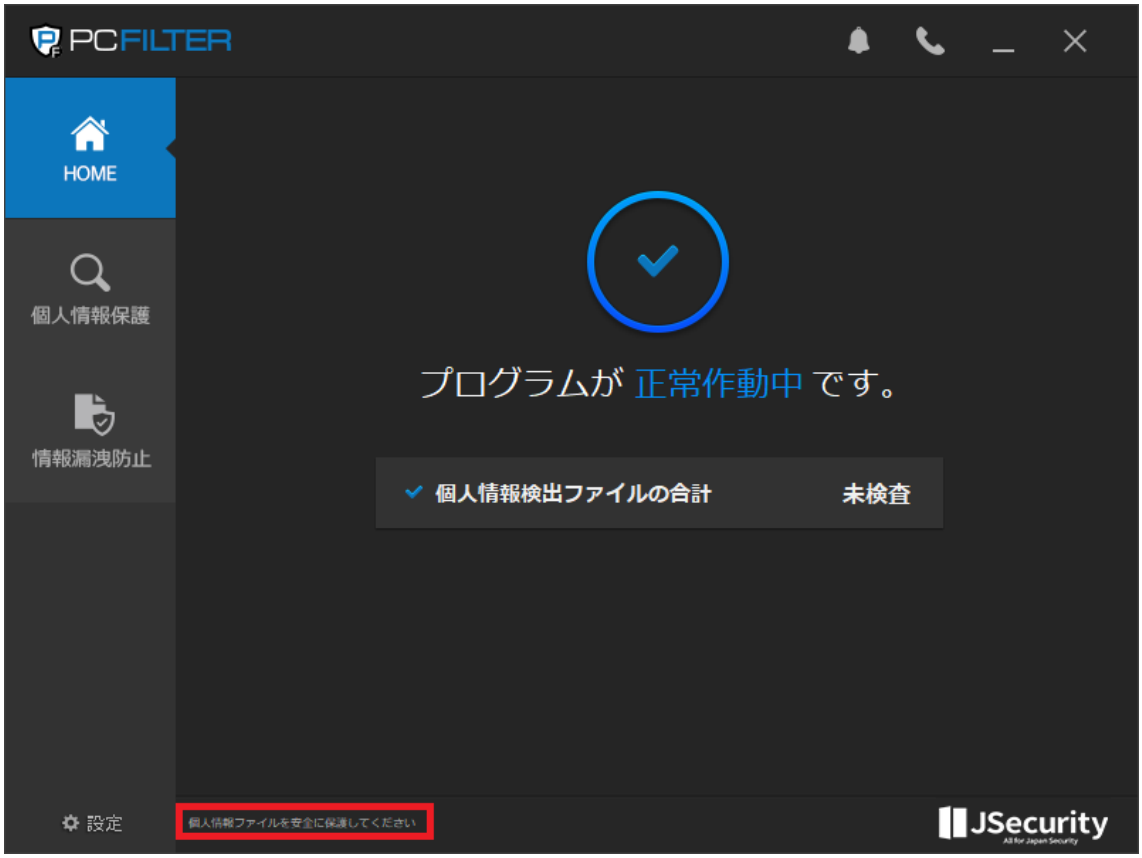
- エージェント-管理サーバー間の通信状態が表示されます。

注意事項

- ライセンスが満了した場合以下のような表示となり、機能が制限された状態となります。

- 現在 PC に検出された個人情報ファイルの数が表示されます。

4. 個人情報保護：個人情報ファイルの検査や保護管理をします。
5. 情報漏洩防止：印刷物、メディア、添付ファイル、共有フォルダの管理状況が表示されます。
6. 設定：個人情報検査、オプションなどの環境を設定します。
7. 下段表示内容：管理者からのお知らせが表示されます。



4. 個人情報保護

4.1. 個人情報保護メイン

PC の個人情報保護のための個人情報検査(全体/選択/Outlook/予約検査)およびリアルタイム通知、個人情報保有統計およびモニタリングなど多様な個人情報保護関連機能を実行します。

1. 全体検査：PC に接続されたすべてのドライブ検査を行います。
2. 選択検査：ユーザーの設定に合わせて個人情報検査を行います。
3. Outlook 検査：実行されている Outlook アプリからメール内の個人情報検査を行います。
4. ファイル保有状況：個人情報ファイルの保有状況(検出/削除/承認申請など)が表示されます。
5. ログを見る：個人情報検査および保護処理ログが表示されます。
6. 付加機能：共有フォルダの管理や暗号化ファイルの検索などの付加機能を実行します。
7. リアルタイム検査：リアルタイム検査の ON/OFF を設定します。
8. 予約検査：予約検査の ON/OFF を設定します。

4.2. 個人情報検査

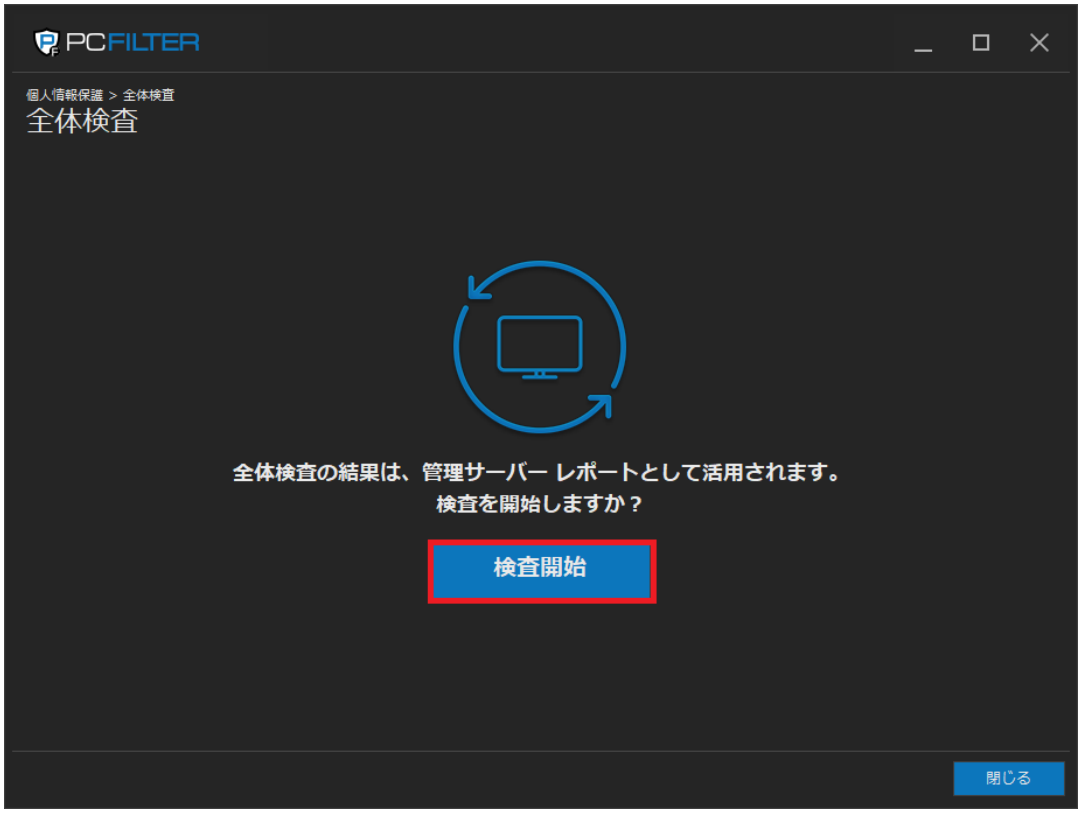
パソコンに保存されている文書（MSOffice、HWP、TXT など）および圧縮ファイル（ZIP、ALZ、RAR、TAR など）、イメージファイル（JPG、PNG、BMP、PDF など）内の個人情報（マイナンバー、メール、電話番号、クレジットカード番号、名字、住所、郵便番号、基礎年金番号、運転免許証番号など）の情報を検査します。

4.2.1. 全体検査

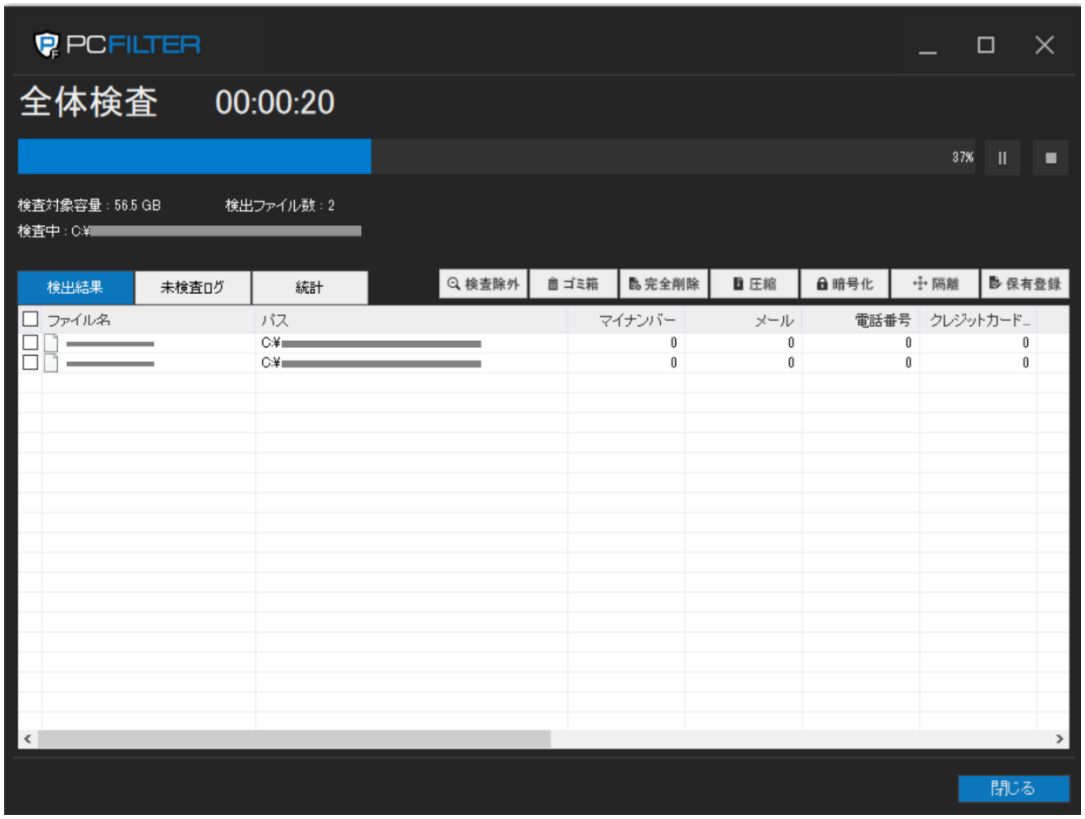
PC に接続されたすべてのドライブ（C:¥、D:¥など）を検査します。 全体検査結果は、管理者サーバーの個人情報ダッシュボードおよび保有状況情報として活用します。

1. 「全体検査」メニューを選択して移動します。

2.　ボタンを選択して、全体検査を開始します。



3.　検査中に個人情報が検出されると、リストに検出ファイル情報が反映されます。



- 全体検査のステータス：検査の進行時間および進行率が表示されます。

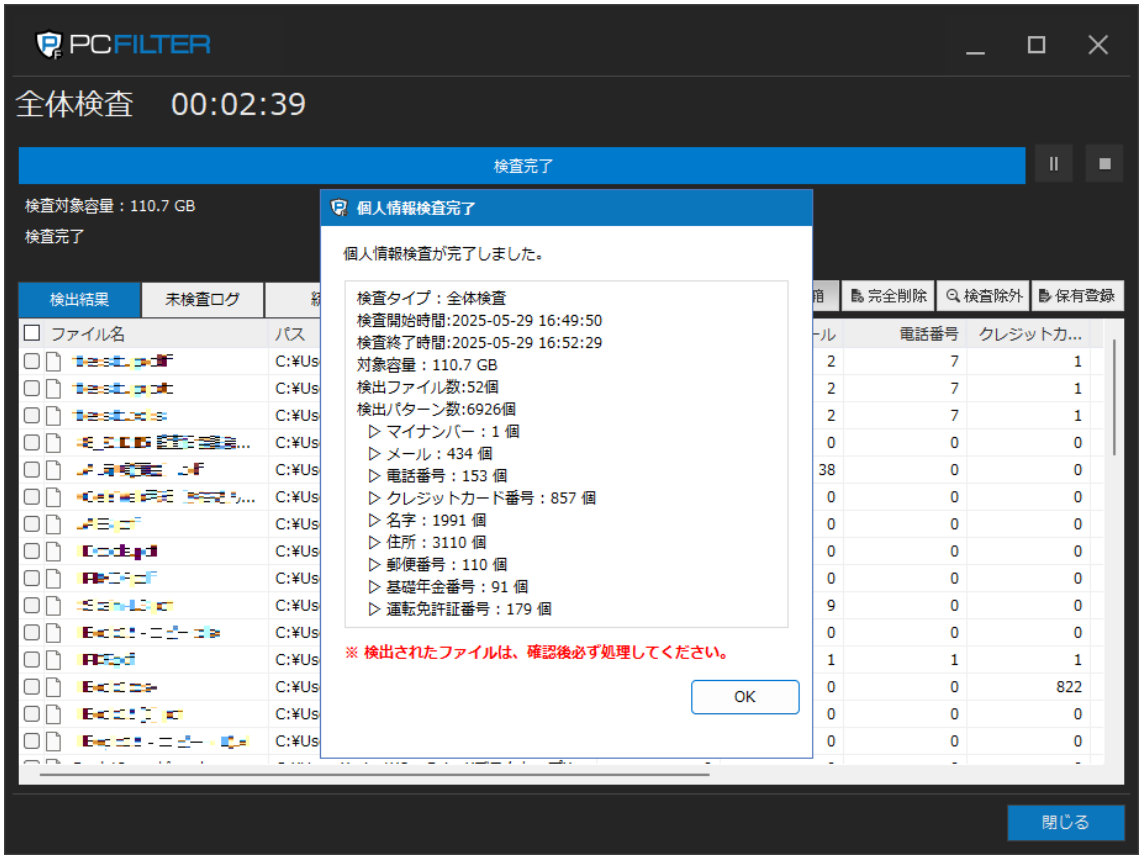
- ⏸ ：進行中の検査を一時中止します。

  ('▶'再起動時に中止された検査から再実行します。)

- ■ ：進行中の検査を中止します。

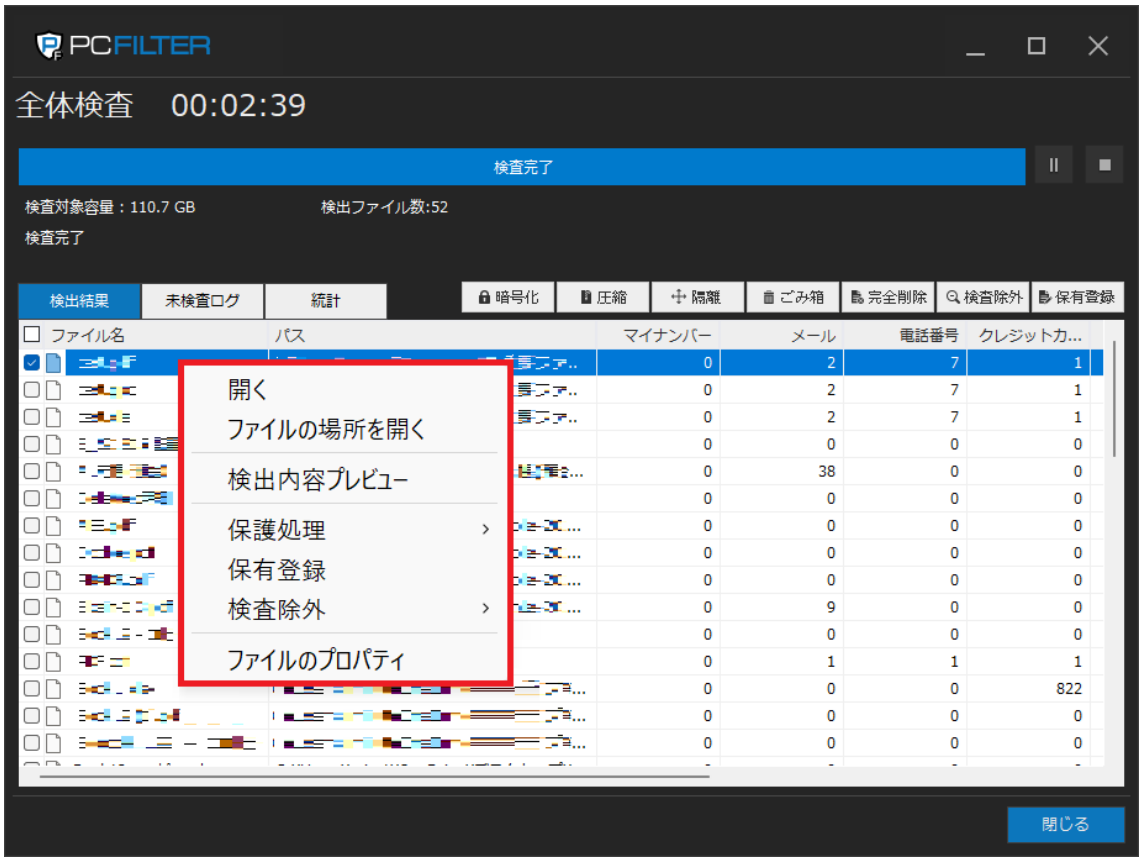
  ('▶'再起動時、最初から検査が行われます。)

- 検査対象容量：検査するファイル容量が表示されます。
- 検出ファイル数：検査完了されたファイル中の個人情報保有ファイル数が表示されます。
- 検査中：検査中ファイルのおよその経過状況が表示されます。
- 検査完了：検査が完了すると、検査結果の要約内容が表示されます。

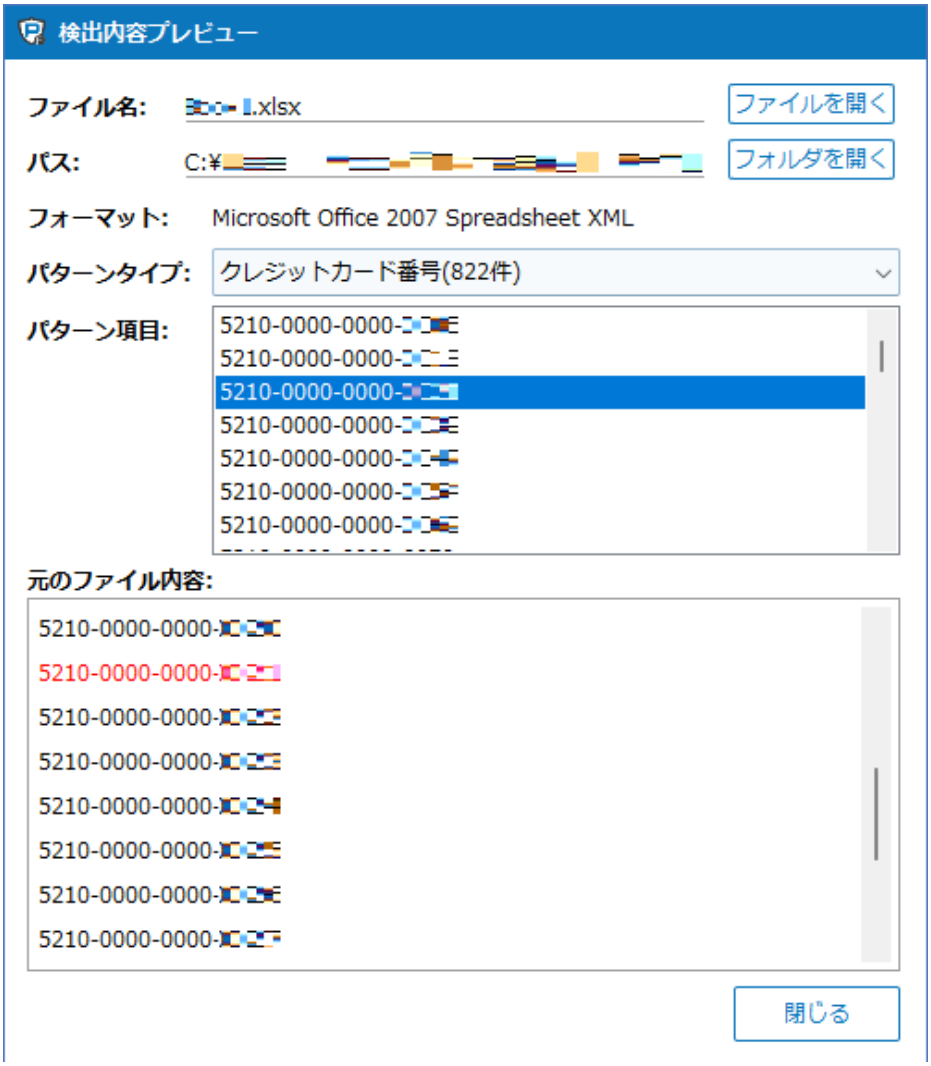


[検出結果]

検出されたファイルが検出結果リストに表示されます。



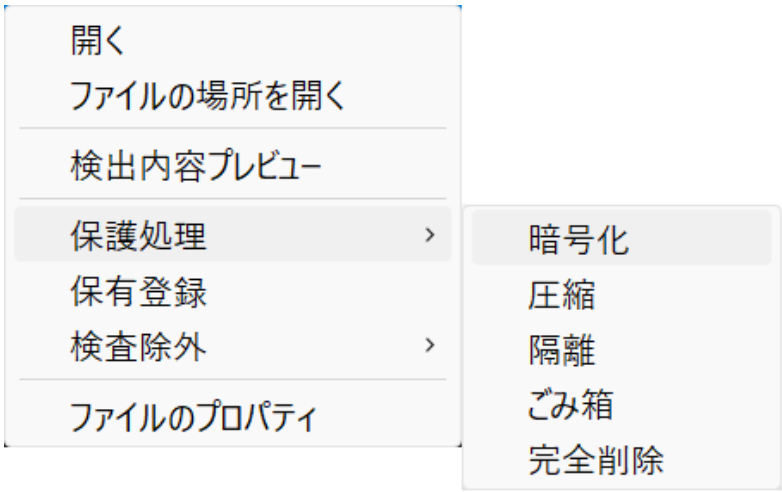
- 個人情報保有ファイルをマウス右クリックして、確認及び保護処理します。
- 開く：選択したファイルを実行します。
- ファイルの場所を開く：選択したファイルが保存されたフォルダが開きます。
- 検出内容プレビュー：選択したファイルの検出内容が表示されます。



- ファイル名：ファイル名が表示されます。
- ファイルを開く：選択したファイルを実行します。
- パス：ファイルが保存された場所が表示されます。
- フォルダを開く：選択したファイルの場所が開きます。
- フォーマット：ファイルの保存形式が表示されます。
- パターンタイプ：検出された個人情報のパターンおよび件数が表示されます。
- パターン項目：検出された個人情報が表示されます。
- 元ファイルの内容：文書内に個人情報を含む内容が表示されます。

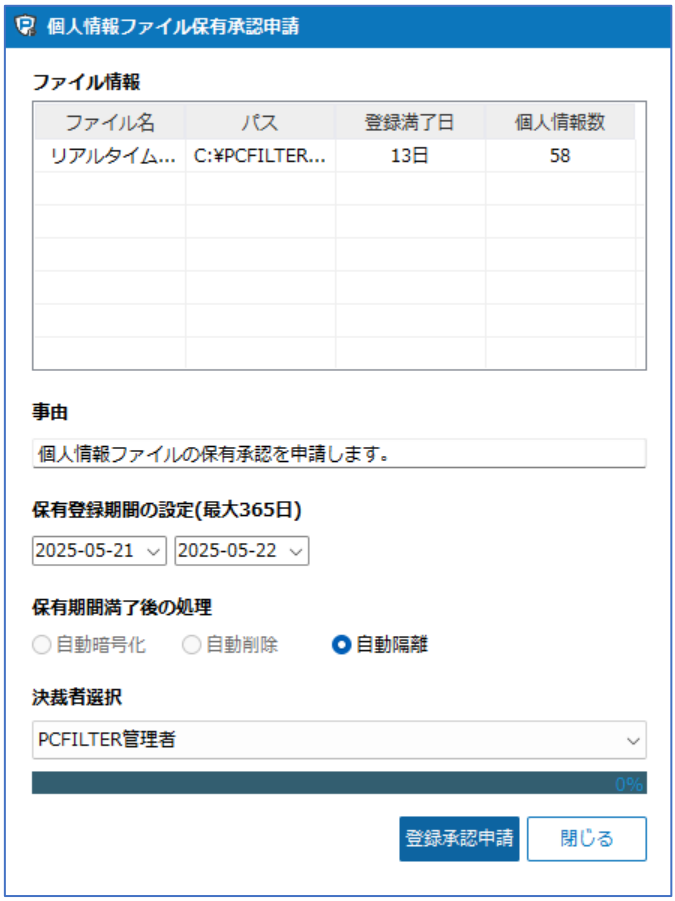
- 保護処理：選択したファイルを保護処理します。

（管理者の設定により、項目が表示されない場合があります。）



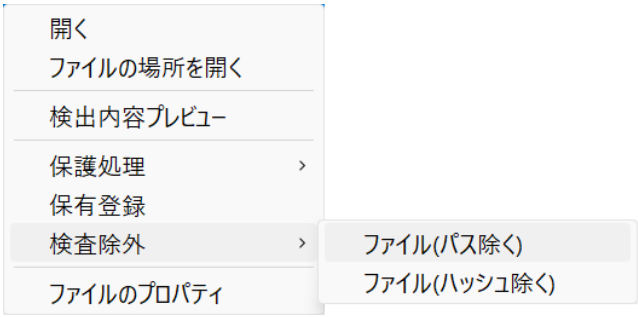
- 暗号化：個人情報保有ファイルを PCFILTER 利用者のみ利用可能な暗号ファイルを作成します。
- 圧縮：個人情報保有ファイルをパスワードが含む一般圧縮ファイルを作成します。
- 隔離：個人情報保有ファイルを使えないように隔離して保護します。
- ごみ箱：個人情報保有ファイルを復旧が可能なパソコンのごみ箱に入れます。
- 完全削除：個人情報保有ファイルを復旧ができないようにファイルを完全に削除します。

- 保有登録：個人情報保有ファイルを暗号化なしで使用する必要がある場合は、管理者の許可を得て、必要な期間保有後自動的に管理者設定による保護処理を行います。



- 事由：保有登録するファイルの登録事由を記載します。(決裁者確認用)
- 保有登録期間の設定(最大 365 日)：保有登録するファイルの登録期間を設定します。
- 保有期間満了後の処理：保有期間満了後の処理を選択します。
- 決裁者選択：保有登録するファイル承認申請する決裁者を選択します。

- 検査除外：選択したファイルを次の検査から除外します。



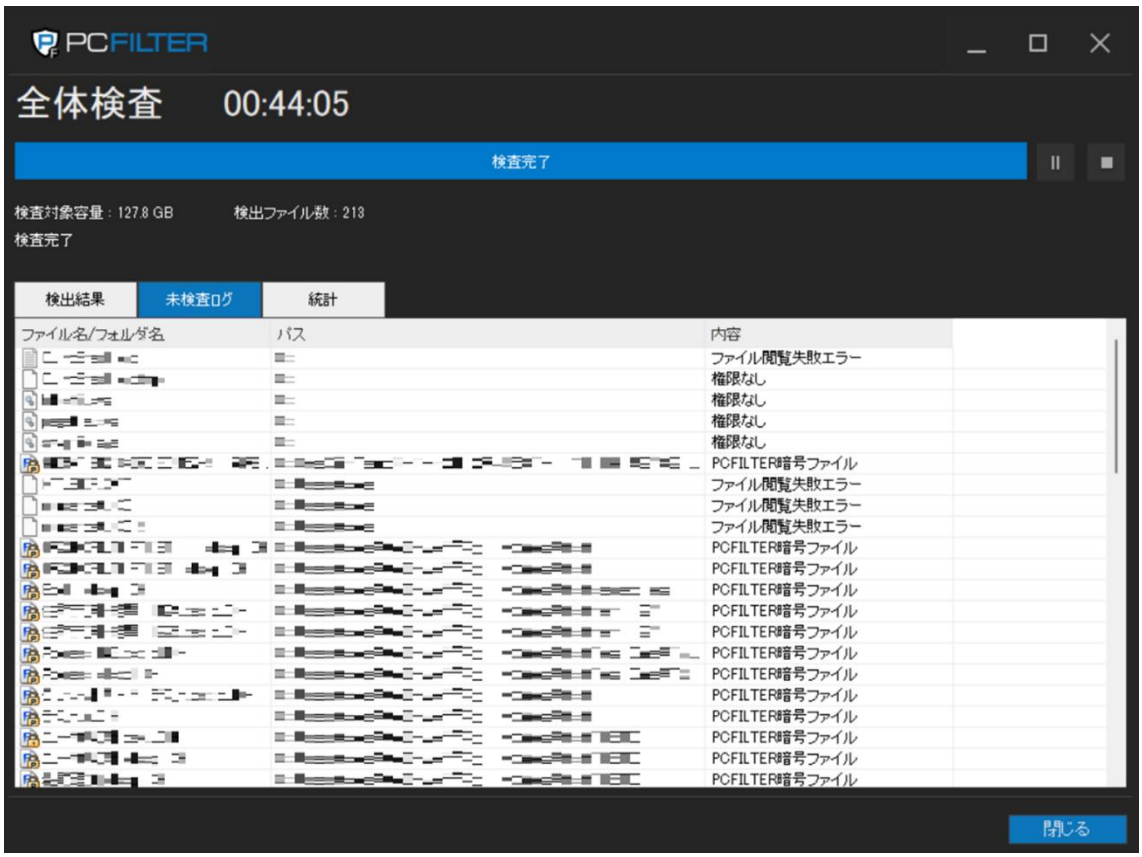
- ファイル（パス除く）：選択したファイルを次の検査から除外します。
  ※除外した後、移動されたファイル、またはコピーファイルに関しては除外されなくなりますのでご注意ください。
- ファイル（ハッシュ除く）：移動やコピーをしたハッシュデータが一致するファイルも含め次の検査から除外します。
  ※除外した後、移動されたファイル、またはコピーファイルに関してもハッシュデータが一致するのであれば除外対象となります。

- ファイル情報：検査から除外するファイルの情報を確認します。
- 事由：検査から除外するファイルの除外事由を記載します。(決裁者確認用)
- 除外期間設定：検査から除外する期間を設定します。
- 決裁者選択：ファイルの検査除外承認依頼する決裁者を選択します。
  （決裁者選択欄は設定により表示されない場合もあります。）

- ファイルのプロパティ：選択したファイルのプロパティ情報が表示されます。

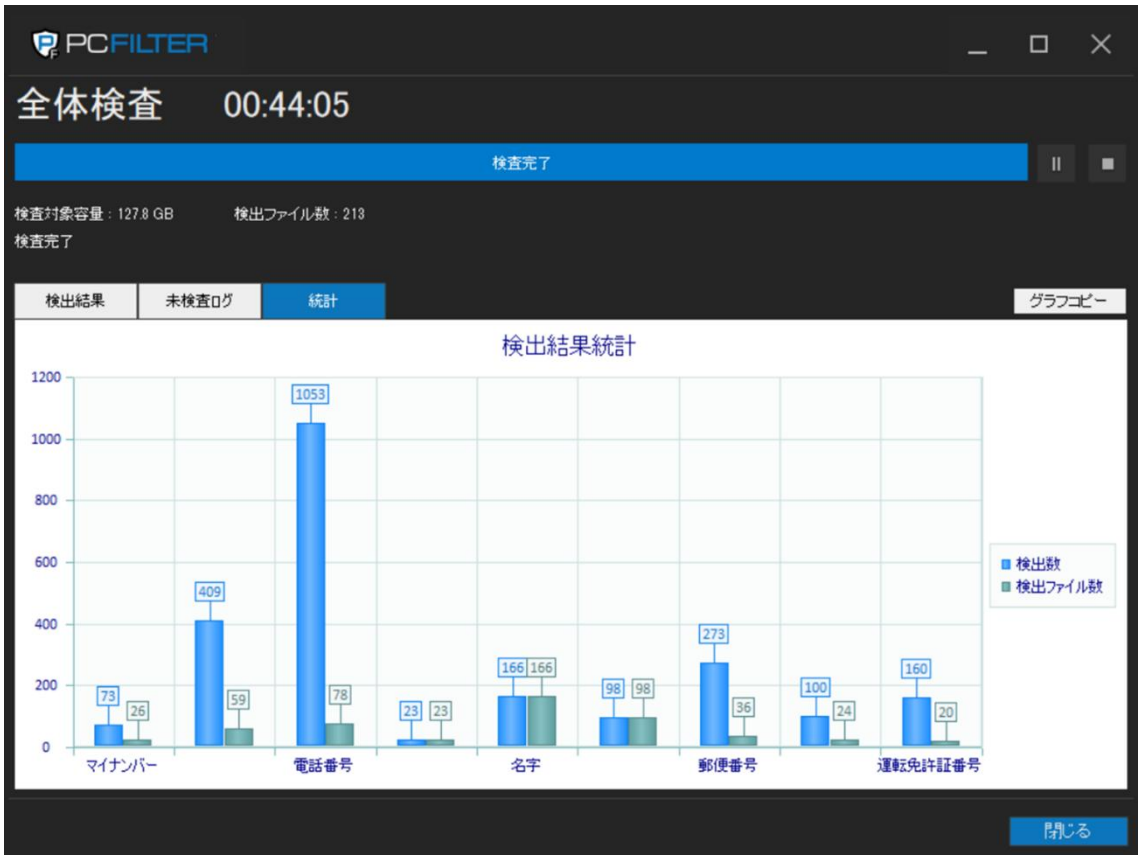
[未検査ログ]

該当検査で検査しなかったファイルのログ情報が表示されます。



[統計]

検出された個人情報別件数及び統計が表示されます。



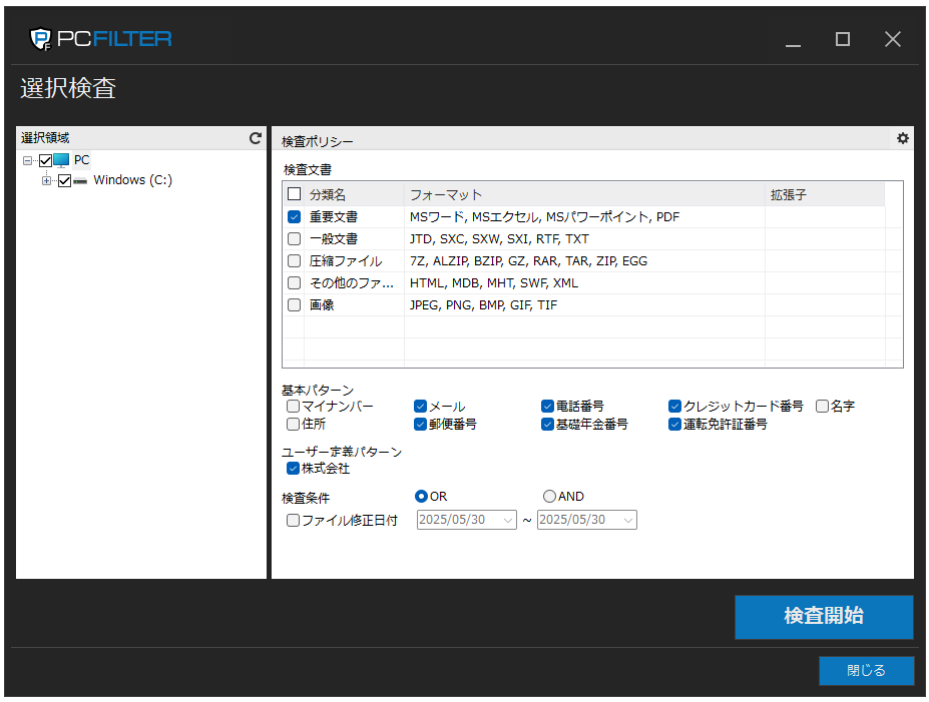
- グラフコピー：結果グラフをクリップボードにコピーします。

4.2.2. 選択検査

検査領域、検査ポリシー、個人情報の基本パターン、検査条件などをユーザーが設定して検査することが出来ます。

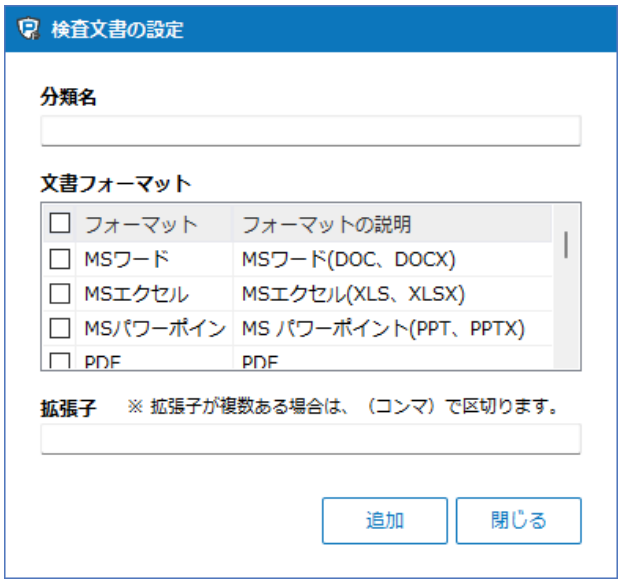
1.　ボタンを選択して、選択検査を開始します。

2.　検査する内容を設定します。

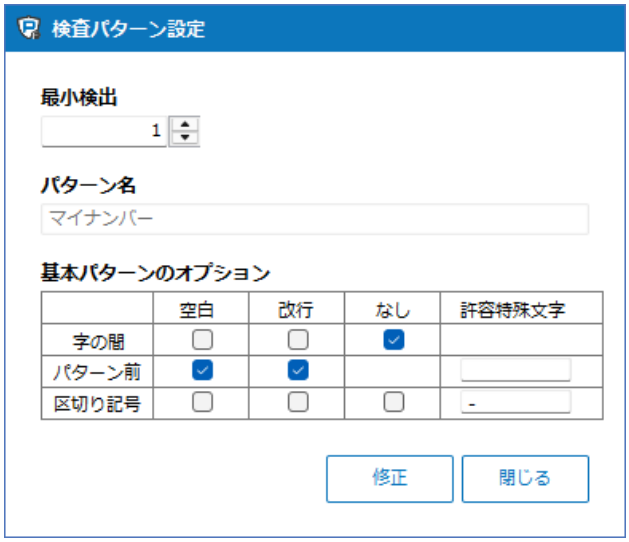


- 選択領域：検査を行う場所を選択します。
- ：ドライブ情報をリロードします。
- 検査ポリシー：検査を行う文書の詳細情報を選択します。
- 検査文書：検査する文書のフォーマットを選択します。
- 基本パターン：検査する個人情報パターンを選択します。
- ユーザー定義パターン：管理者やユーザーから追加した任意のキーワードを選択します。
- 検査条件：選択した検査パターン、ユーザー定義パターンがいずれかのキーワードを含むファイルを検査する場合は（OR）、すべてのキーワードを含むファイルを検査する場合は（AND）を選択します。
- ファイル修正日付：選択した日付で新規作成、または更新されたファイルのみを検査します。
- ：設定メニューを開きます。

- 検査文書：検査する文書のフォーマット項目が表示されます。
- 追加：文書の分類を新規追加します。



- 分類名：文書分類名を登録します。
- 文書フォーマット：追加する文書フォーマットを選択します。
- 拡張子：拡張子の追加が必要な場合本項目に入力します。
  ※ 拡張子が複数あれば「，（コンマ）」で区切ります。
- 修正：登録済みの検査文書フォーマット情報を修正します。
- 削除：登録済みの検査文書フォーマットを削除します。
- 基本パターン：検査する個人情報パターンが表示されます。
- 修正：登録された検査文書検査パターン情報を修正します。



- 最小検出：ファイル内に検出される個人情報の最小数を設定します。
  設定した数以上の個人情報を保有するファイルのみ検出します。

- パターン名：個人情報パターン名が表示されます。
- 基本パターンのオプション：
- 字の間：検査するパターン文字間に内の空白、改行有無を設定します。

  <各項目の設定例(マイナンバー番号)>

  「空白」選択：「12 3456789 012」　形式のデータを検出

  「エンター」選択：「12
3456789
012」　形式のデータを検出

  「無し」選択：「123456789012」　形式のデータを検出

- パターン前後：検査するパターンの前や後ろの包含有無を設定します。

  <各項目の設定例(マイナンバー番号)>

  「空白」選択：「123456789012 111122223333

  「エンター」選択：「123456789012
111122223333

  「許可特殊文字」入力(,の場合)：「123456789012, 111122223333」

- 区切り記号：電話番号や郵便番号などの間に使う区切り記号有無を設定します。

  <各項目の設定例(マイナンバー番号)>

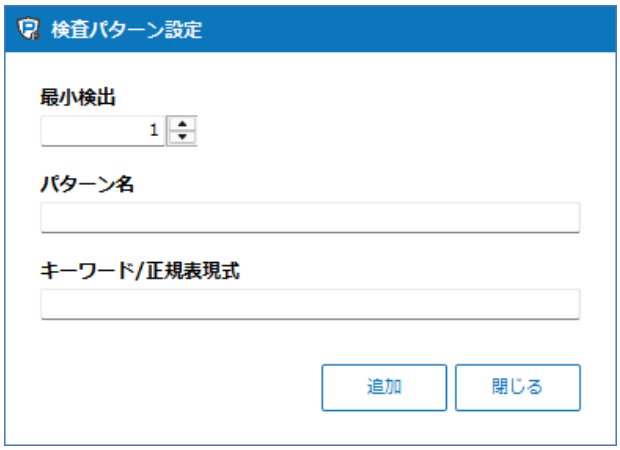
  「空白」選択：「1234 5678 9012」形式のデータを検出

  「エンター」選択：「1234
5678
9012」形式のデータを検出

  「無し」選択：「123456789012」形式のデータを検出

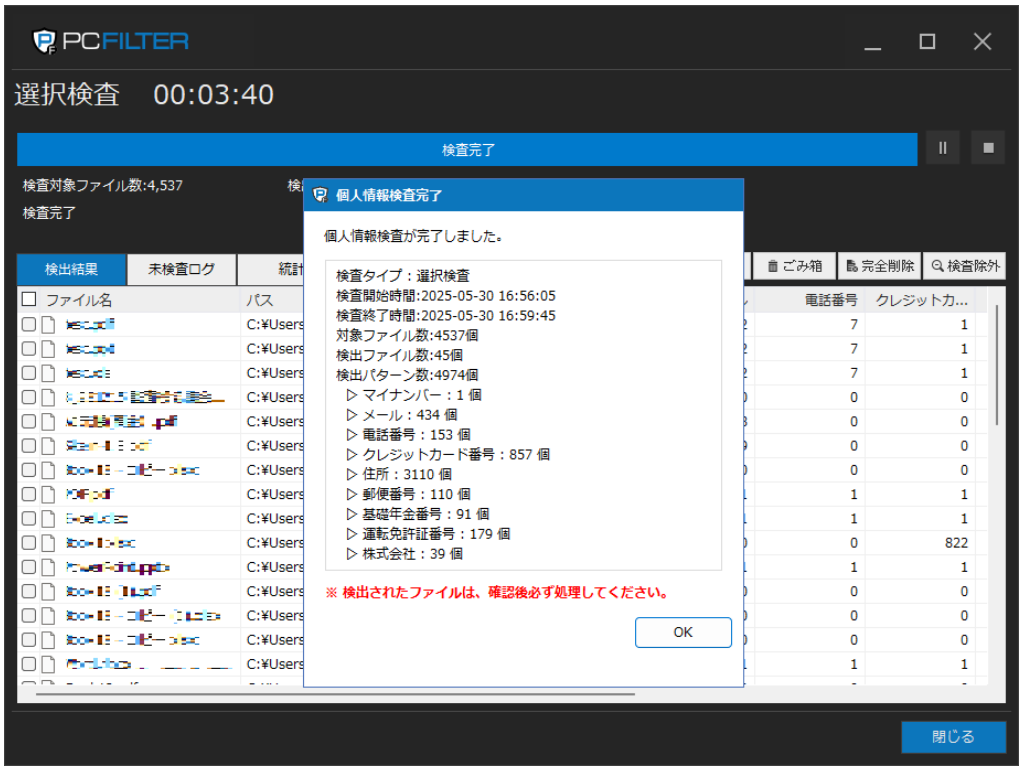
- ユーザー定義パターン：管理者が追加した任意のキーワードが表示されます。

- 追加：ユーザー定義パターンを追加します。



- 最小検出：ファイル内に検出される個人情報の最小数を設定します。
  設定した数以上のパターンを保有するファイルのみ検出します。
- パターン名：ユーザー定義パターン名を設定します。
- キーワード：キーワードを登録します。
- 修正：登録されたユーザー定義パターンを修正します。
- 削除：登録されたユーザー定義パターンを削除します。

3. 個人情報ファイルの検出結果を確認した後、保護処理します。

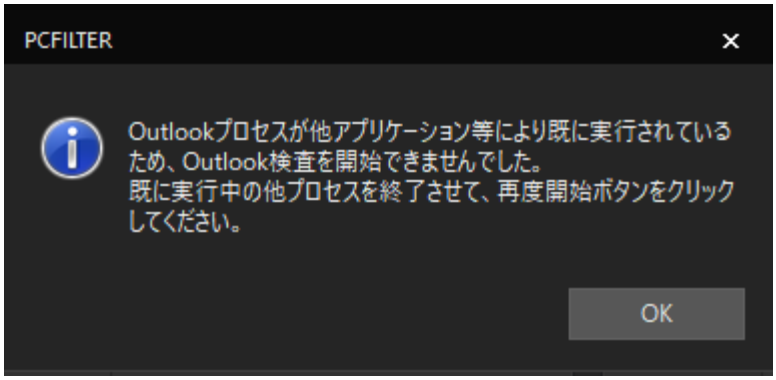


4.2.3. Outlook検査

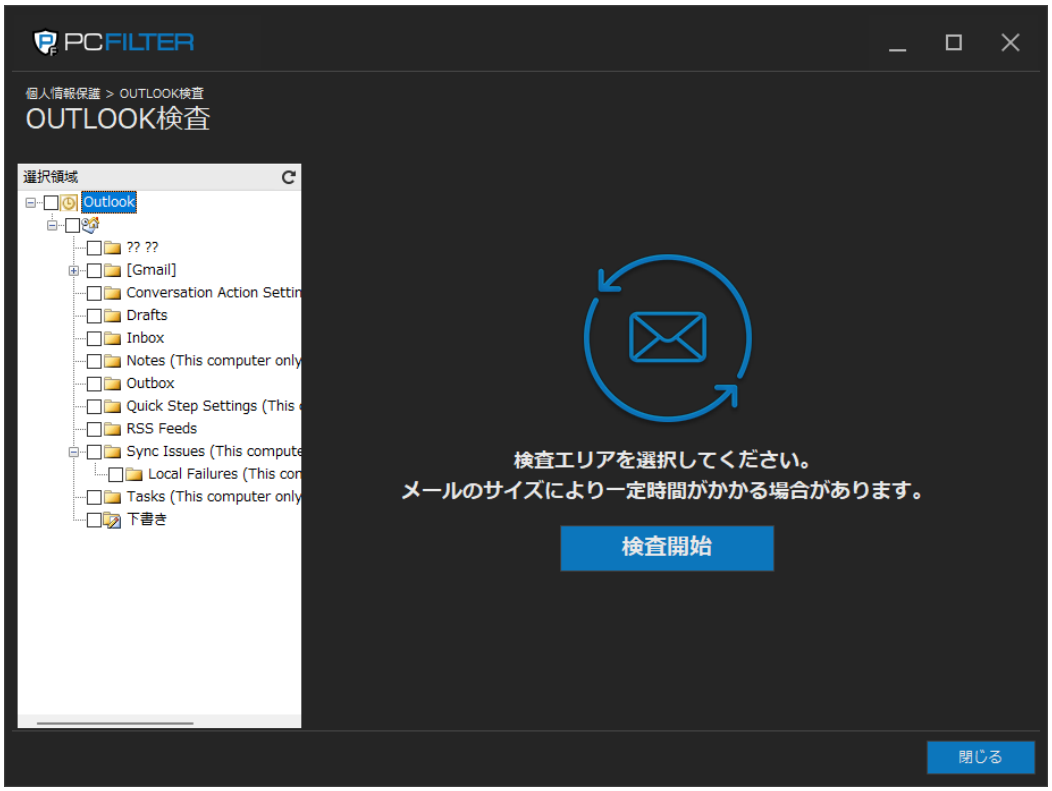
実行されている Outlook アプリケーションから保存されたメールのタイトル、本文、添付ファイル内の個人情報包含の有無を検査します。

1.　Outlook 検査ボタンを選択します。

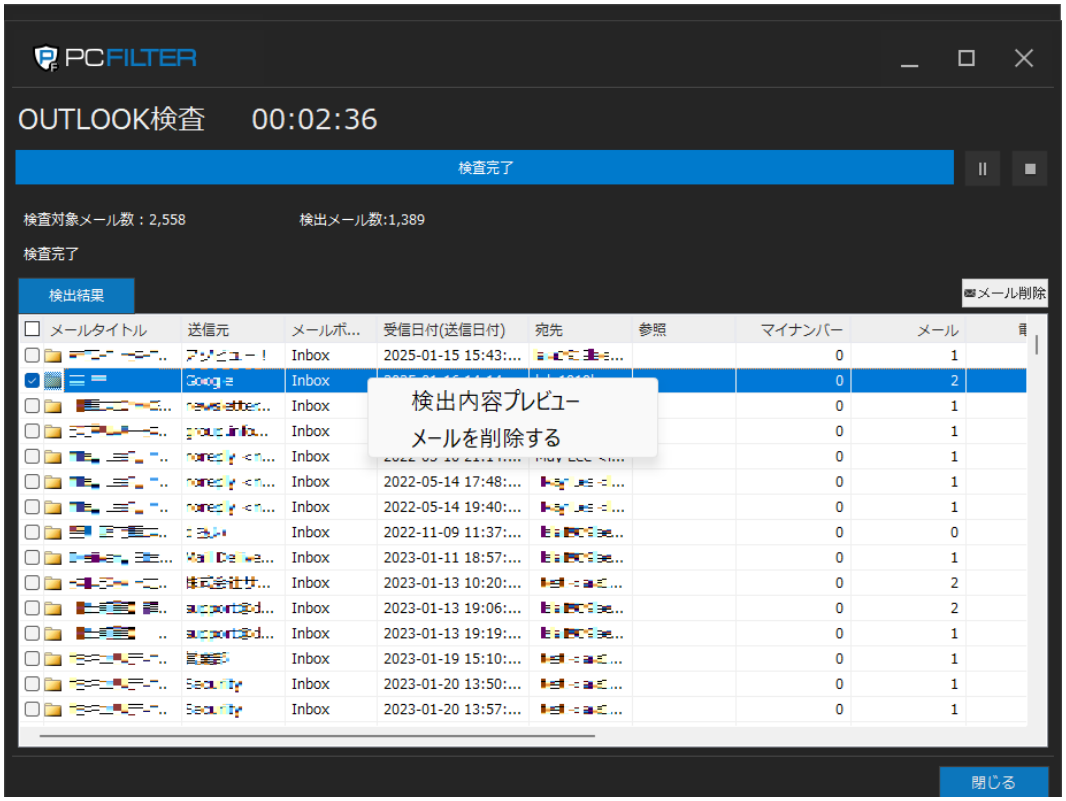
※Outlook プロセスが他アプリケーション等により既に実行されている場合、以下メッセージが表示され Outlook 検査を開始できません。既に実行中の Outlook プロセスを終了し、再度「Outlook 検査」を押下してください。



2.　選択領域：検査領域を選択して検査を開始します。



3.　Outlook 検査の検出情報が表示されます。



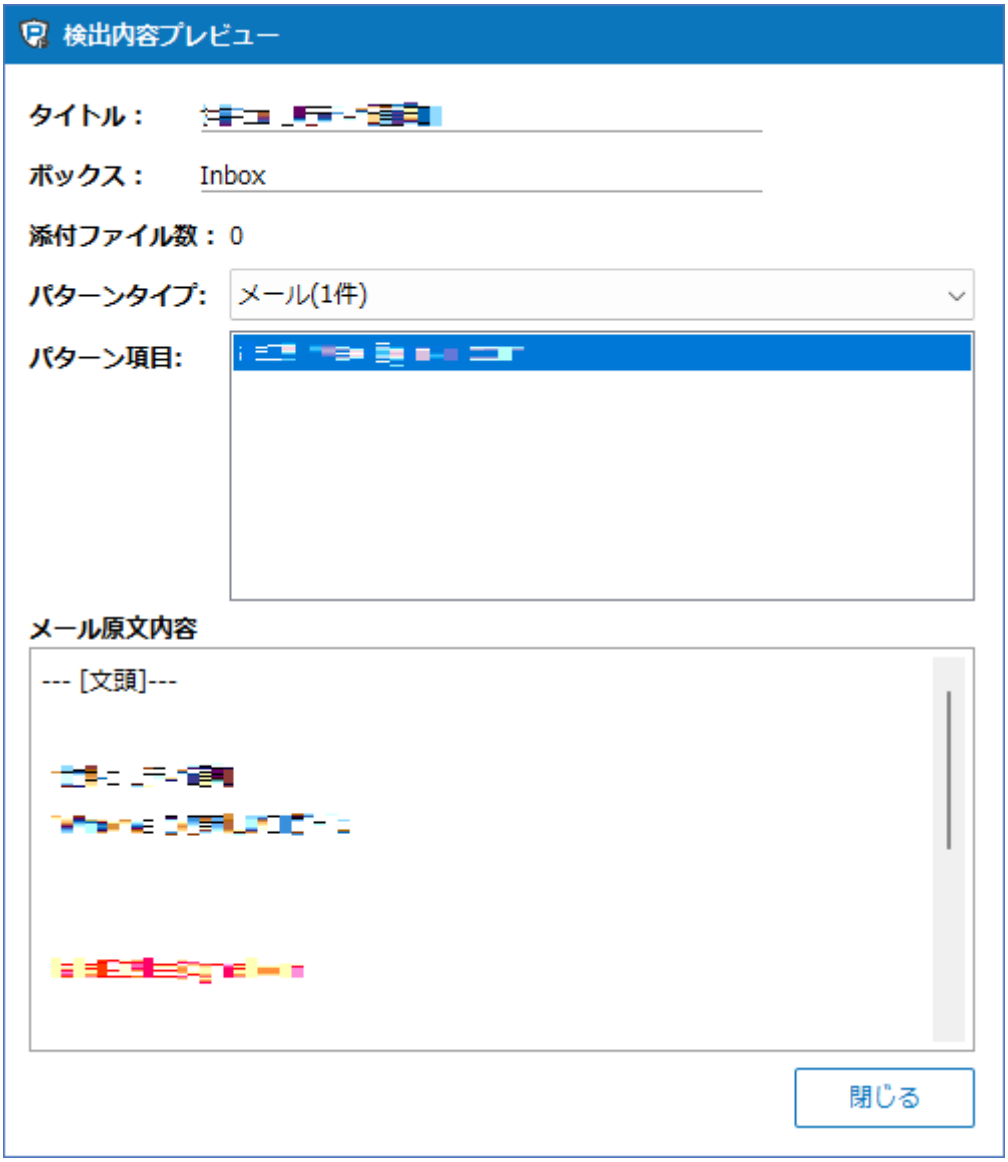
- OUTLOOK 検査のステータス：検査の進行時間および進行率が表示されます。

- ：進行中の全体検査を一時中止します。
- ('▶'再起動時に中止された検査から再実行します。)
- ：進行中の全体検査を中止します。
- ('▶'再起動時、最初から検査が行われます。)

- 検査対象メール数：検査するメール数が表示されます。
- 検出メール数：検査完了されたメール中、個人情報保有メール数が表示されます。
- 検査中：検査中のおよそのメールが表示されます。
- 検査結果：検査完了されたファイル中、個人情報保有内容が表示されます。
  個人情報保有メールをマウス右クリックし、確認します。
- メール削除：選択したメール内容を削除します。

4. 個人情報の検出結果を確認した後、マウス右クリックして、保護処理します。

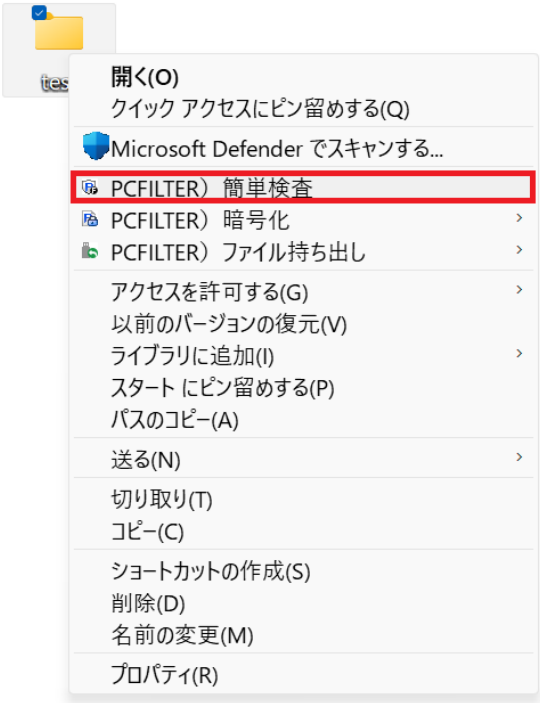
- 検出内容プレビュー：選択したファイルの検出内容が表示されます。



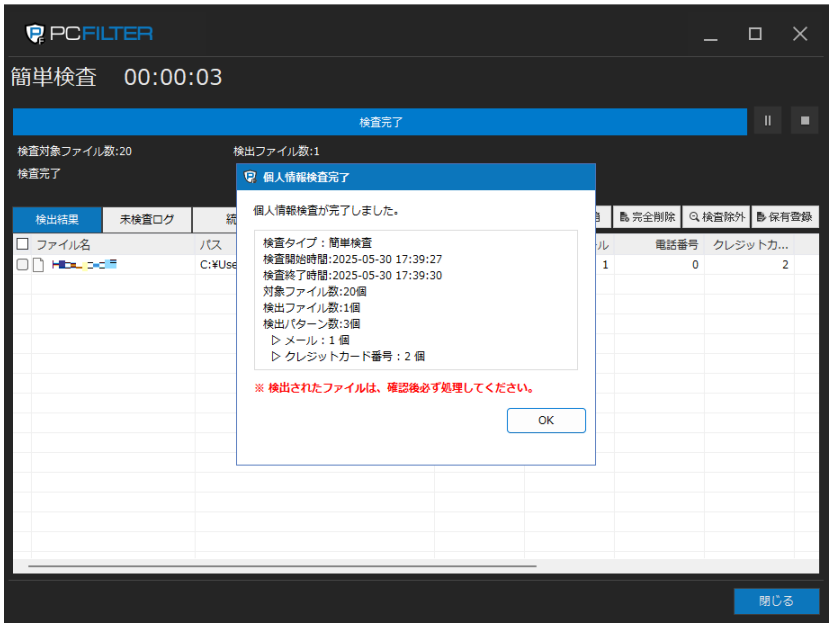
- タイトル：対象メールのタイトルが表示されます。
- ボックス：メールが保存されたボックスが表示されます。
- 添付ファイル数：メールに添付されたファイルの数が表示されます。
- パターンタイプ：検出された個人情報のパターンタイプおよび件数が表示されます。
- パターン項目：検出された内容の項目が表示されます。
- メール原文内容：メール原本内検出パターンの場所が表示されます。

4.2.4. 簡単検査

エージェントウィンドウを開くことなく、個別ファイルまたはフォルダに対して個人情報検査を簡単に行うことができます。



1. 個人情報検査が必要なファイルまたはフォルダにマウスを右クリックし、「PCFILTER） 簡単検査」を選択すると検査が実行されます。
2. 個人情報ファイルの検出結果を確認し、必要に応じて保護処理を行います。



4.2.5. 管理者検査

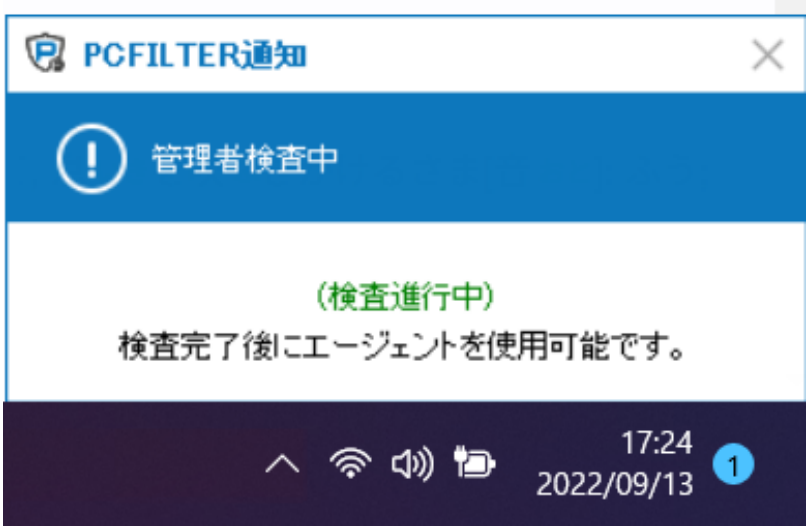
管理者が管理者検査を実行する場合、エージェントで管理者検査が実行されます。

手動開始、自動開始、通知可否は管理者が設定可能です。

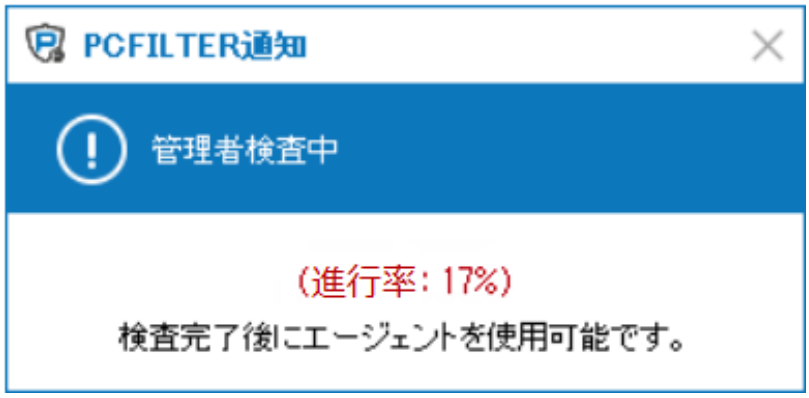
（※管理者検査時には検査が完了するまで使用者はエージェントを使用することができません。）

1. 「ユーザー確認後開始」に設定されている場合、ポップアップ画面で検査開始を押すと、管理者検査が開始されます。
2. 「通知後、自動開始」と設定されている場合、右下に管理者検査ポップアップが表示されます。

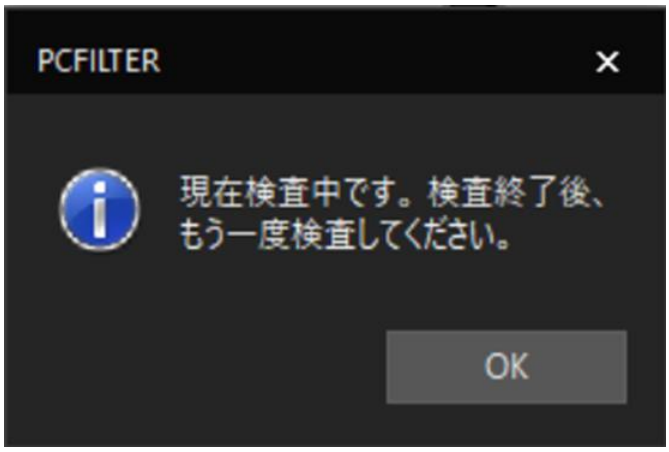
3.　「自動開始」と設定されている場合エージェント側で通知されることなく管理者検査が開始されます。



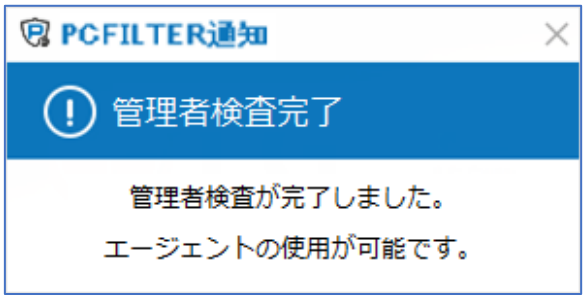
4.　エージェント実行時に進行率のポップアップが表示されます。

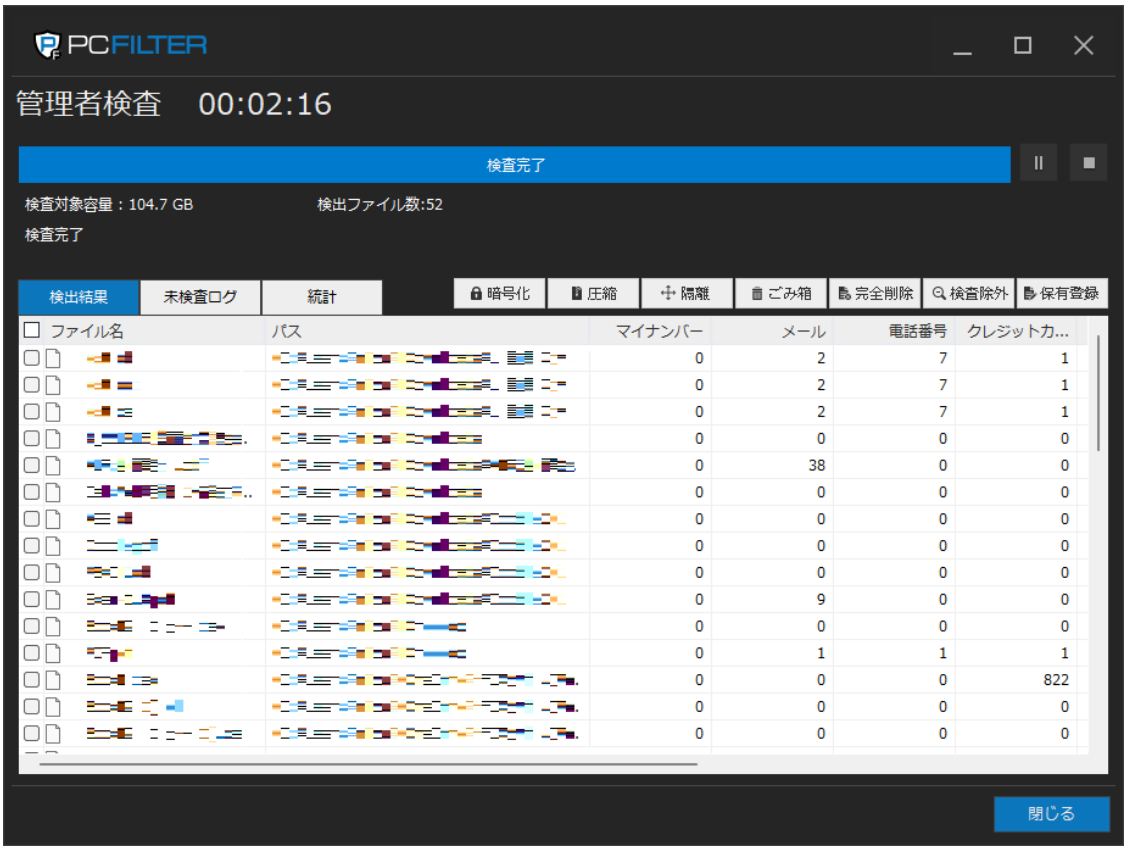


5.　管理者検査が進行中状態でエージェントを使用しようとすると、ポップアップが表示されます。



6.　管理者検査完了時、管理者の設定に従ってポップアップ通知や検査結果を確認できます。





4.3. 個人情報保護処理

個人情報が検出されたファイルは暗号化、完全削除、隔離などの処理機能を通じて安全に保護されます。

※ネットワークドライブ上のファイルは保護処理、および復号を行うことができません。

4.3.1. 個人情報ファイル　暗号化

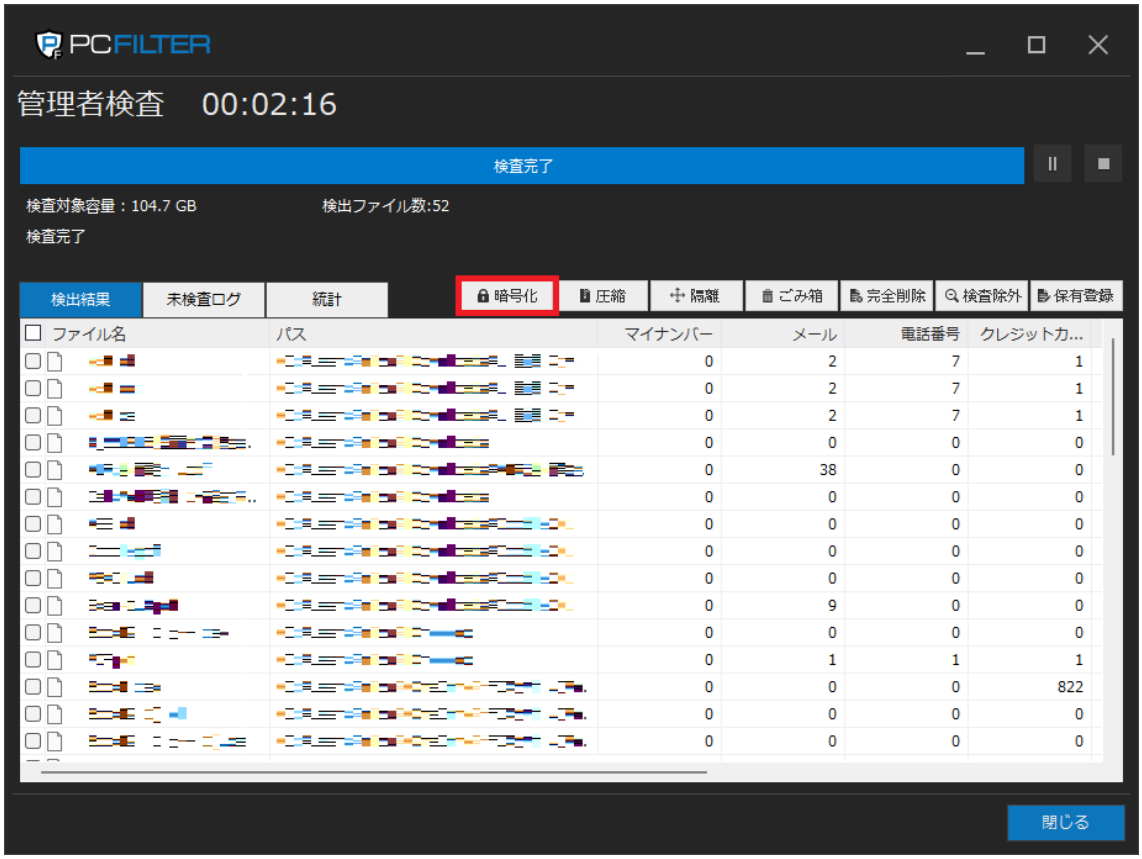
個人情報が含まれたファイルを安全に暗号化します。 暗号化されたファイルは、PCFILTER がインストールされている PC でのみ開くことができます。

※暗号化ファイルは管理者の指示に従い、ライセンス満了前に復号の対処をお願いいたします。

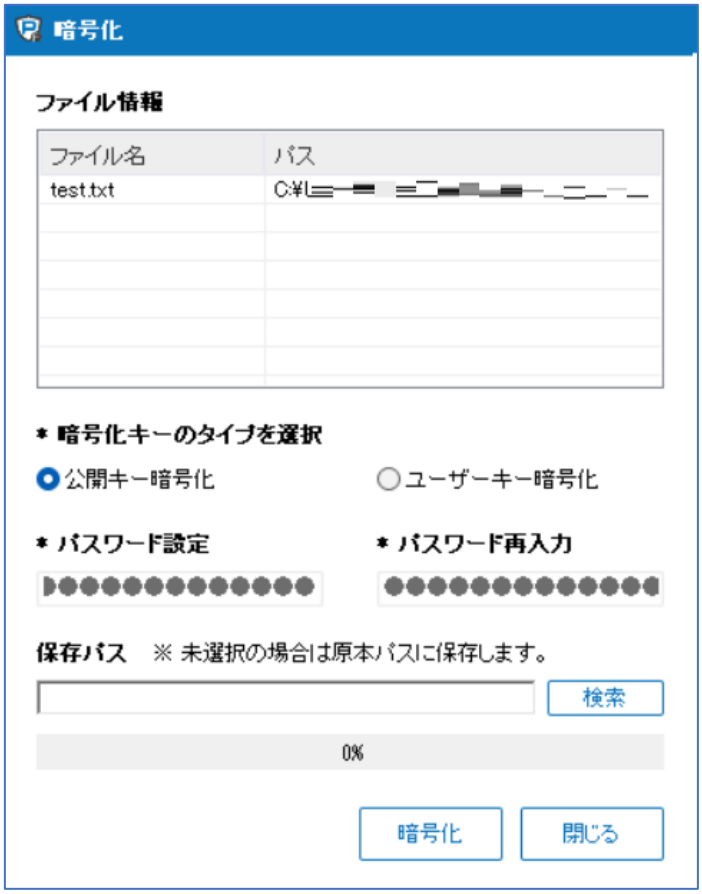
(復号の操作方法については 4.5 暗号化ファイル復号化をご参照ください。)

1.　検出状況やファイル保有状況から個人情報ファイルを選択し、「暗号化」をクリックします。

　※多数のファイルを一括暗号化すると、一つのファイルではなく個別ファイルで暗号化が進みます。

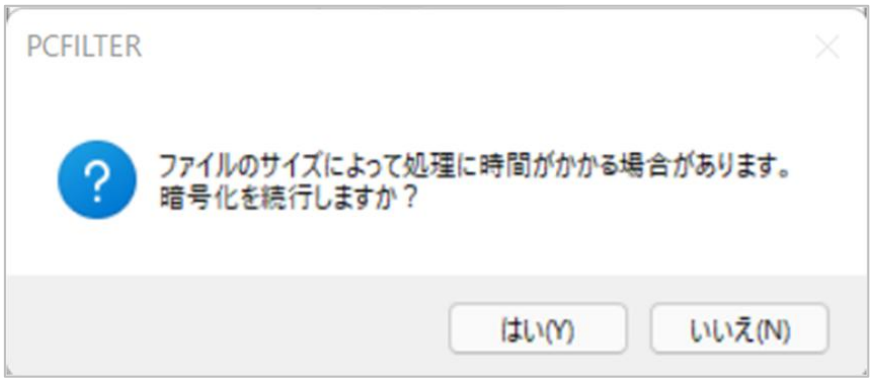


2.　選択したファイルを暗号化します。

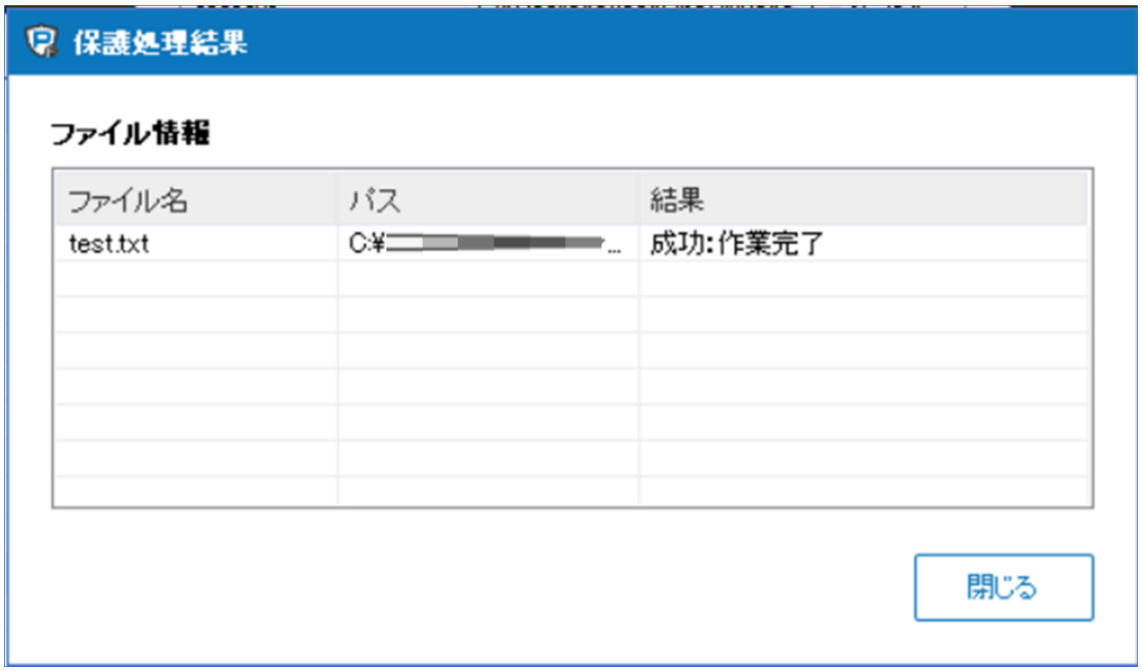


- ファイル情報：選択したファイルが暗号化されるファイルか、ファイル情報が表示されます。
- 暗号化キーのタイプを選択：暗号化するファイルの暗号化キータイプを選択します。
- 公開キー暗号化：PCFILTER 各ライセンスで共通のパスワードを用い暗号化します。同一ライセンスのユーザーであればパスワードの入力なしでファイルの復号化ができます。 PCFILTER ライセンスが異なる場合はファイルの復号化はできません。
  （公開キー暗号化したファイルは右クリックでユーザーキー暗号化に変換可能です。）
- ユーザーキー暗号化：ユーザーが入力したパスワードを用い暗号化します。PCFILTER を利用するユーザーであれば、対象のパスワードを用いファイルの復号化ができます。PCFILTER を利用しないユーザーはファイルの復号化はできません。
- パスワード設定：暗号化に使うパスワードを入力します。公開キー暗号化の場合は入力しません。
- 保存パス：暗号化ファイルの保存場所を指定します。
  （指定しない場合、元の場所に保存されます。）

- 暗号化：設定した値に従って暗号化を実行します。



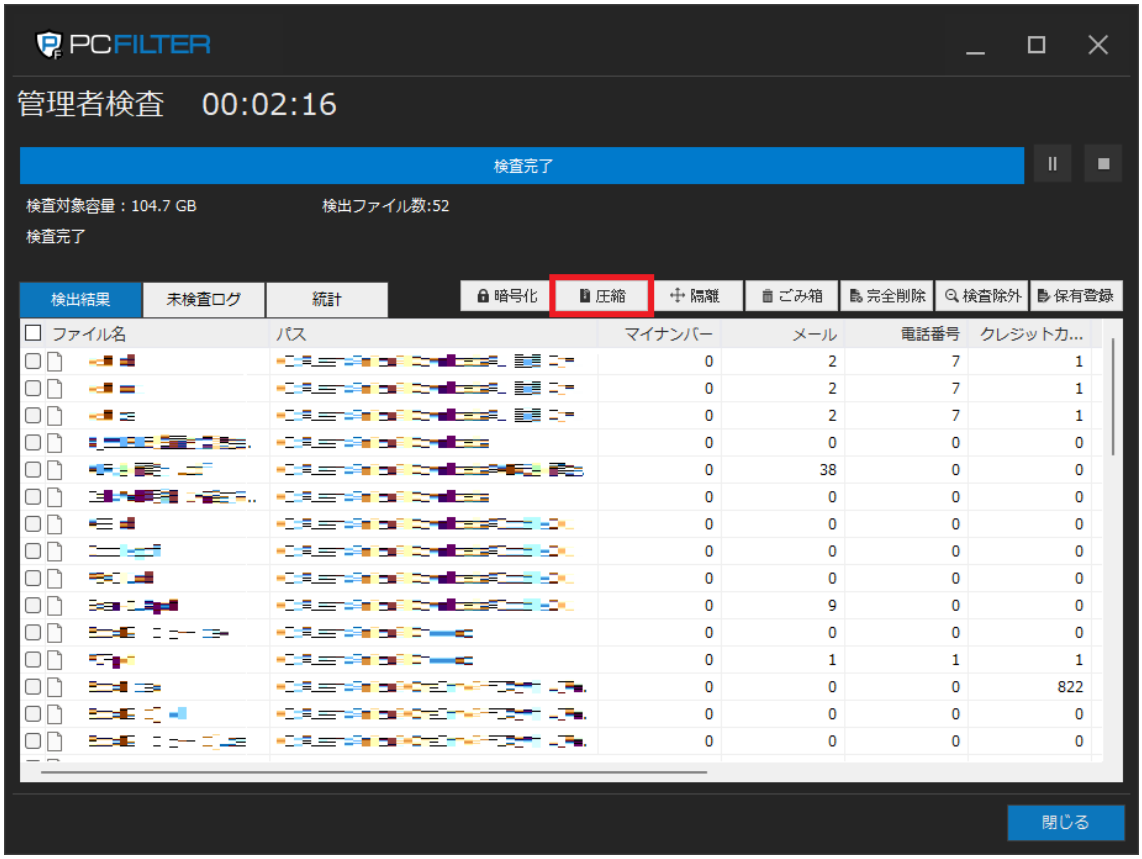
3. 選択したファイルの暗号化可否が表示されます。



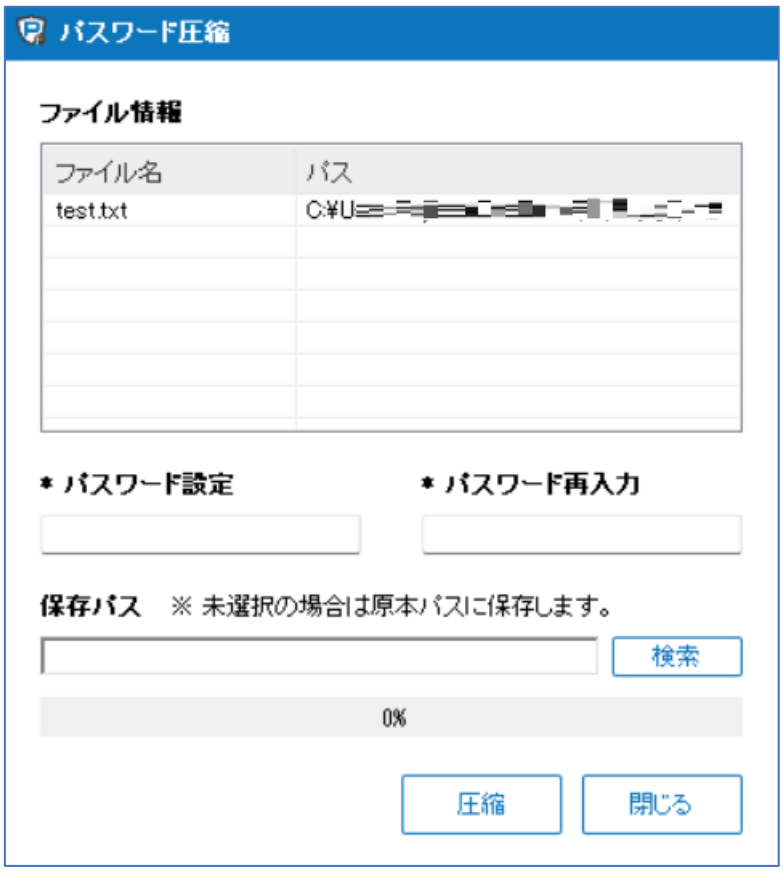
4.3.2. 個人情報ファイル パスワード圧縮

個人情報が含まれたファイルをパスワードが設定された圧縮ファイルとして保存します。

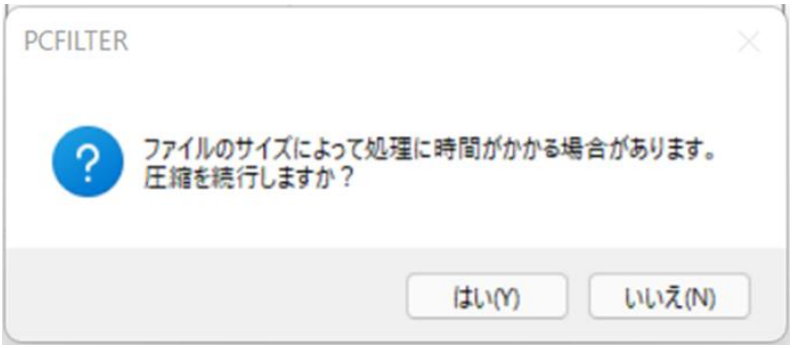
1. 検出状況やファイル保有状況から個人情報ファイルを選択し、圧縮を行います。



2.　選択したファイルをパスワードが設定された圧縮ファイルとして保存します。



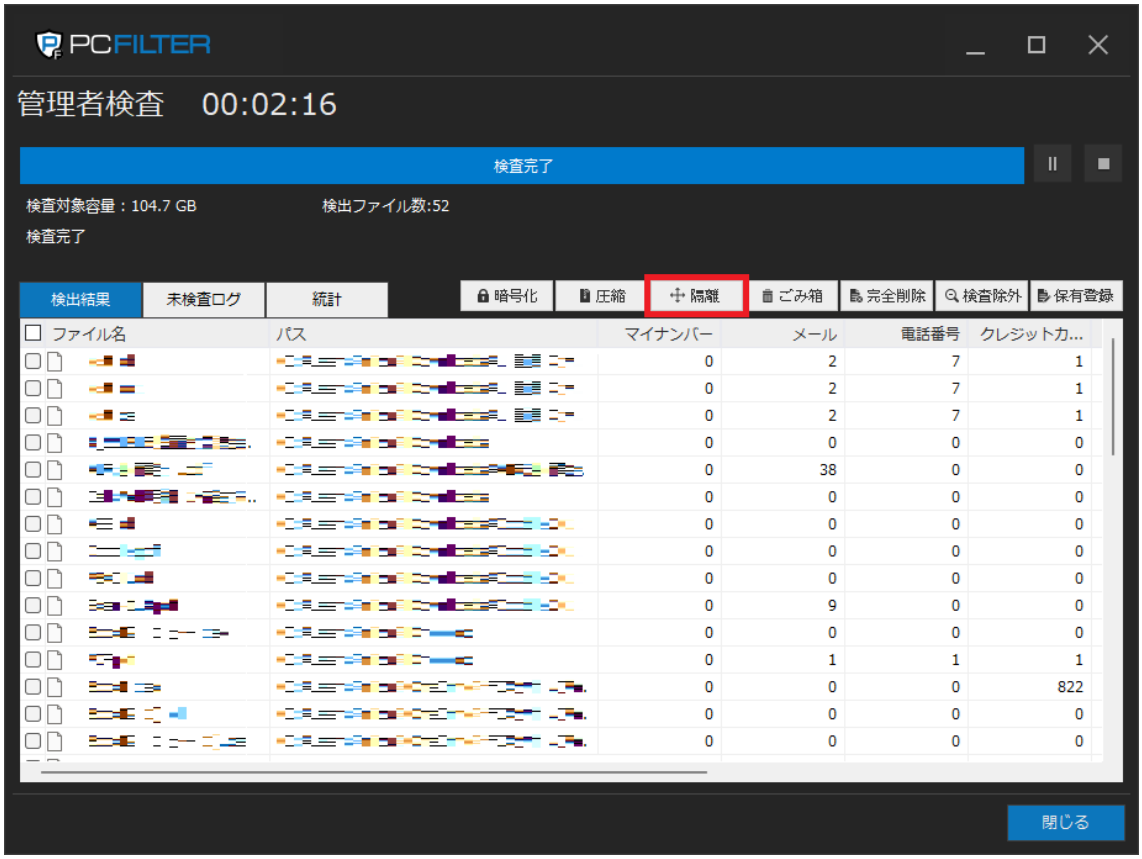
- ファイル情報：選択したファイルがパスワード圧縮対象ファイルであるかが表示されます。
- パスワード設定：圧縮するファイルのパスワードを設定します。
- 保存パス：圧縮ファイルの保存場所を指定します。
  （指定しない場合は、現在の場所に保存されます。）
- 圧縮：設定した値に応じてパスワード圧縮を実行します。
  （※多数のファイルを一括圧縮する場合、1 つのファイルではなく個別ファイルに圧縮されます。）



4.3.3. 個人情報ファイル 隔離

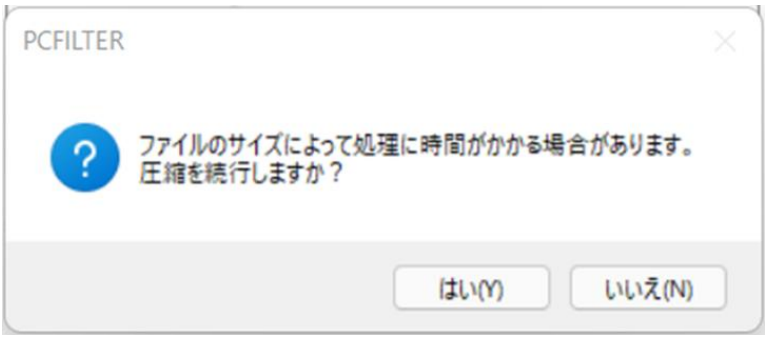
個人情報が含まれたファイルを使えないように隔離フォルダに移動します。

1. 隔離したい個人情報ファイルを検出結果から選択し、隔離を行います。

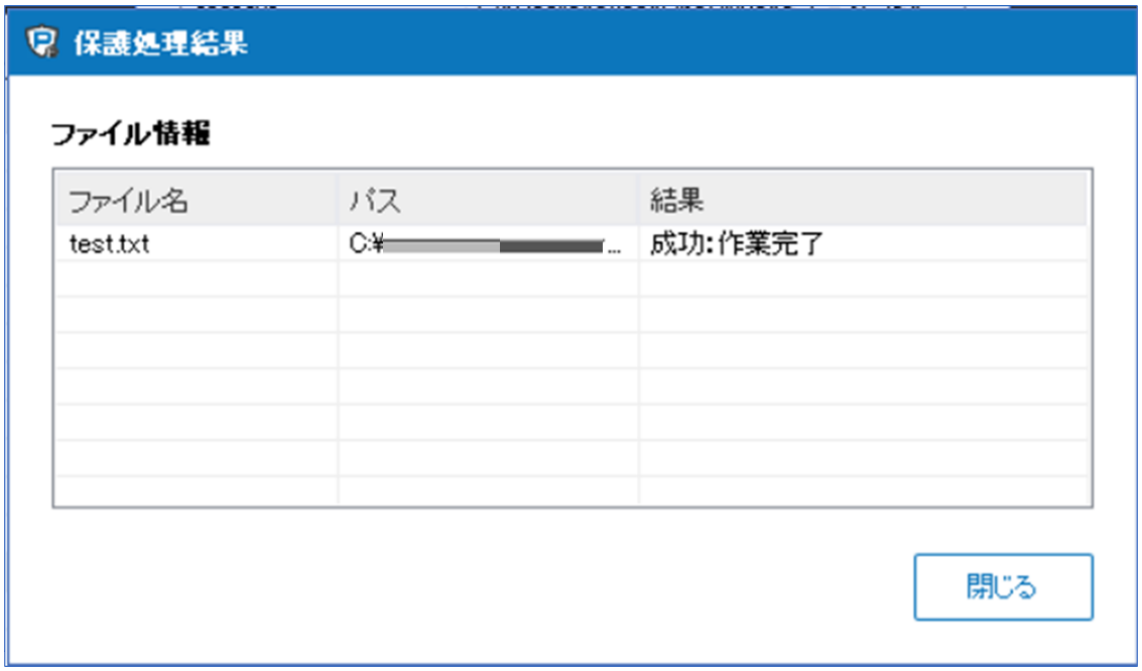


2. 選択したファイルを隔離します。

- ファイル情報：隔離対象ファイルが表示されます。
- 隔離：選択ファイルの隔離を実行します。



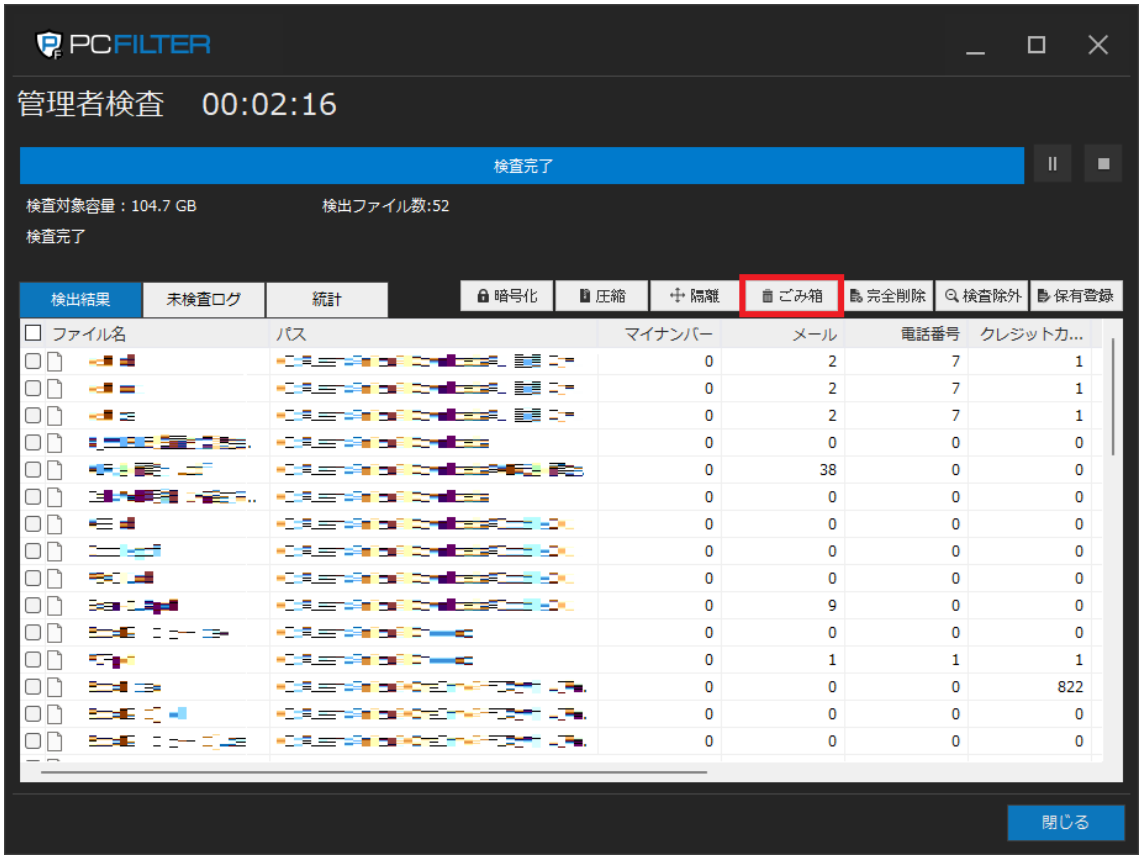
3. 選択したファイルの隔離可否が表示されます。



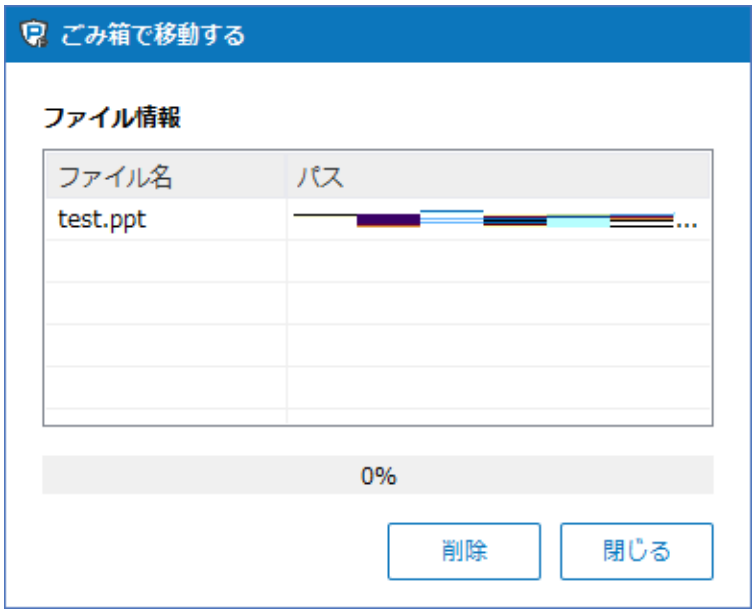
4.3.4. 個人情報ファイル ごみ箱移動

使わない個人情報が含まれたファイルをごみ箱に移動します。

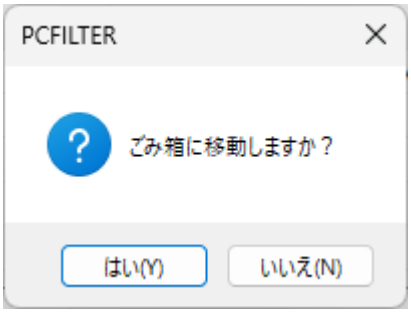
1. 個人情報ファイルを検出状況から選択し、ごみ箱をクリックします。



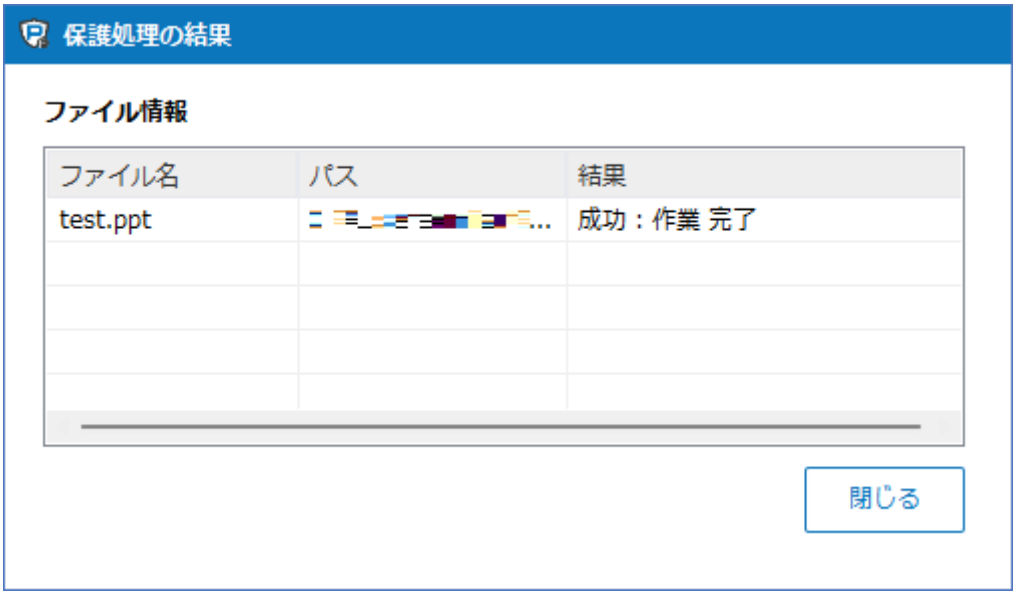
2. 選択したファイルをゴミ箱に移動します。



- ファイル情報：選択されたファイルがごみ箱への削除対象ファイルであるかが表示されます。
- 削除：選択ファイルのごみ箱への削除を実行します。



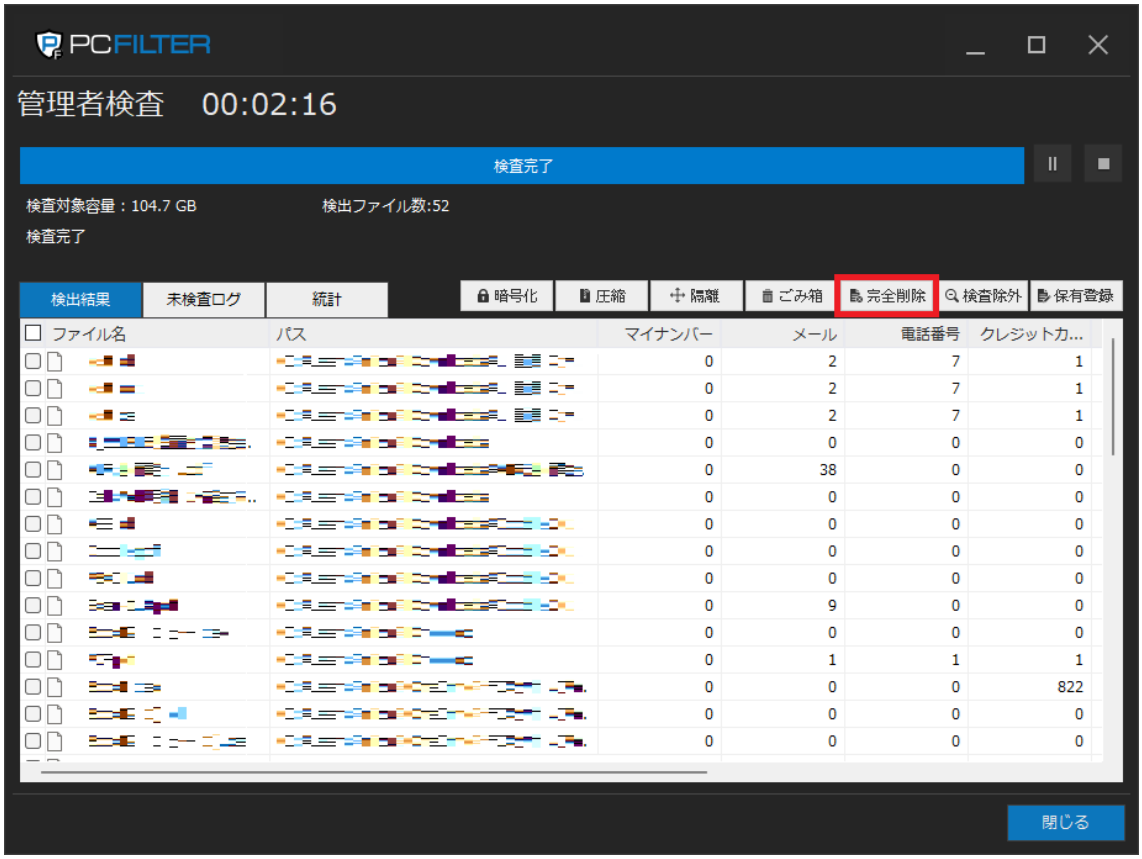
3. 選択したファイルのごみ箱への削除可否が表示されます。



4.3.5. 個人情報ファイル 完全削除

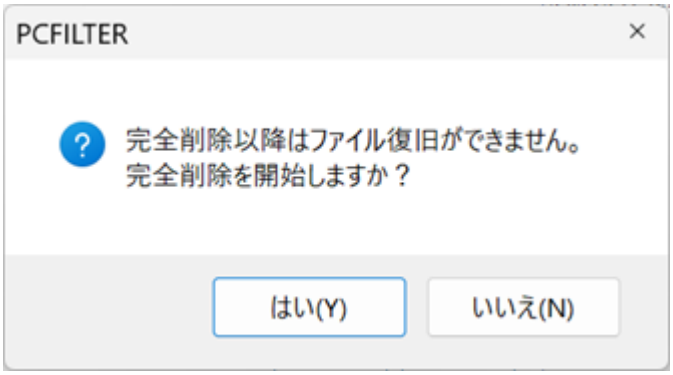
個人情報が含まれたファイルを完全に削除します。 完全に削除されたファイルは復旧できません。

1. 個人情報ファイルを検出状況から選択し、「完全削除」をクリックします。

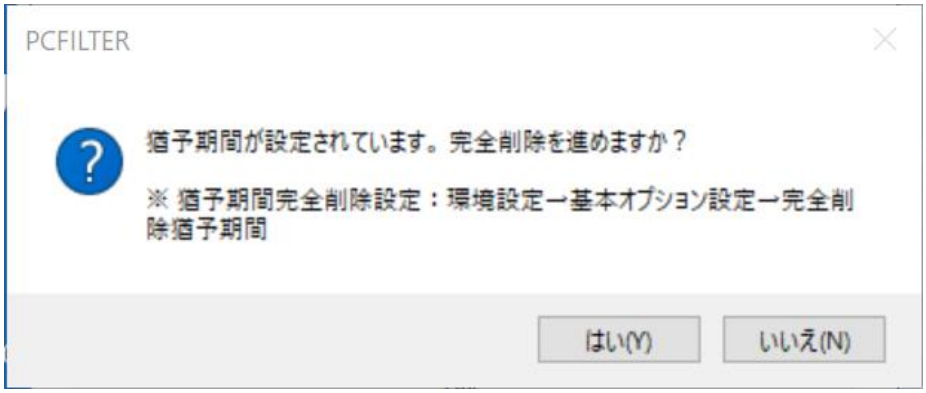


2. 選択したファイルを完全に削除します。

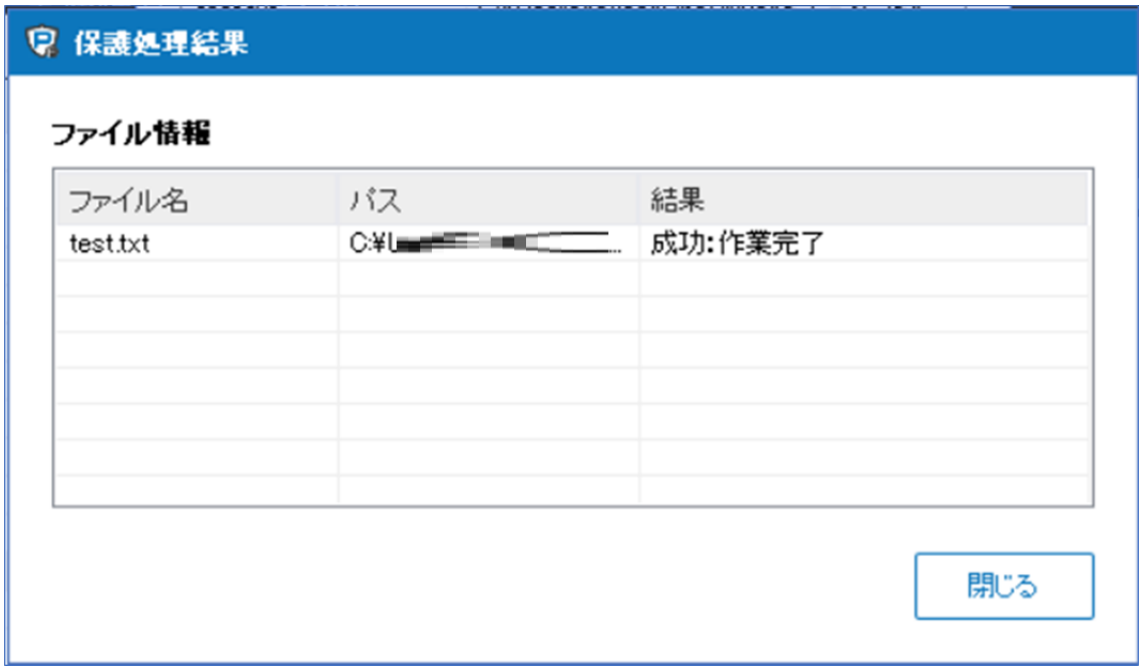
- ファイル情報：選択したファイルが完全削除対象ファイルであるかが表示されます。
- 完全削除：選択したファイルの完全削除を実行します。



（猶予期間が設定されている場合は、すぐに削除されず、削除猶予ファイルに区分されます。）



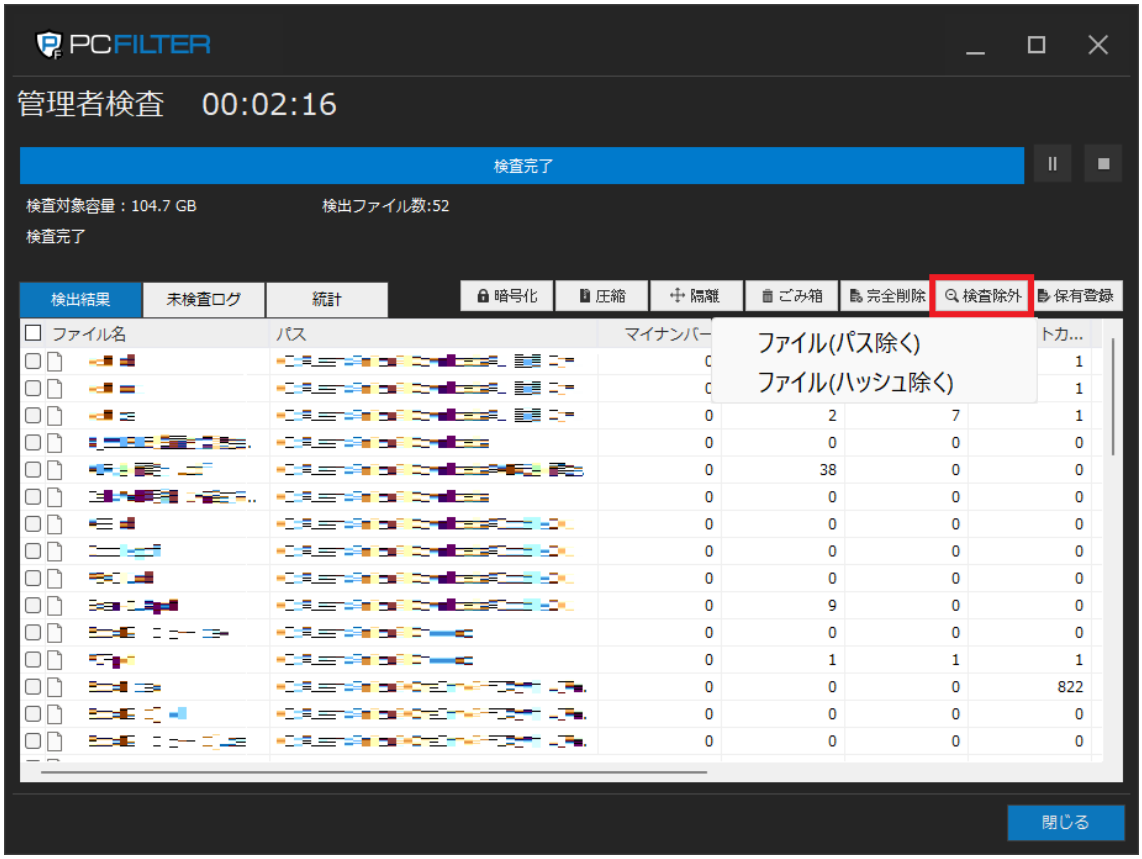
3. 選択したファイルの完全削除可否が表示されます。



4.3.6. 個人情報ファイル 検査除外

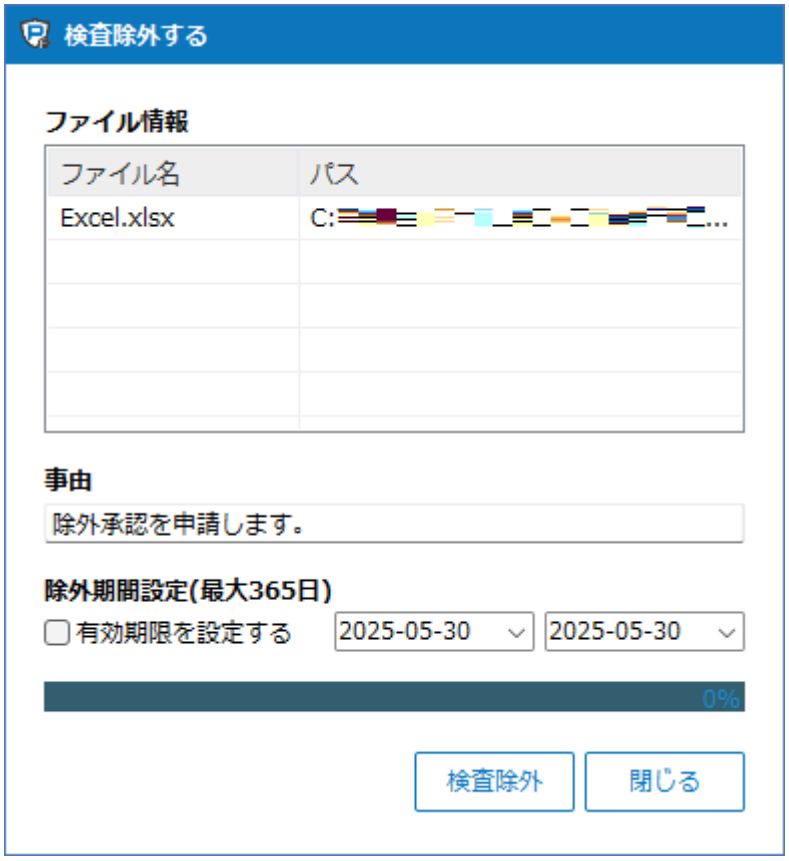
個人情報保有ファイルを次回の検査から検出されないように除外設定します。

1. 個人情報ファイルを検出状況から選択し、 検査除外をクリックします。

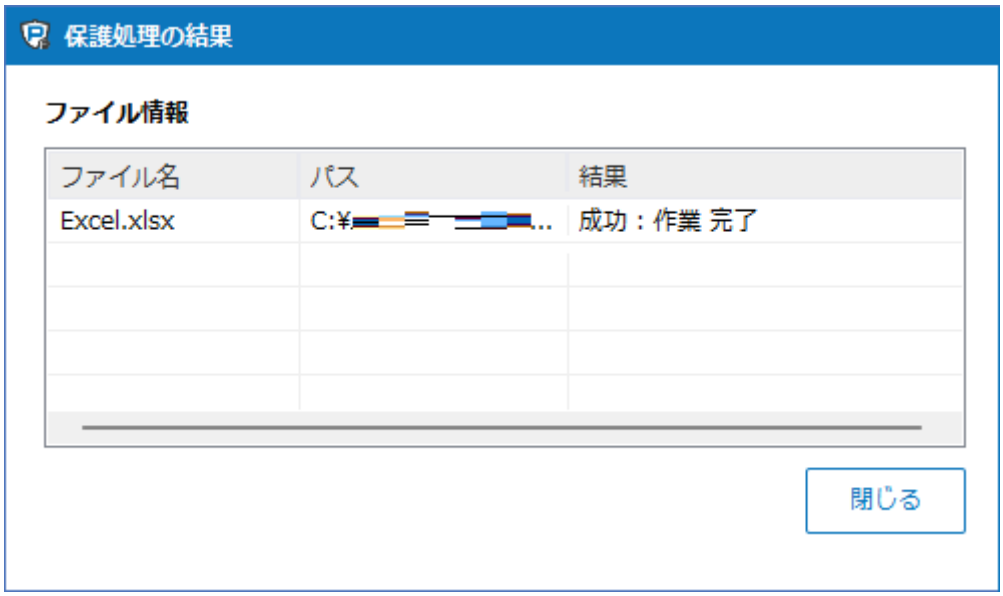


- ファイル（パス除く）：選択したファイルを次の検査から除外します。
  ※除外した後、移動されたファイル、またはコピーファイルに関しては除外されなくなりますのでご注意ください。
- ファイル（ハッシュ除く）：移動やコピーをしたハッシュデータが一致するファイルも含め次の検査から除外します。
  ※除外した後、移動されたファイル、またはコピーファイルに関してもハッシュデータが一致するのであれば除外対象となります。

2.　個人情報ファイルを除外登録します。

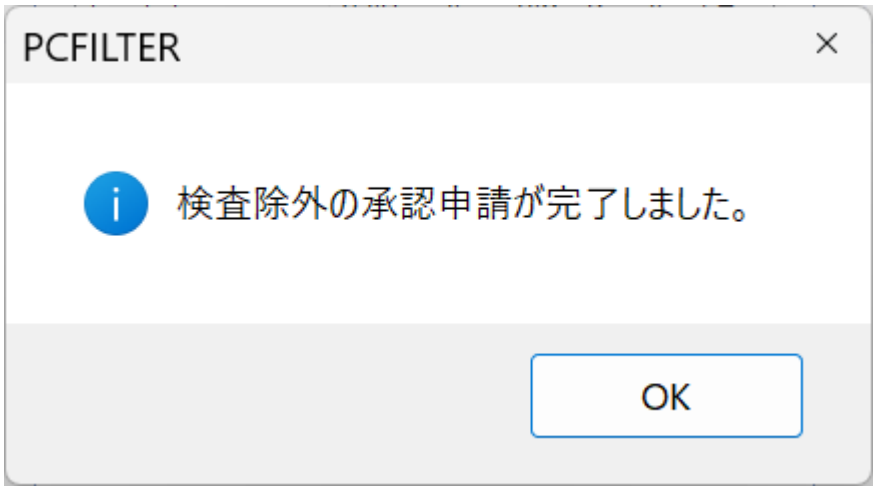


- ファイル情報：選択したファイルを確認します。
- 事由：除外理由を記載します。
- 除外期間設定(最大 365 日)：検査から除外する期間を選択します。
- 検査除外：選択したファイルの除外可否が表示されます。



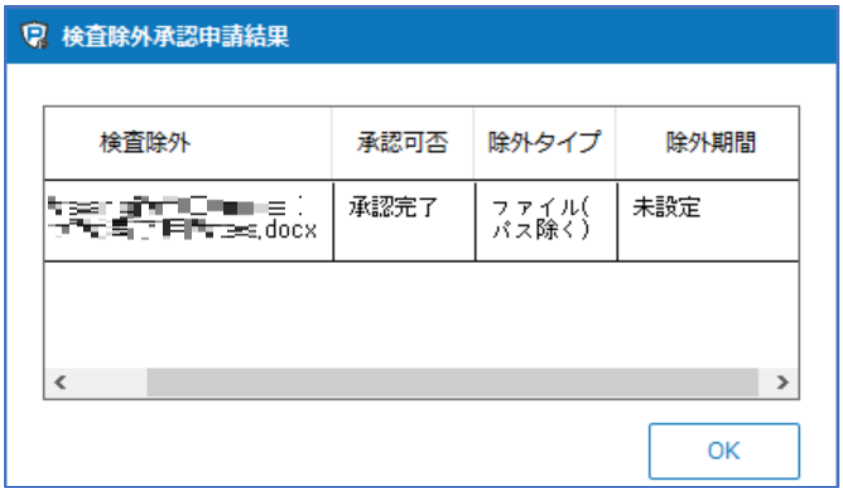
3. 管理者設定により、除外する時承認が必要になる場合があります。
その場合、決裁者を選択する項目が表示されます。

- 除外承認申請：選択した管理者に承認申請します。



4.　決裁者が処理した承認申請に対する結果がポップアップ表示されます。

- 該当フォルダ：承認申請したファイルの場所に移動します。
- 見る：承認結果に対する詳細を見ます。

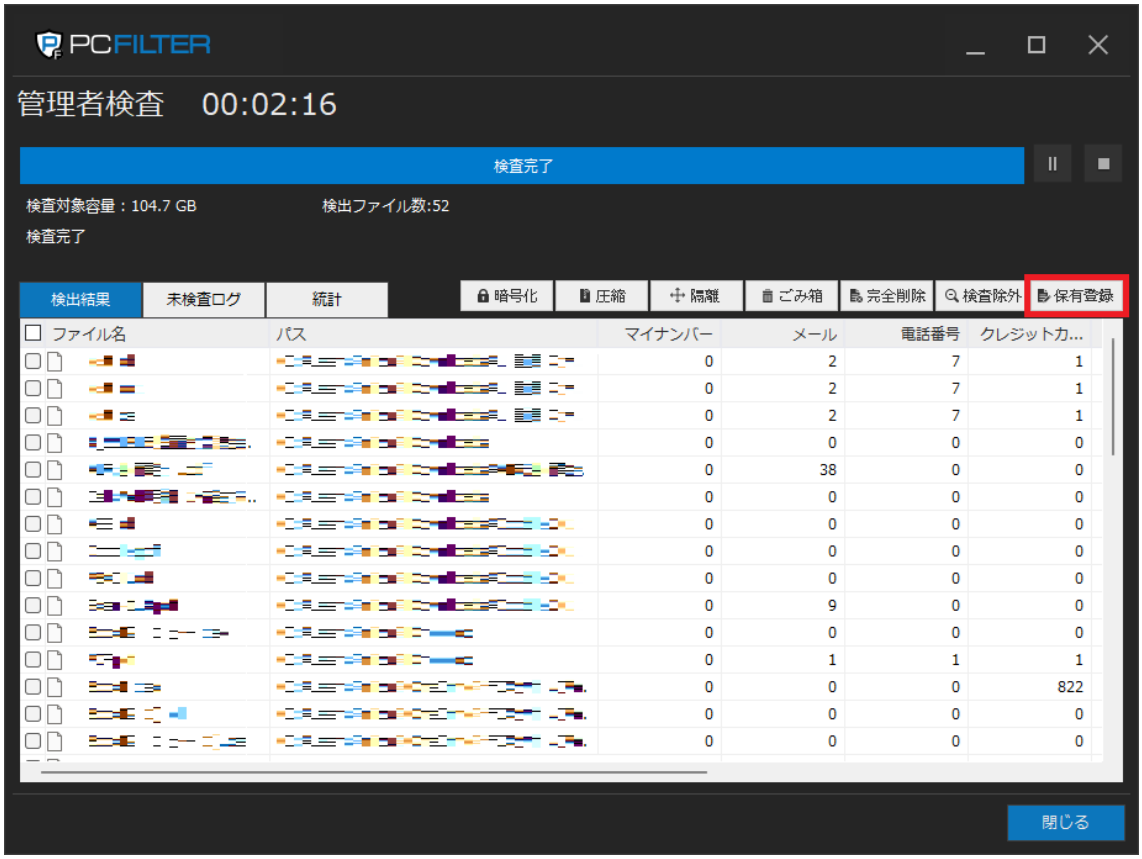


- 検査除外：承認申請したファイルの場所とファイル名が表示されます。
- 承認可否：承認結果を表示します。
- 除外タイプ：検査除外のタイプ（パス除外、ハッシュ除外）が表示されます。
- 除外期間：承認完了時に保有期間を表示します。
  (期限が過ぎると、管理者が設定した方法で強制処理されます。)

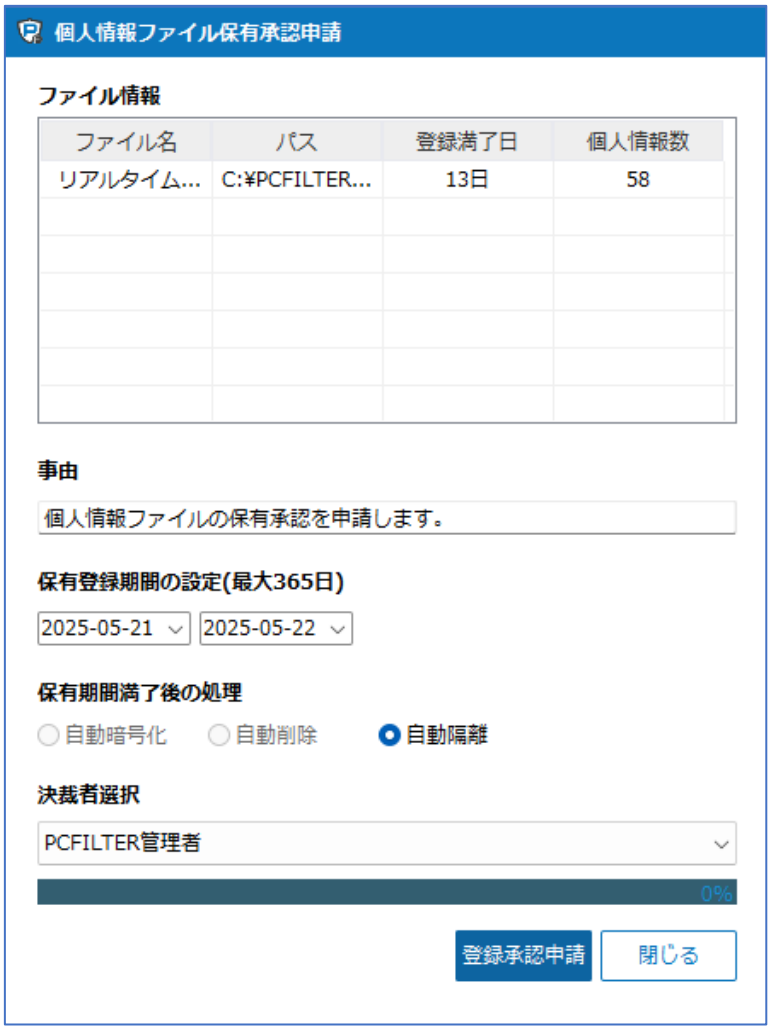
4.3.7. 個人情報ファイル 保有登録

個人情報保有ファイルを暗号化せず使用する必要がある場合は、管理者の許可を得て使用し、必要な期間保有した後は管理者が設定した保護処理が自動的に行われます。

1. 個人情報ファイルを検出状況から選択し、 保有登録をクリックします。



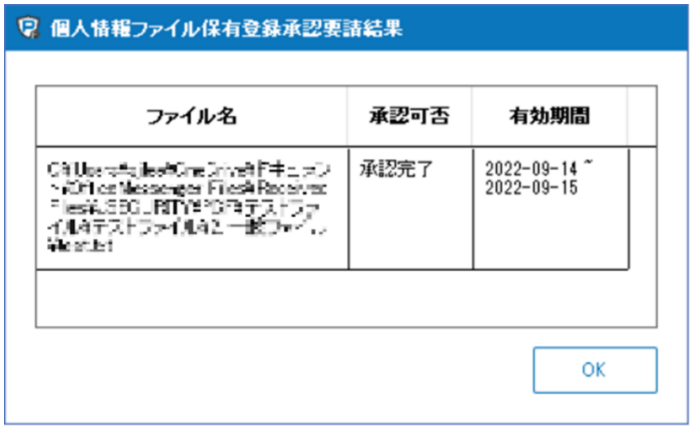
2.　選択したファイルを保有登録します。



- ファイル情報：選択したファイルが保有登録対象ファイルであるかが表示されます。
- 事由：決裁者に確認してもらうための保有登録事由を入力します。
- 保有登録期間　設定(最大 365 日)：保有登録期間を選択します。
- 保有期間満了後の処理：保有期間満了後の処理を選択します。
- 決裁者選択：決裁者を選択します。
- 登録承認申請：保有登録申請をします。

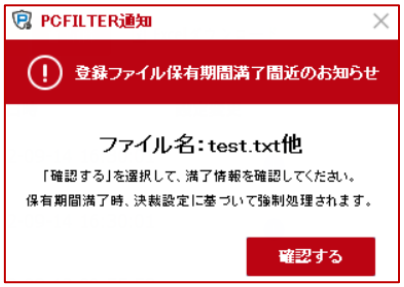
3.　決裁者が処理した承認申請に対する結果がポップアップ表示されます。

- 該当フォルダ：承認申請したファイルの場所に移動します。
- 見る：承認結果に対する詳細を見ます。



- ファイル名：承認申請したファイルの場所とファイル名が表示されます。
- 承認可否：承認結果を表示します。
- 有効期間：承認完了時に保有期間を表示します。
  (期限が過ぎると、管理者が設定した方法で強制処理されます。)

4.　保有登録したファイルの保有期間満了間近になると、通知ポップアップが表示されます。
確認ボタンを押すと、ファイルの保有状況に移動します。
(ファイルの保有状況については 4.7.5.　保有登録ファイルをご参照ください。)



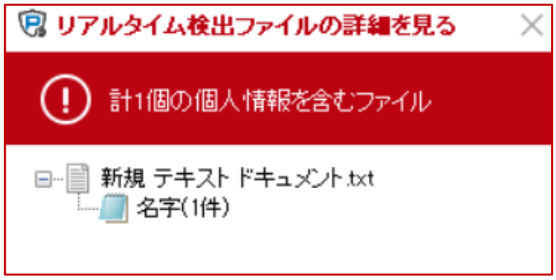
4.4. リアルタイム検査

ユーザーが知らないうちに漏洩する可能性がある個人情報ファイルをリアルタイムモニタリングおよび通知で注意喚起し、個人情報を取り扱っていることを通知し、その保護処理を誘導します。

1. 個人情報を安全に保護するためにリアルタイム検査をオンにします。

2. 個人情報ファイルを開く、保存(コピー)、送信行為時にリアルタイム通知が表示されます。「確認する」を選択して詳細表示に移動します。

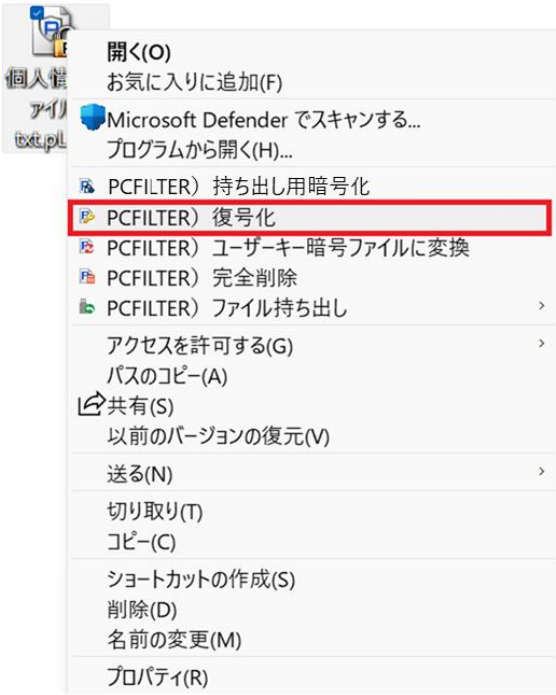
3. 個人情報のタイプおよび検出数が表示されます。
(ファイル名から右マウスをクリックして検出内容の確認が可能です。)



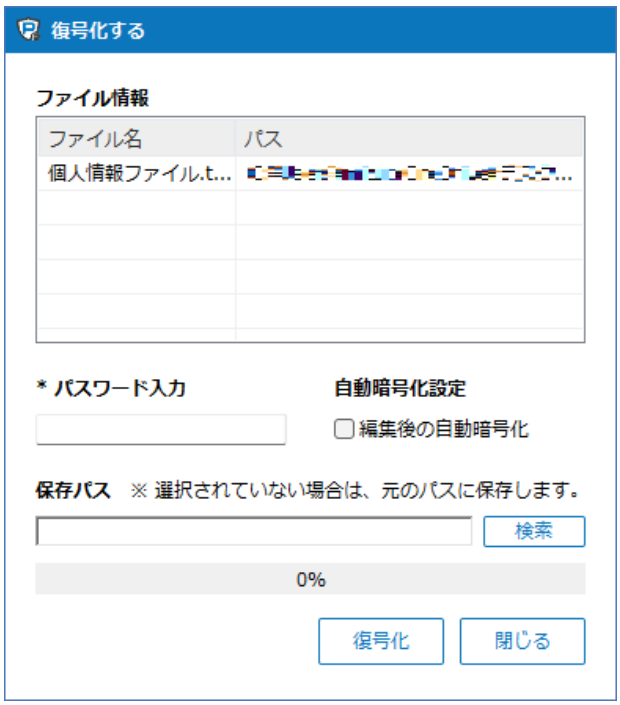
4.5. 暗号化ファイル復号化

PCFILTER で暗号化されたファイルまたはフォルダは、復号化手順を経て使用することができます。

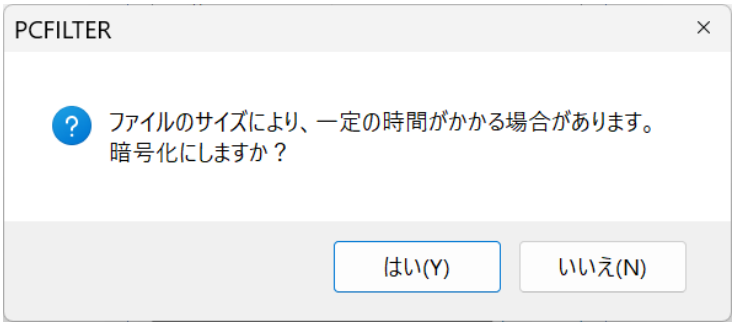
1. 復号化対象フォルダまたはファイルをダブルクリックまたはマウスの右クリック後 「PCFILTER）復号化」を選択します。



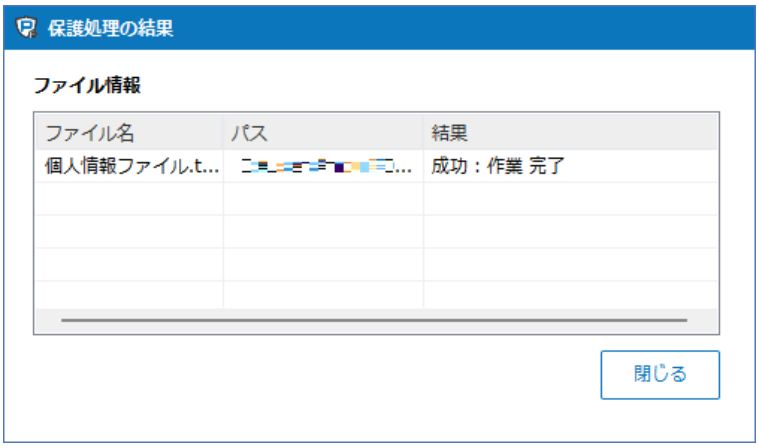
2. 選択した暗号化ファイルを復号化します。



- ファイル情報：選択されたファイルが復号化対象ファイルであるかが表示されます。
- パスワード入力：暗号化の時に設定しておいたパスワードを入力します。
- 自動暗号化設定：編集後、自動暗号化するかどうかを設定します。
  （チェックボックスにチェックしない場合、ファイル編集終了後、元のファイル形式で保存されます。）
- 保存パス：復号化ファイルの保存場所を指定します。
  （指定しない場合は、現在の場所に保存されます。）
- 暗号化：設定した値に応じて復号化を実行します。



3. 選択した暗号化ファイルの復号化結果が表示されます。



4. 選択した暗号化ファイルが復号されたことを確認します。

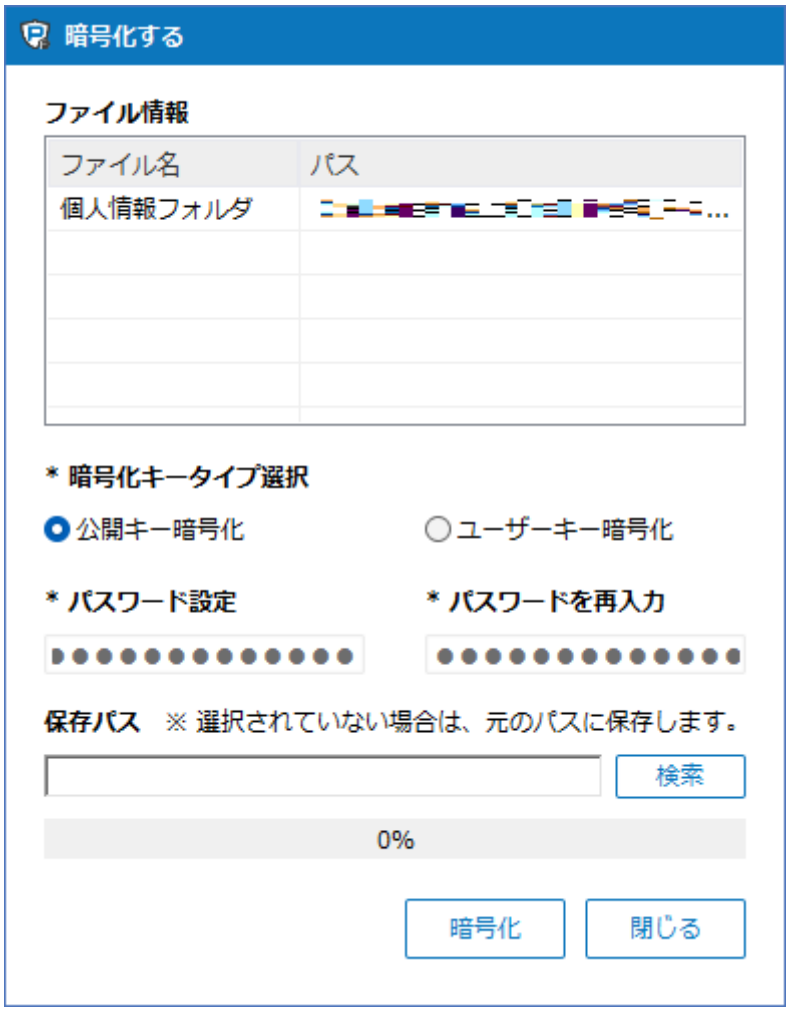
4.6. 簡単機能

4.6.1. 簡単暗号化する

エージェントウィンドウを開くことなく、右クリックメニューからファイルおよびフォルダを暗号化保存することができます。 暗号化対象フォルダまたはファイルを右クリックし「PCFILTER） 暗号化」を選択します。

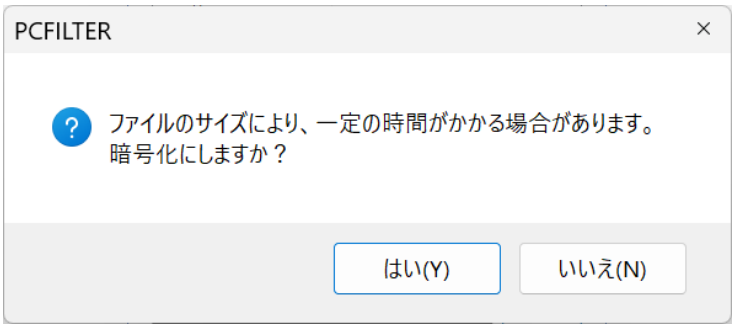
[フォルダ暗号化]

1. フォルダ暗号化：選択したフォルダ暗号化フォルダ全体を一つの暗号化ファイルとして暗号化します。

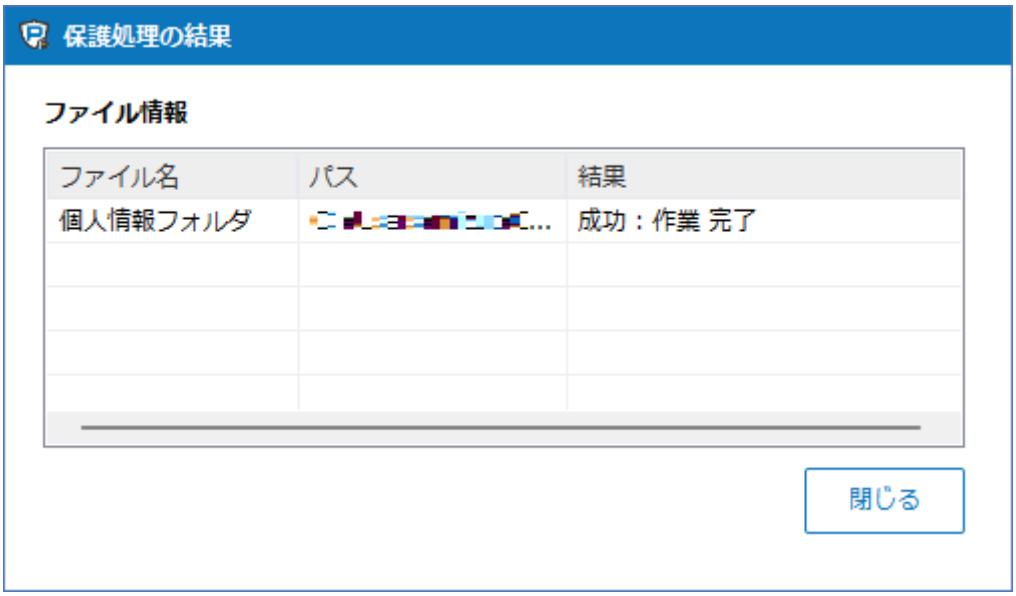


- ファイル情報：選択したフォルダが暗号化されるフォルダか、ファイル情報が表示されます。
- 暗号化キータイプ選択：暗号化するフォルダの暗号化キータイプを選択します。
- ユーザーキー暗号化：PCFILTER を利用するすべてのユーザーが暗号化されたファイルをパスワードで共有します。 PCFILTER を利用しないユーザーの場合にはファイル共有(復号化)ができません。
- 公開キー暗号化：PCFILTER ライセンスが同じ内部ではパスワードなしで暗号化されたファイルを共有します。 PCFILTER ライセンスが異なる場合ではファイル共有(復号化)ができません。
  （公開キー暗号化したファイルはマウス右クリックでユーザーキー暗号化に変換可能です。）
- パスワード設定：暗号化に使うパスワードを入力します。公開キー暗号化の場合は入力しません。
- 保存パス：暗号化フォルダの保存場所を指定します。
  （指定しない場合、元の場所に保存されます。）

- 暗号化：設定した値に従って暗号化を実行します。

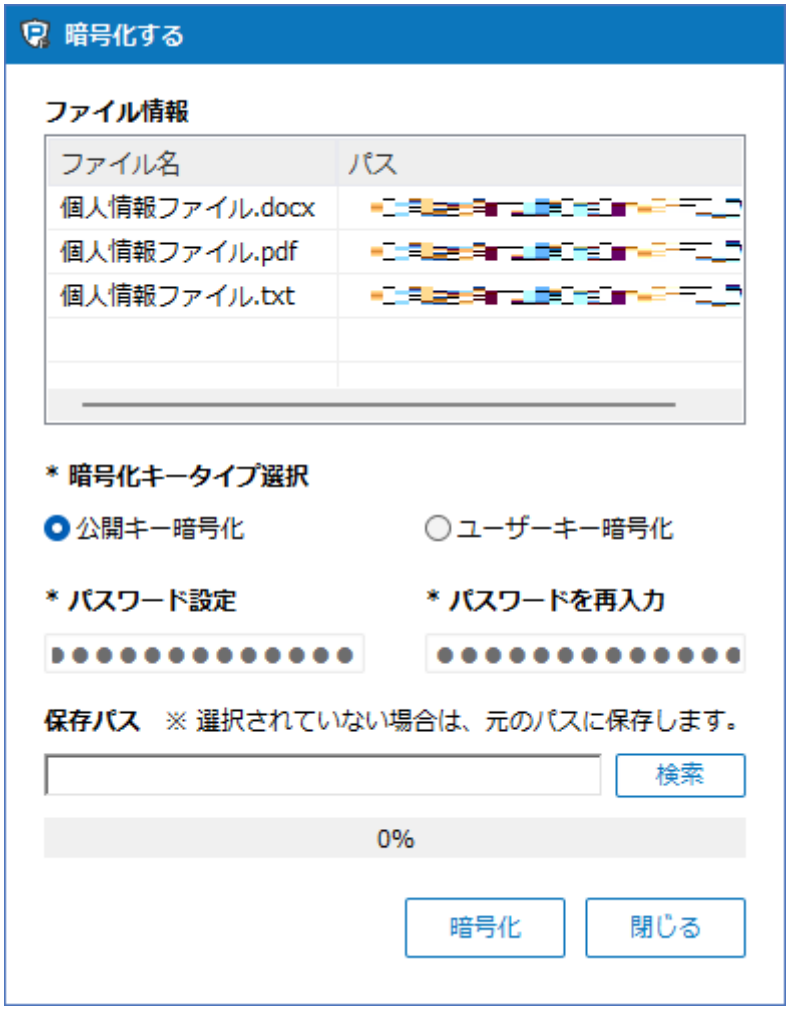


2. 選択したフォルダの暗号化可否が表示されます。



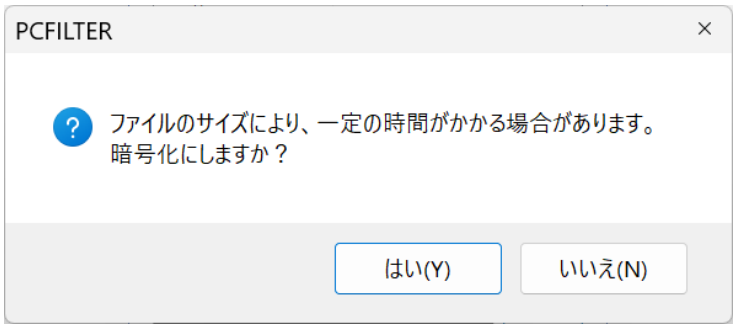
[フォルダ内ファイルを個別暗号化]

1. フォルダ内の保存されたファイルを、それぞれ、暗号化します。
（※多数のファイルを一括暗号化すると、一つのファイルではなく個別ファイルで暗号化が進みます。）



- ファイル情報：選択したファイルが暗号化されるファイルか、ファイル情報が表示されます。
- 暗号化キータイプを選択：暗号化するファイルの暗号化キータイプを選択します。
- ユーザーキー暗号化：PCFILTER を利用するすべてのユーザーが暗号化されたファイルをパスワードで共有します。 PCFILTER を利用しないユーザーの場合にはファイル共有(復号化)ができません。
- 公開キー暗号化：PCFILTER ライセンスが同じ内部ではパスワードなしで暗号化されたファイルを共有します。 PCFILTER ライセンスが異なる場合ではファイル共有(復号化)ができません。
（公開キー暗号化したファイルはマウス右クリックでユーザーキー暗号化に変換可能です。）
- パスワード設定：暗号化に使うパスワードを入力します。公開キー暗号化の場合は入力しません。
- 保存パス：暗号化ファイルの保存場所を指定します。
（指定しない場合、元の場所に保存されます。）

- 暗号化：設定した値に従って暗号化を実行します。

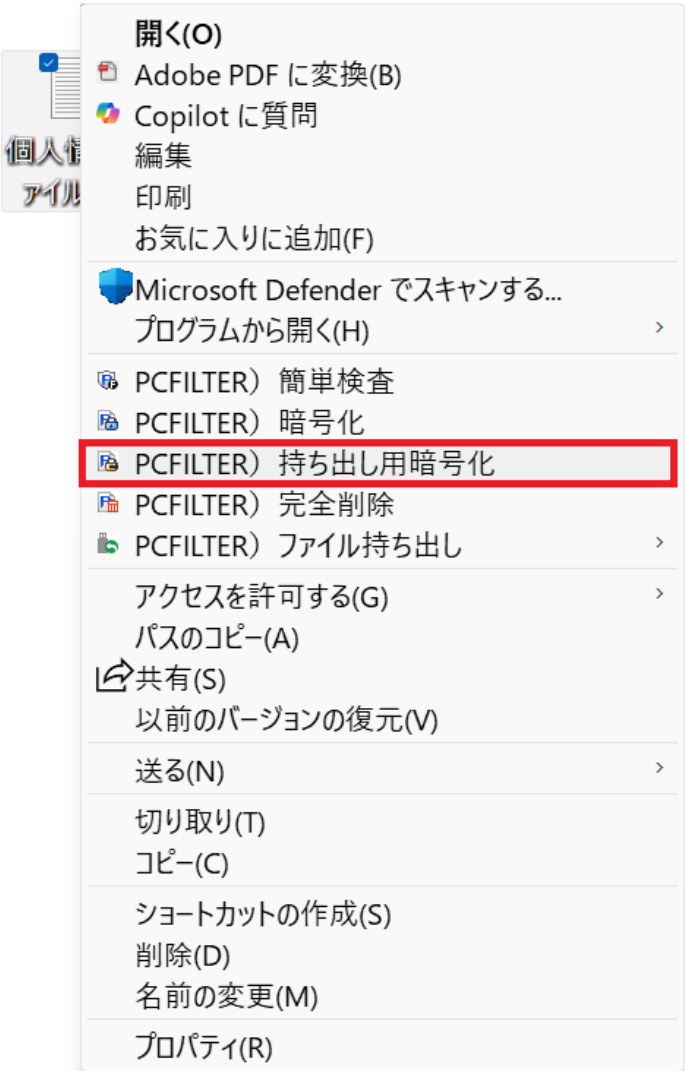


2. 選択したファイルの暗号化可否が表示されます。

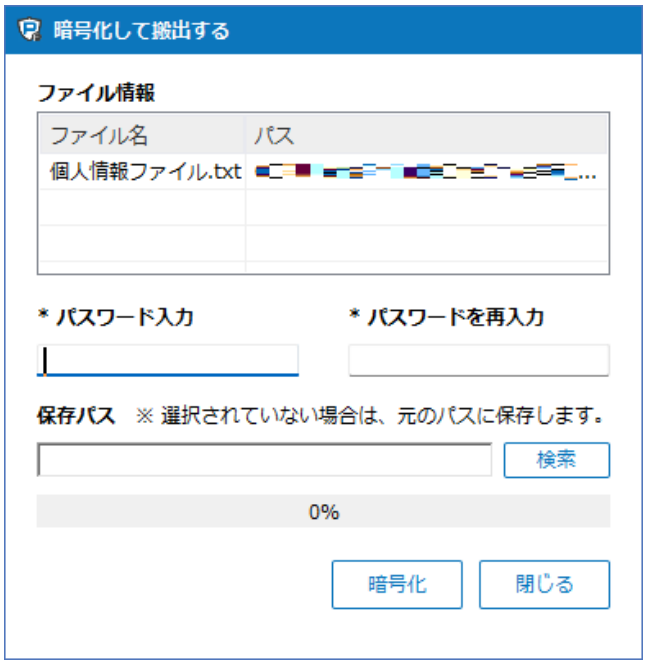
4.6.2. 持ち出し用暗号化

PCFILTER をインストールしていない端末でも復号できる状態でファイルの暗号化を行います。

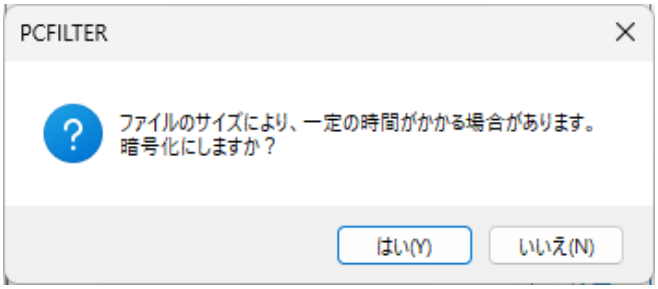
1.　右クリックメニューから「PCFILTER）持ち出し用暗号化」を押下します。



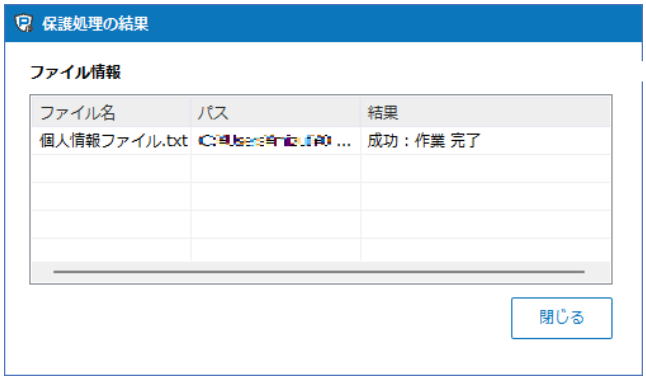
2.　選択したファイルを持ち出し用暗号化します。



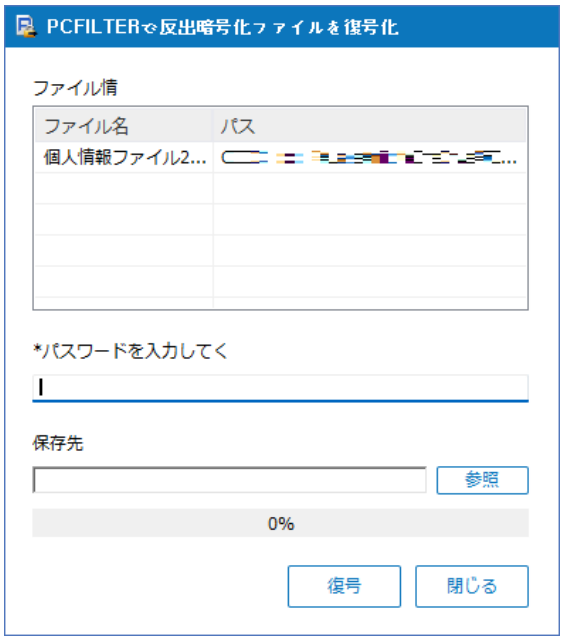
- ファイル情報：選択したファイルが暗号化されるファイルか、ファイル情報が表示されます。
- パスワード設定：暗号化に使うパスワードを入力します。
- 保存パス：暗号化ファイルの保存場所を指定します。
  （指定しない場合、元の場所に保存されます。）
- 暗号化：設定した値に従って暗号化を実行します。



3.　選択したファイルの暗号化可否が表示されます。

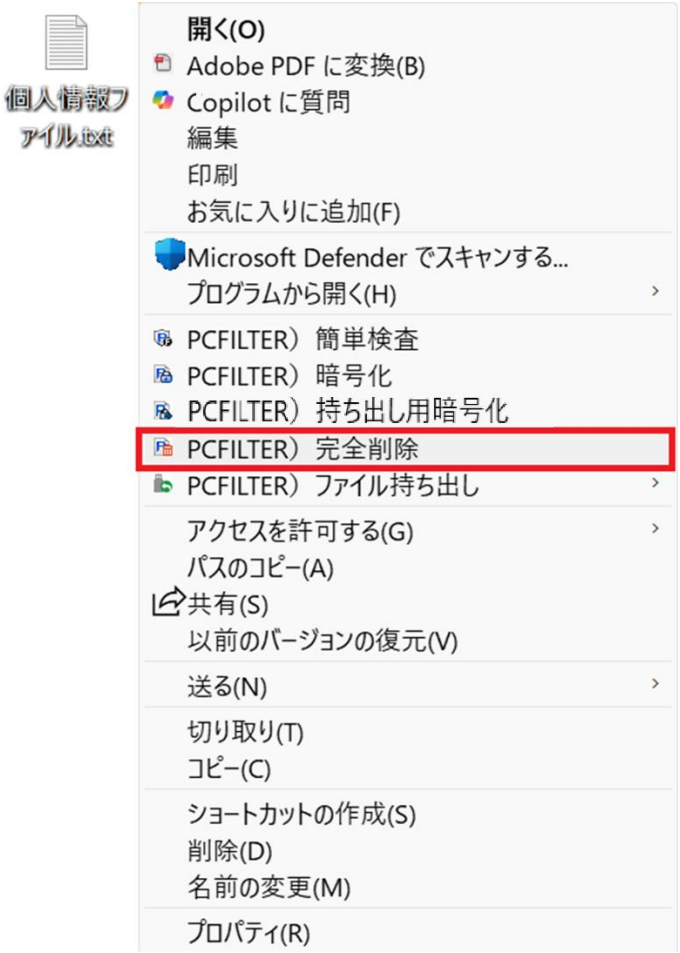


4.　作成された exe 拡張子のファイルは PCFILTER がインストールされているかどうかに関わらず、実行すると以下ウィンドウが表示されパスワード入力により復号が可能となります。

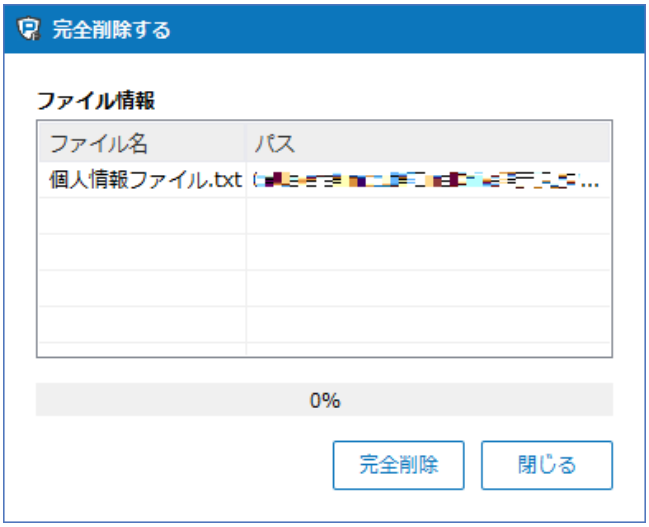


4.6.3. 簡単削除

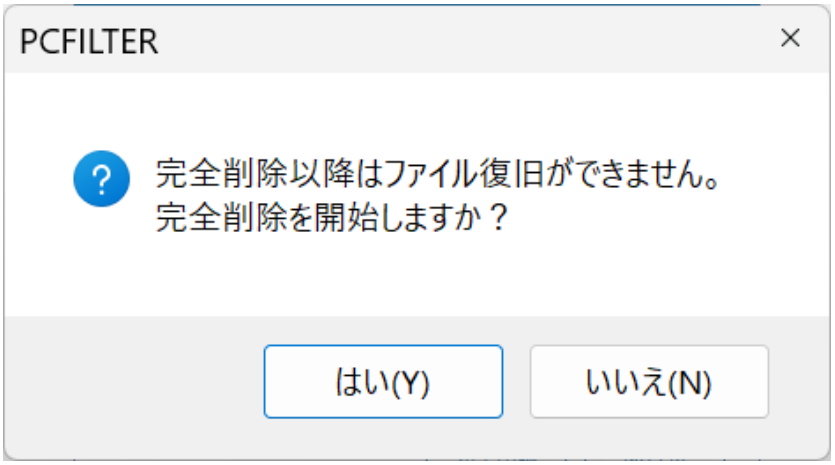
1. エージェントウィンドウを開くことなく右クリックメニューからファイルを完全削除することができます。 暗号化対象ファイルを選択し、「PCFILTER） 完全削除」を選択します。



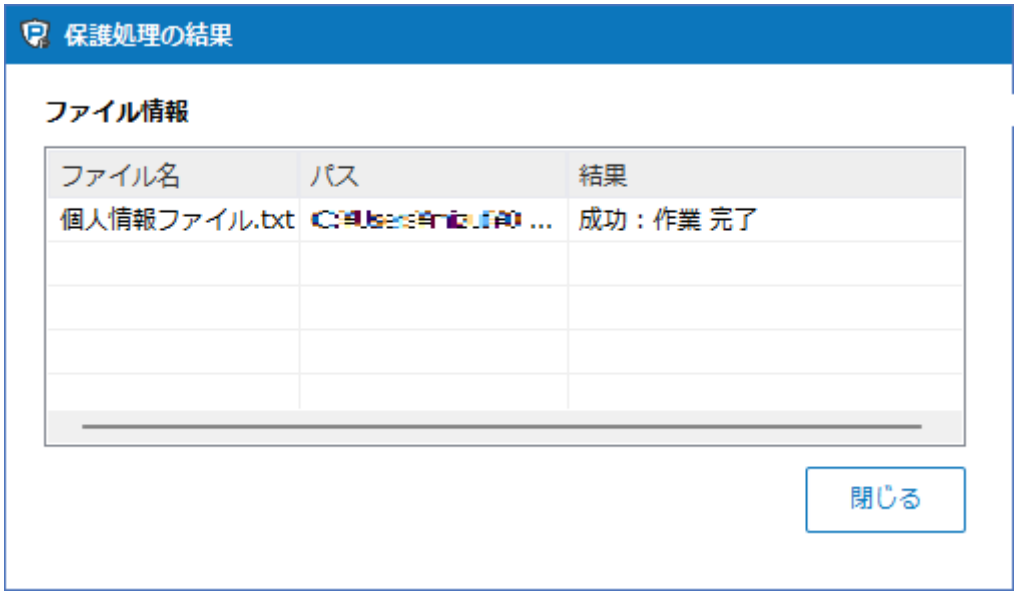
2. 選択したファイルを完全削除します。



- ファイル情報：選択したファイルが完全削除対象ファイルであるかが表示されます。
- 完全削除：選択したファイルの完全削除を実行します。



3. 選択したファイルの完全削除可否が表示されます。



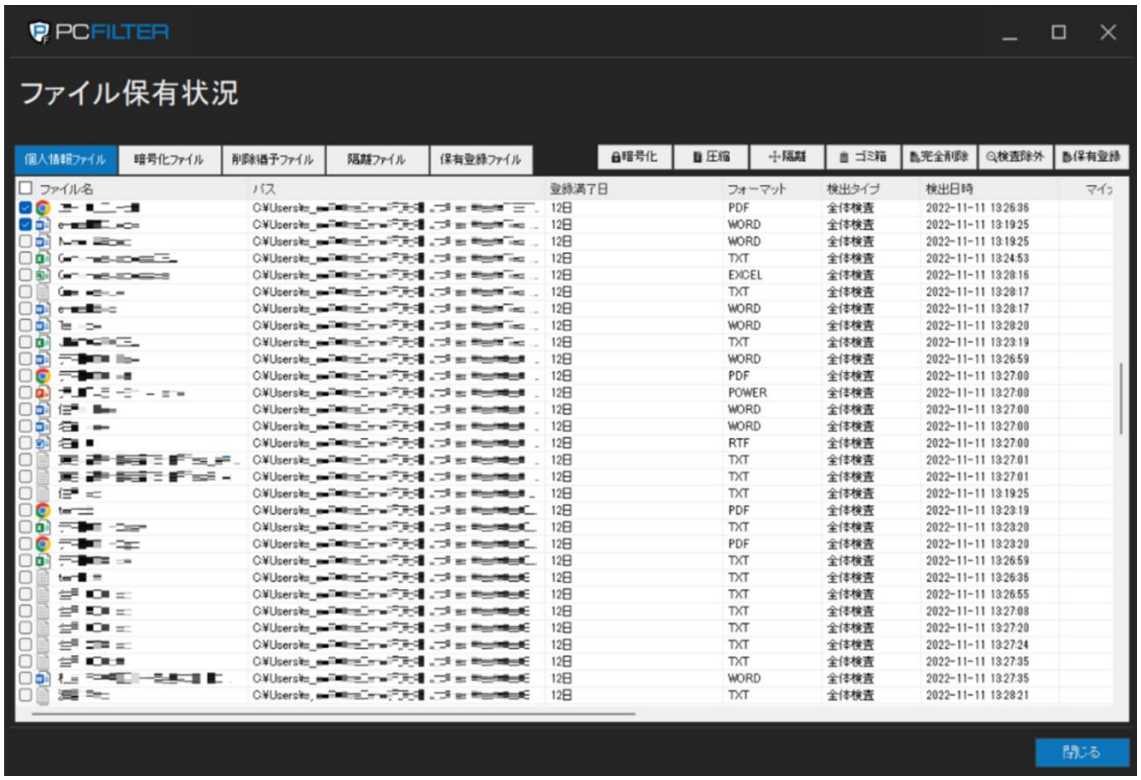
4.7. ファイル保有状況

個人情報が含まれたファイルの保有状況とファイルの処理状況を確認するには「ファイル保有状況」メニューをクリックします。

4.7.1. 個人情報ファイル

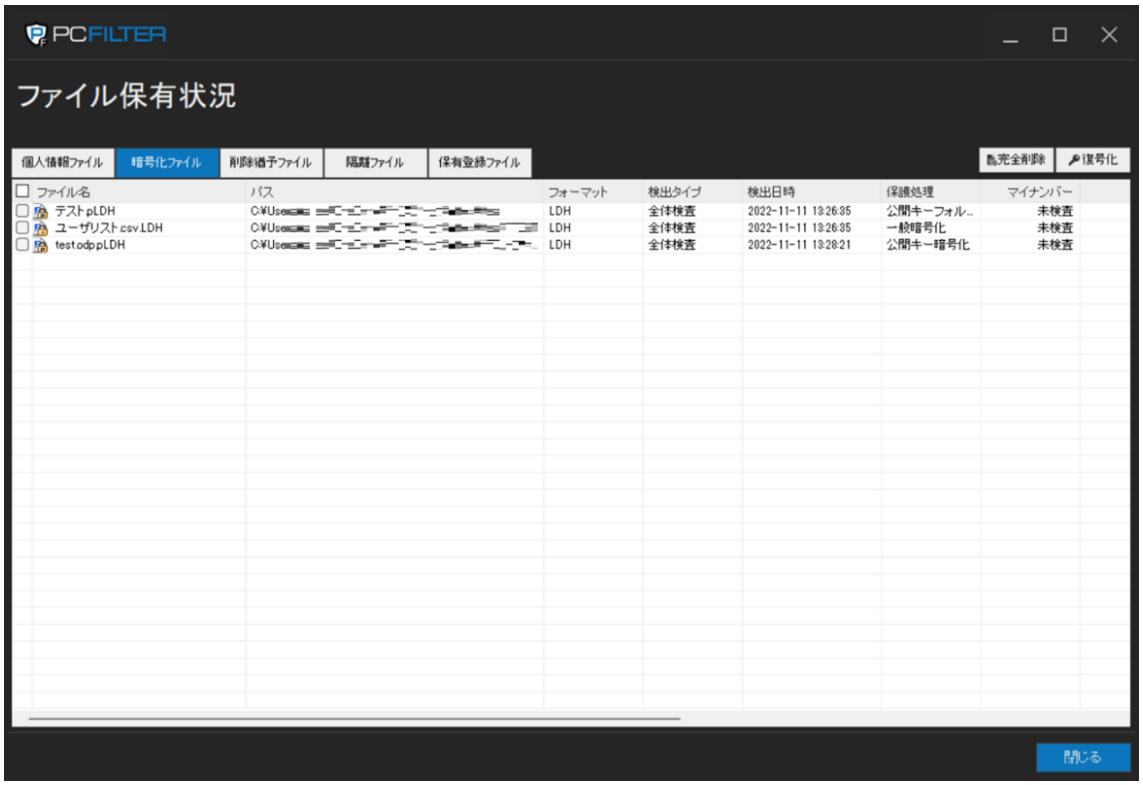
個人情報検査を通じて検出された個人情報を含むファイル情報を確認および保護処理します。

（保護処理の詳細説明は 4.3.個人情報保護処理をご参照ください。）



4.7.2. 暗号化ファイル

PC に保存された暗号化ファイルの状況を確認し、復号または完全削除します。



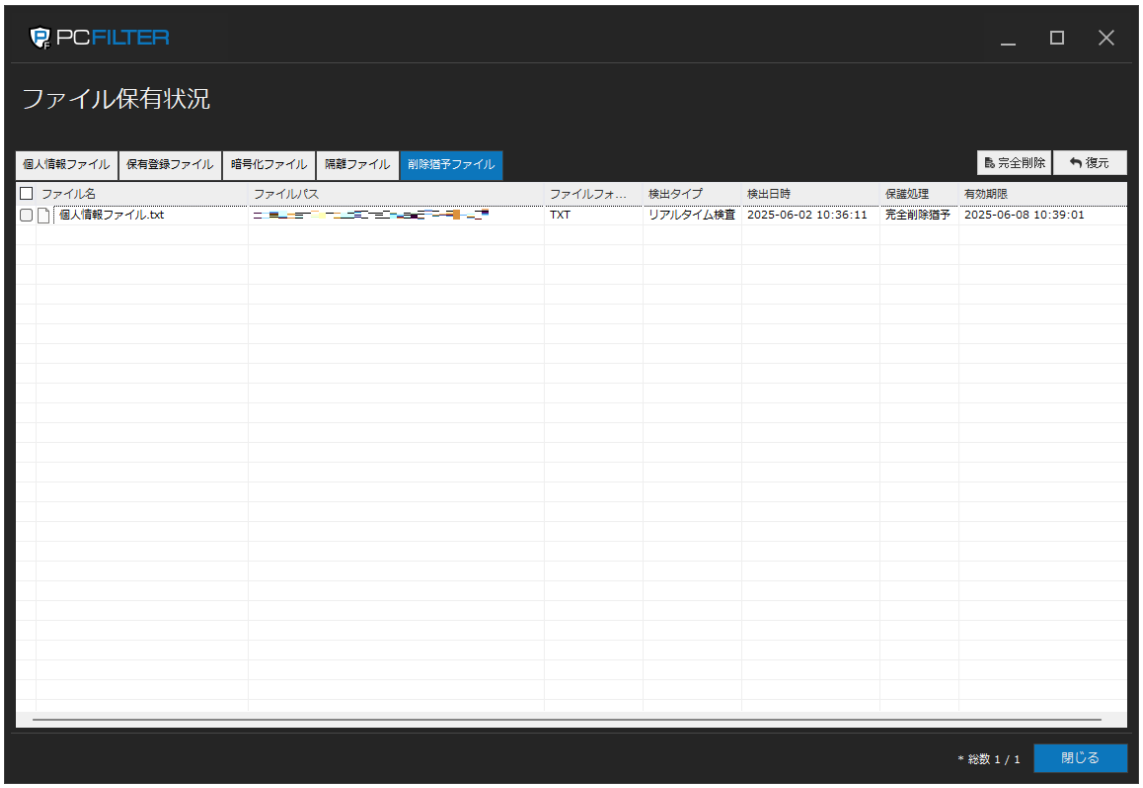
1. 完全削除：「4.3.5.個人情報ファイルの完全削除」 をご参照ください。

   ※暗号化ファイルは完全削除猶予設定の可否関係なく、即時完全削除されます。

2. 復号化：「4.5.暗号化ファイル復号化」の 2 番からの内容をご参照ください。

4.7.3. 削除猶予ファイル

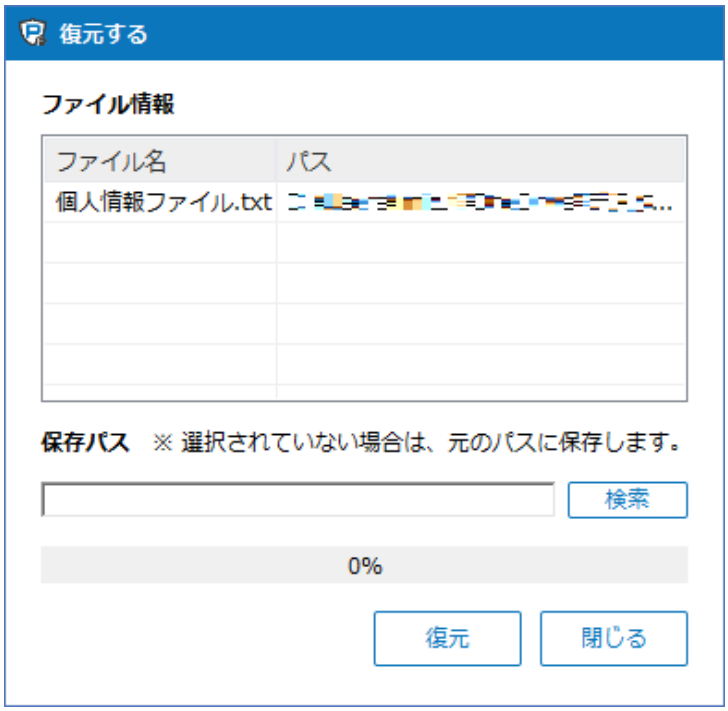
猶予期間が設定されている場合は、すぐに削除されず、削除猶予ファイルに区分されます。完全削除する個人情報ファイルの削除猶予状況が表示されます。



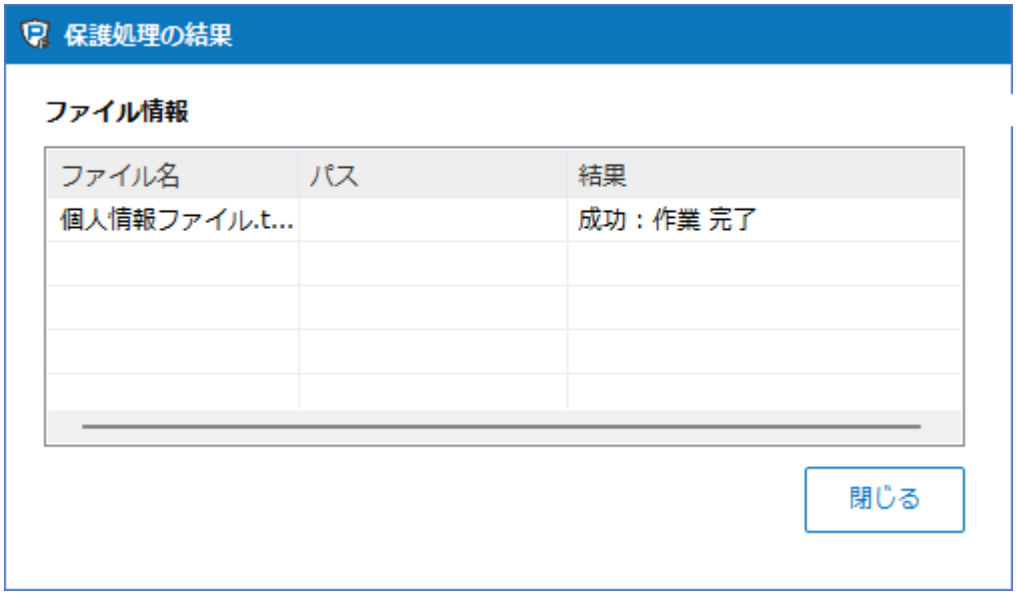
1. 完全削除：「4.3.5. 個人情報ファイルの完全削除」をご参照ください。

   ※暗号化ファイルは完全削除猶予設定の可否関係なく、即時削除されます。

2. 復元：選択した削除猶予ファイルを復元します。

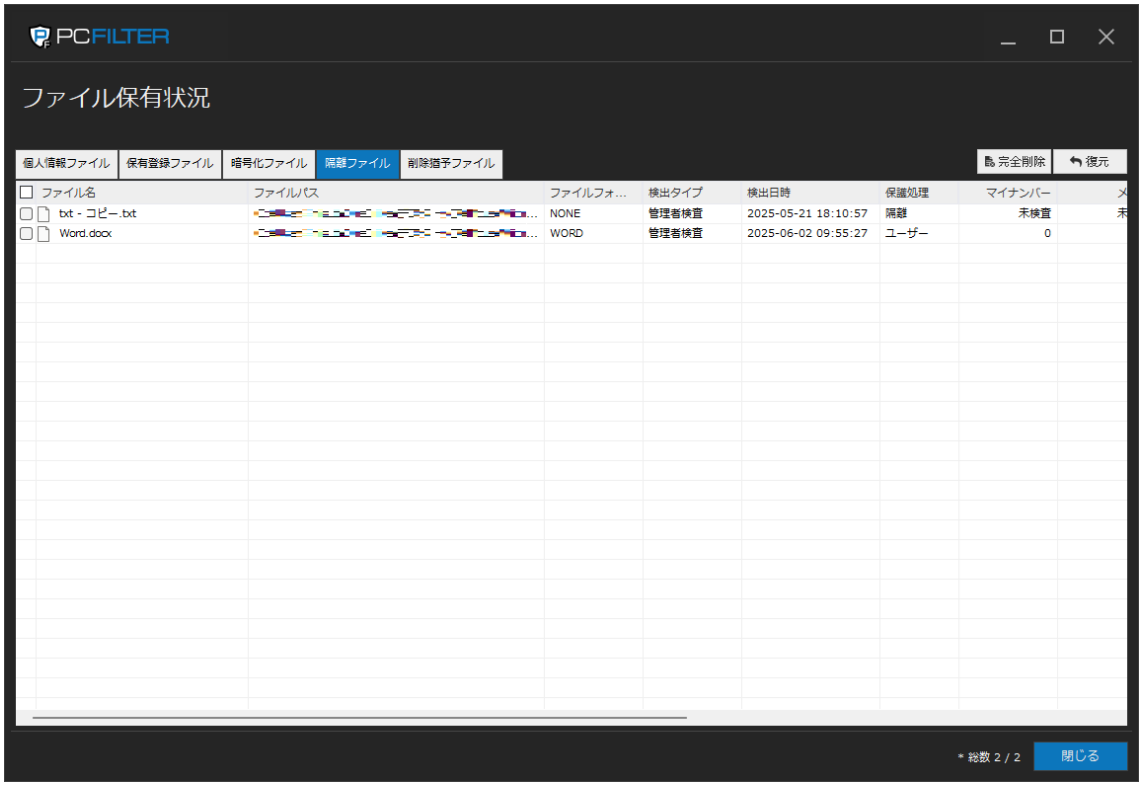


- ファイル情報：選択したファイルが削除猶予で復元されるファイルであるか確認します。
- 保存パス：復元する場所を指定します。
  (指定しなければ元の場所に保存されます。)
- 復元：削除猶予ファイルの復元状況が表示されます。



4.7.4. 隔離ファイル

隔離処理した個人情報ファイル状況を確認、完全削除または復元します。



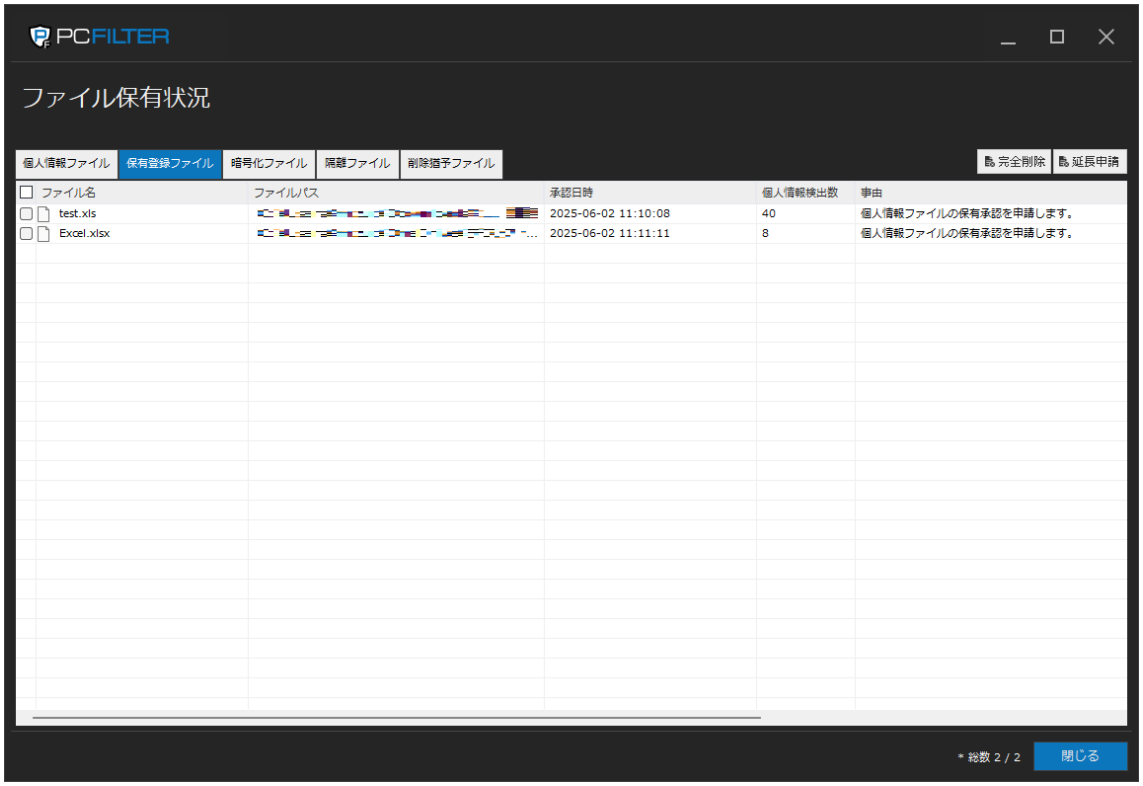
1. 完全削除：「4.3.5. 個人情報ファイルの完全削除」 をご参照ください。

   ※暗号化ファイルは完全削除猶予設定の可否関係なく、即時削除されます。

2. 復元：「4.7.3. 削除猶予ファイル」の２番からの内容をご参照ください。

4.7.5. 保有登録ファイル

保有登録処理した個人情報ファイル状況が表示されます。

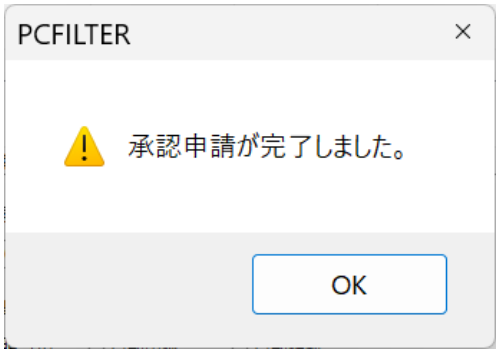


1. 完全削除：「4.3.5. 個人情報ファイルの完全削除」をご参照ください。

   ※暗号化ファイルは完全削除猶予設定の可否関係なく、即時削除されます。

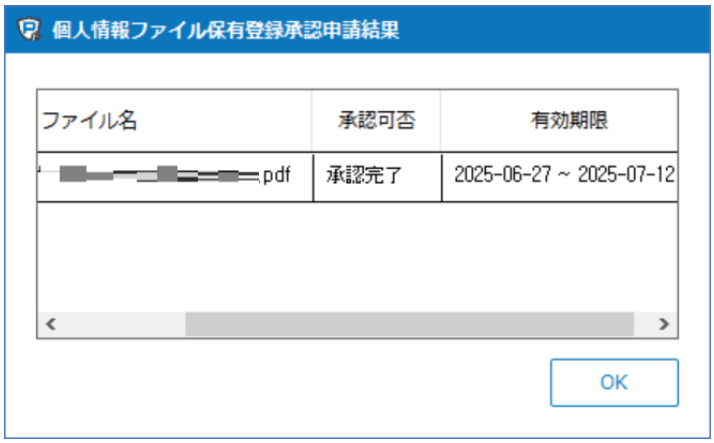
2.　延長申請：選択した保有登録ファイルの保有期間を延長申請します。

- ファイル情報：選択した保有登録ファイルが保有期間を延長申請されるファイルであるか確認します。
- 事由：決裁者に報告する保有期間延長事由を入力します。
- 保有登録期間延長設定(最大 365 日)：保有登録する期間を設定します
- 保有期間満了後の処理：保有期間満了後の処理を選択します。
- 決裁者選択：保有登録延長申請の承認を受ける決裁者を選択します。
- 延長承認申請：保有登録ファイルの延長申請を行います。



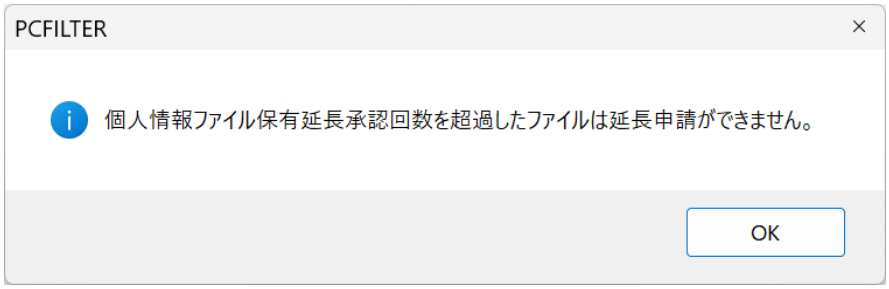
3.　延長申請したファイルの承認結果が表示されます。

- 該当フォルダ：承認申請したファイルの場所に移動します。
- 見る：ボタンをクリックすると、承認された申請結果が表示されます。



- ファイル名：　承認申請したファイルの場所とファイル名が表示されます。
- 承認可否：承認結果を表示します。
- 有効期限：承認完了時に保有期間を表示します。
  (期限が過ぎると、管理者が設定した方法で強制処理されます。)

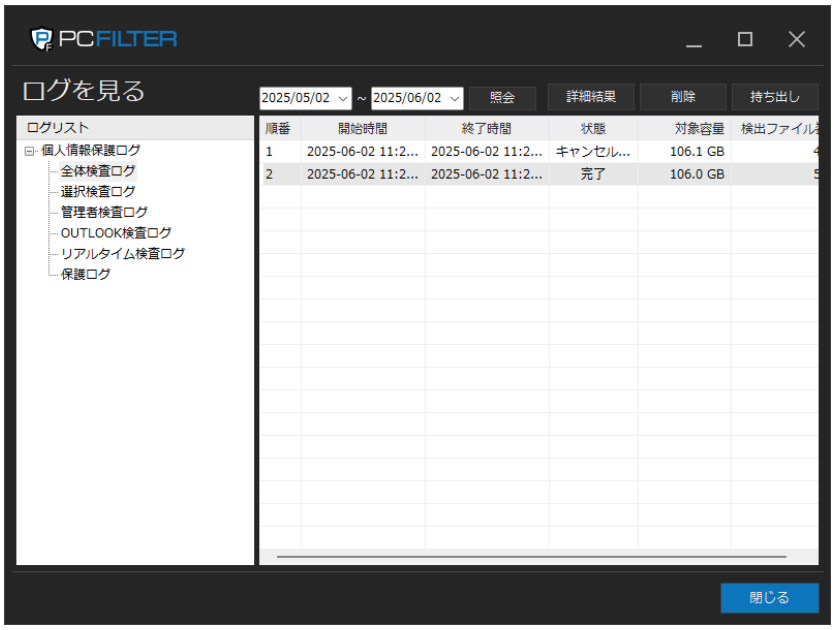
4.　管理者が設定した保有期間延長申請数を超過した場合、延長申請ができなくなります。



4.8. ログを見る

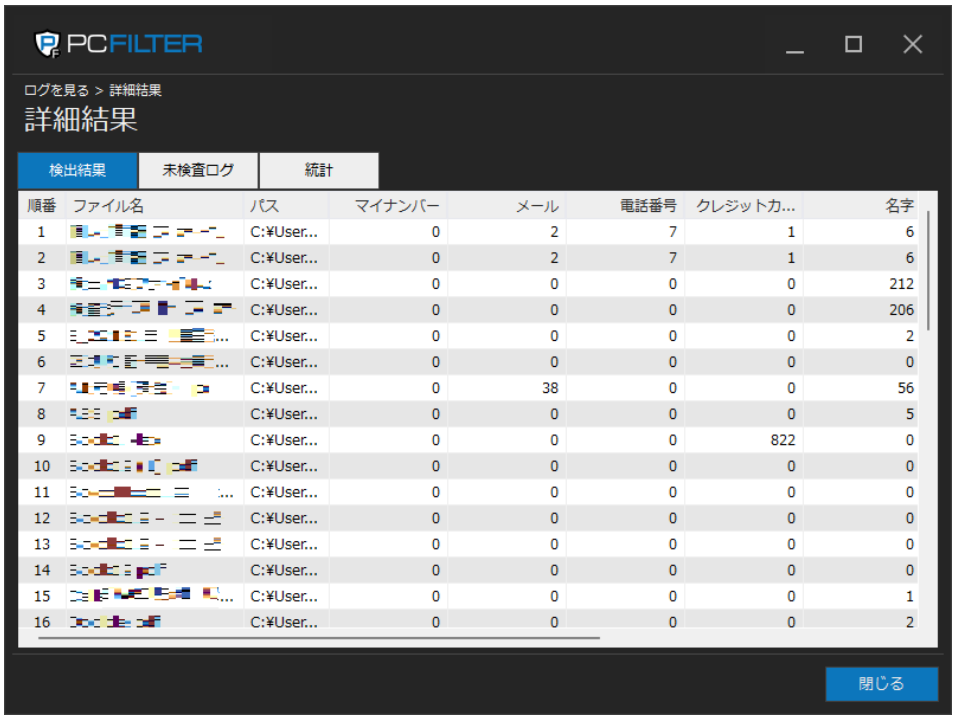
ユーザー/管理者検査、リアルタイム通知など様々な経路で検査した記録が確認できます。

1. 検査項目別ログ情報を確認します。



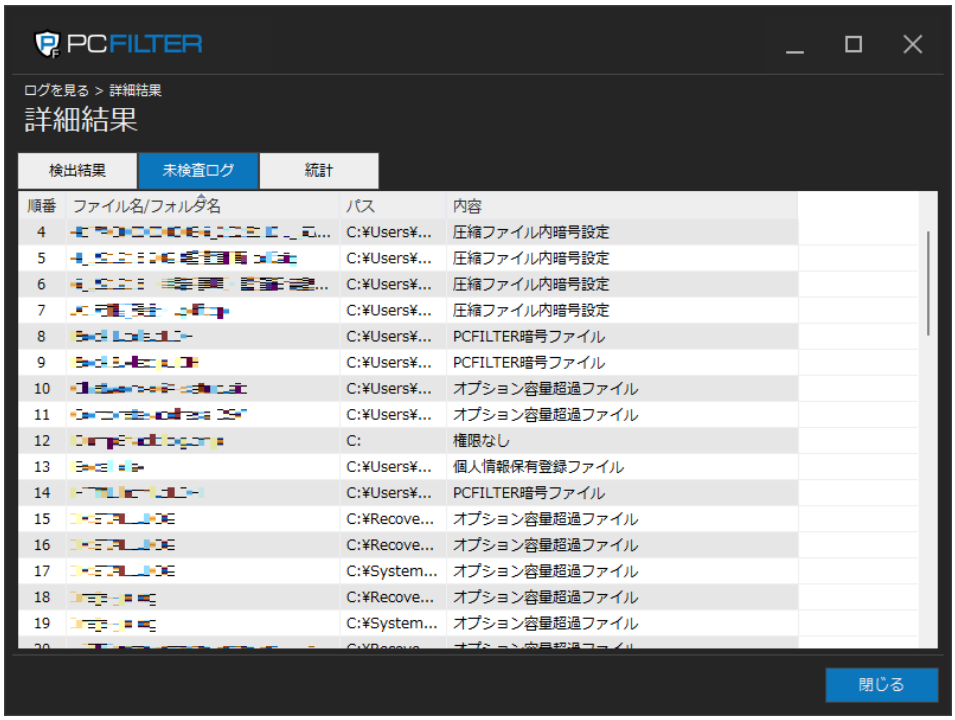
- ログリスト：個人情報保護検査時に発見されたログを検査種類別(全体検査、選択検査、管理者検査、Outlook 検査、リアルタイム検査など)で確認します。

- 照会：希望する期間のログ記録を照会します。
- 削除：選択したログを削除します。
- 持ち出し：選択した情報をエクセルファイルとして保存します。
- 詳細結果：選択したログの詳細情報が表示されます。
- 検出結果：ログ詳細表示で検出結果を確認することができます。



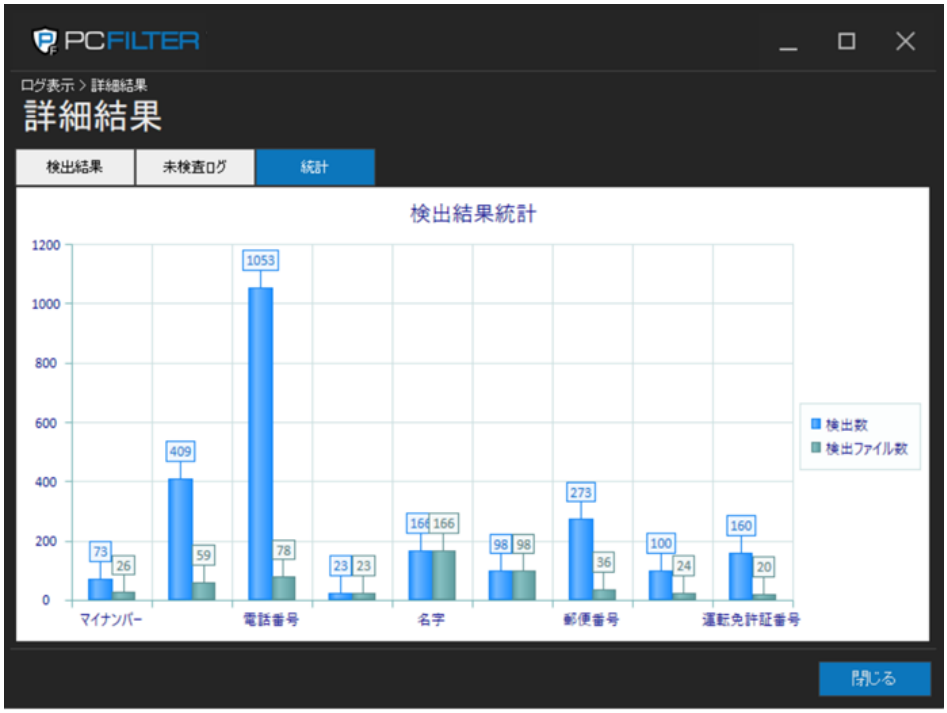
順番	ファイル名	パス	マイナンバー	メール	電話番号	クレジットカ...	名字
1	[redacted]	C:¥User...	0	2	7	1	6
2	[redacted]	C:¥User...	0	2	7	1	6
3	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	212
4	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	206
5	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	2
6	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	0
7	[redacted]	C:¥User...	0	38	0	0	56
8	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	5
9	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	822	0
10	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	0
11	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	0
12	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	0
13	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	0
14	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	0
15	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	1
16	[redacted]	C:¥User...	0	0	0	0	2

- 未検査ログ：選択したログ記録から検査できなかったファイルの情報と検査失敗の内容が表示されます。



順番	ファイル名/フォルダ名	パス	内容
4	[redacted]	C:¥Users¥...	圧縮ファイル内暗号設定
5	[redacted]	C:¥Users¥...	圧縮ファイル内暗号設定
6	[redacted]	C:¥Users¥...	圧縮ファイル内暗号設定
7	[redacted]	C:¥Users¥...	圧縮ファイル内暗号設定
8	[redacted]	C:¥Users¥...	PCFILTER暗号ファイル
9	[redacted]	C:¥Users¥...	PCFILTER暗号ファイル
10	[redacted]	C:¥Users¥...	オプション容量超過ファイル
11	[redacted]	C:¥Users¥...	オプション容量超過ファイル
12	[redacted]	C:	権限なし
13	[redacted]	C:¥Users¥...	個人情報保有登録ファイル
14	[redacted]	C:¥Users¥...	PCFILTER暗号ファイル
15	[redacted]	C:¥Recove...	オプション容量超過ファイル
16	[redacted]	C:¥Recove...	オプション容量超過ファイル
17	[redacted]	C:¥System...	オプション容量超過ファイル
18	[redacted]	C:¥Recove...	オプション容量超過ファイル
19	[redacted]	C:¥System...	オプション容量超過ファイル

- 統計：選択したログ記録から検出された個人情報の統計をグラフで確認します。

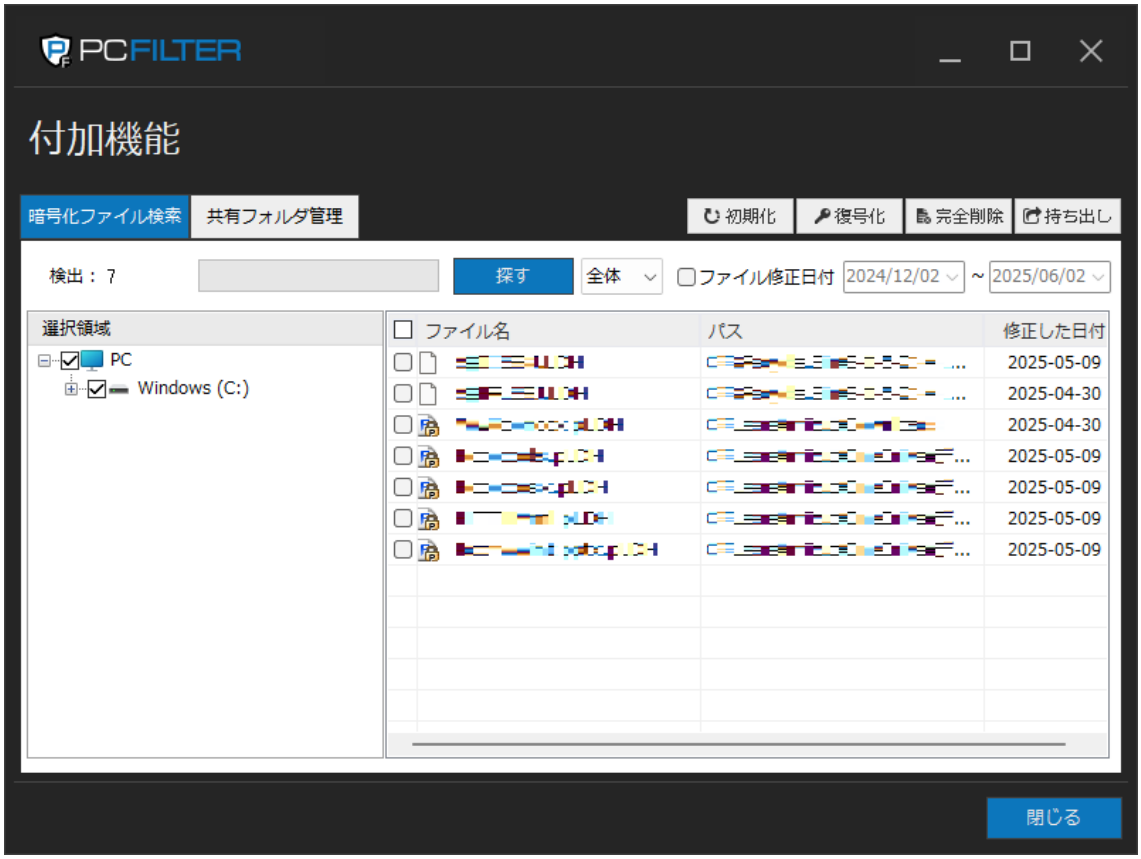


4.9. 付加機能

PC 内の共有フォルダを管理し、暗号化されたファイルを見つけることができます。

4.9.1. 暗号化ファイル検索

PC に保存された暗号化ファイルを検索します。

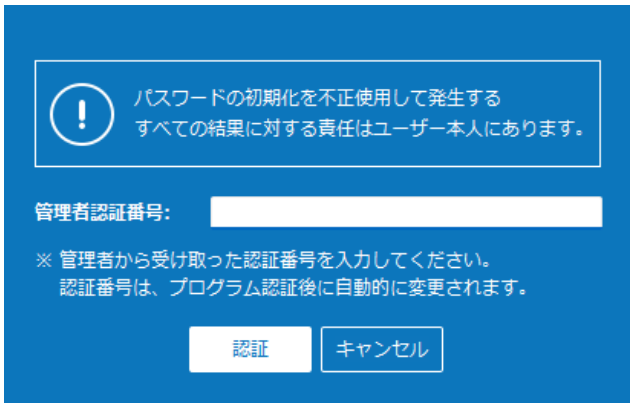


1. 暗号化ファイル検索

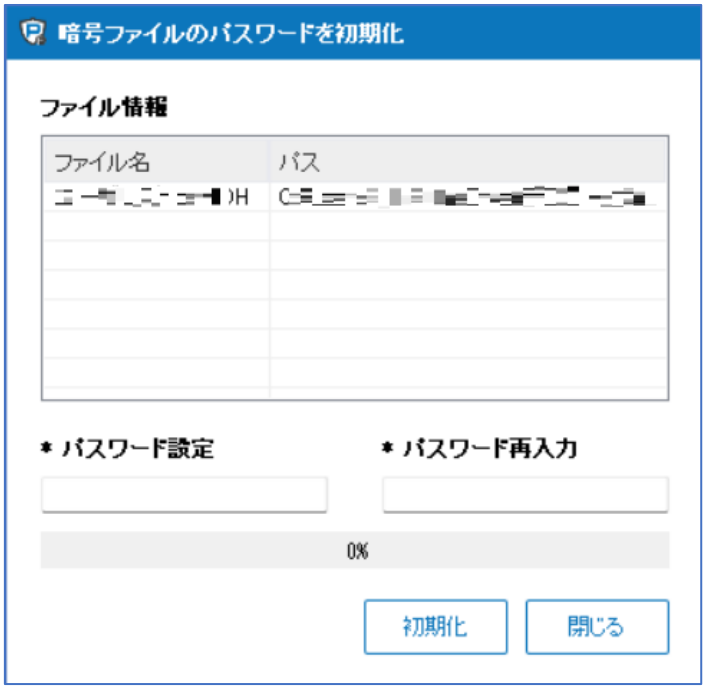
- 検出：検出された暗号化ファイルの数を表示します。
- 探す：指定した領域と日付に応じて暗号化ファイルの検索を行います。
- ファイル修正日付：指定した日付に生成、修正された暗号化ファイルを検索します。
- 選択領域：暗号化ファイル検索領域を選択します。

- 持ち出し：暗号化ファイルのリストをエクセルファイルとして保存します。
- 完全削除：選択した暗号化ファイルを完全削除します。
  (詳細説明は 4.3.5.個人情報ファイルの完全削除をご参照ください。)
- 復号化：選択した暗号化ファイルを復号化します。
  (詳細説明は 4.5.暗号化ファイル復号化ご参照ください。)

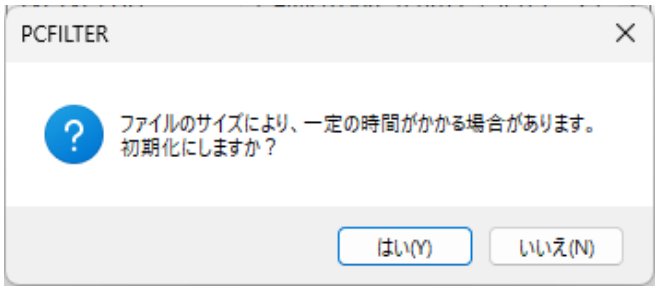
- 初期化：選択した暗号化ファイルのパスワードを初期化します。



- 管理者認証番号：管理者から受け取った認証番号を入力してください。(認証番号は管理者ページ内の個人情報保護->管理ツール->パスワード初期化で確認できます。)

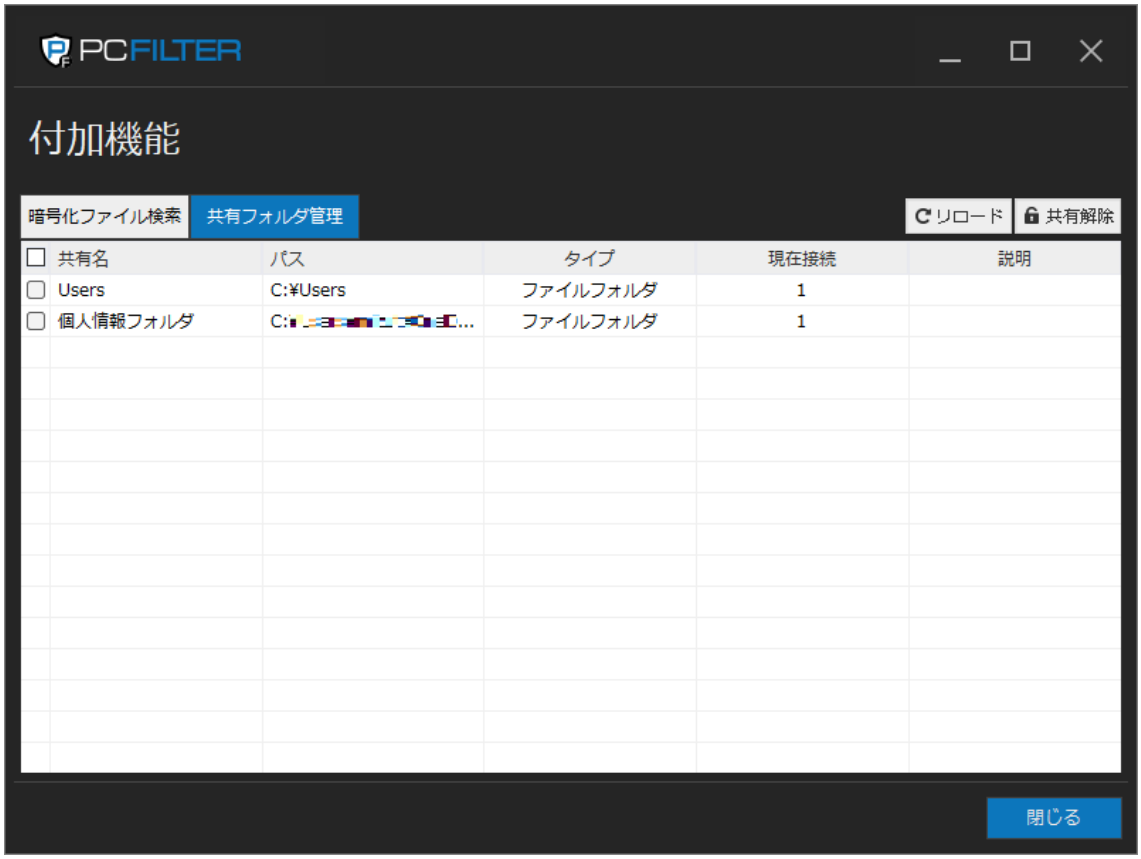


- ファイル情報：パスワードを初期化するファイルであるかが表示されます。
- パスワード設定：新しいパスワードを入力します。
- 初期化：入力した新しいパスワードに変更されます。

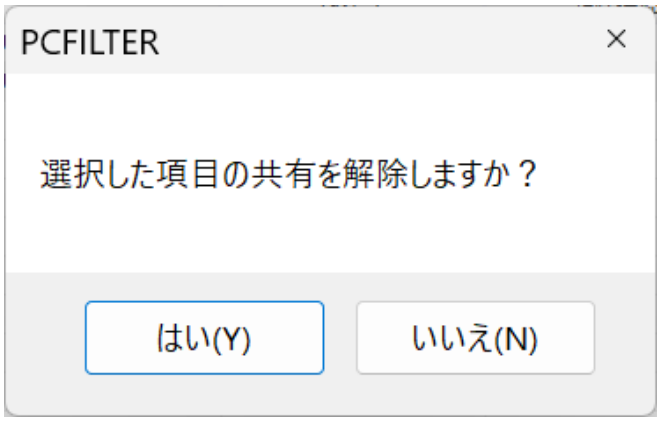


4.9.2. 共有フォルダ管理

現在の PC に接続されている共有フォルダを確認し、接続および解除します。



1. リロード：共有フォルダの情報を現在の状態にアップデートします。
2. 共有解除：登録された共有フォルダとの接続を解除します。



5.　情報漏洩防止

メディア、印刷物、ファイル添付など、様々な経路での個人情報や重要情報の漏洩リスクを遮断します。

5.1. 情報漏洩防止

印刷物管理、メディア管理、ファイル遮断、共有フォルダ遮断ポリシー状況が表示されます。

（情報漏洩防止は管理者により設定されたポリシーに従ってエージェントが制御します。）

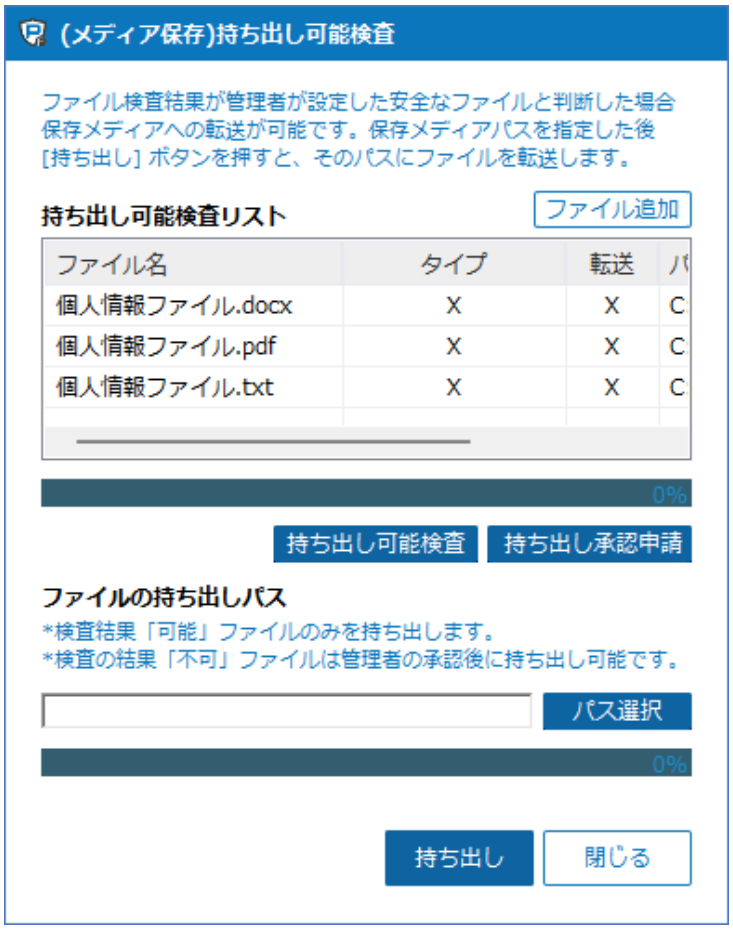
5.2. ファイル持ち出し

メディア保存、ファイルの添付が必要なファイルは、個人情報検査、持ち出し申請および管理者承認プロセスを通じて外部に持ち出しできるようになります。

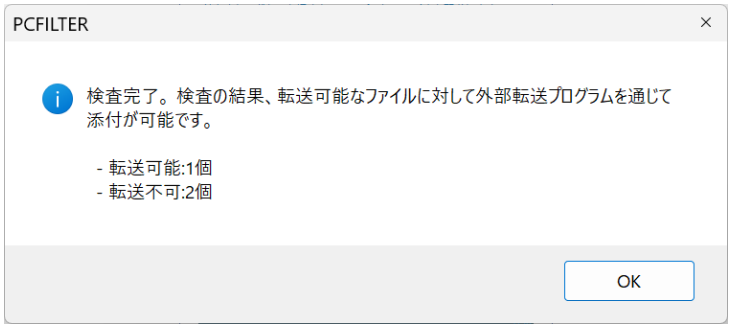
ファイルを選択した後、マウスを右クリックして簡単に持ち出し検査、承認を申請します。

[（メディア保存）持ち出し可能検査]

1. （メディア保存）持ち出し可能検査：管理者が設定したポリシーによってファイル持ち出し可否を確認できます。

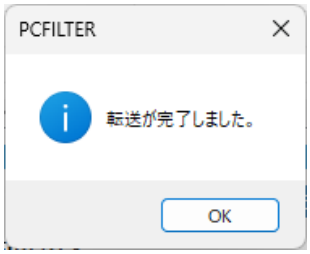


- 持ち出し可能検査リスト：持ち出し検査を行うファイル項目が表示されます。
- ファイル追加：持ち出し可能検査を行うファイルを追加します。
- 持ち出し可能検査：ファイルの持ち出し可能検査を行います。



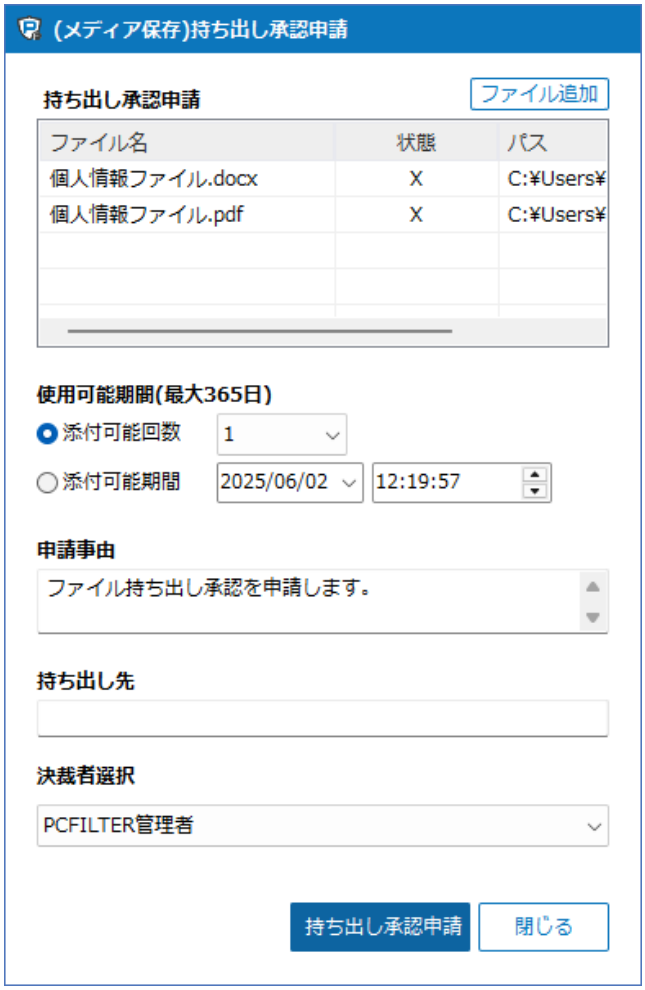
- 持ち出し承認申請：持ち出し可能検査結果で「不可」になったファイルを持ち出し申請画面に移動します。
- ファイルの持ち出しパス：ファイルの持ち出し先を設定します。

- 持ち出し：持ち出し可能検査から「転送可能」のファイルを持ち出しします。



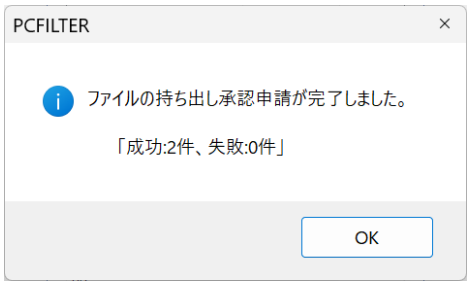
[（メディア保存）持ち出し承認申請]

1. （メディア保存）持ち出し承認申請：選択したファイルの持ち出しを申請します。



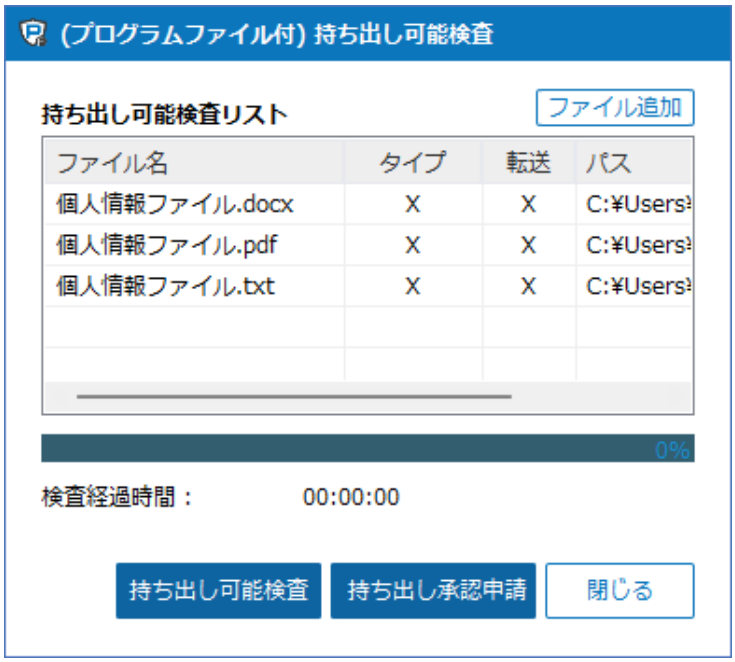
- 持ち出し承認申請：持ち出し承認を申請する項目が表示されます。
- ファイル追加：持ち出し申請するファイルを追加します。
- 使用可能期間（最大 365 日）：承認申請するファイルの持ち出し回数や期間を設定します。
- 申請事由：ファイルの持ち出し事由を記載します。
- 持ち出し先：持ち出し先を入力します。

- 決裁者選択：承認を受ける決裁者を選択します。
- 持ち出し承認申請：ファイルの持ち出し承認を申請します。

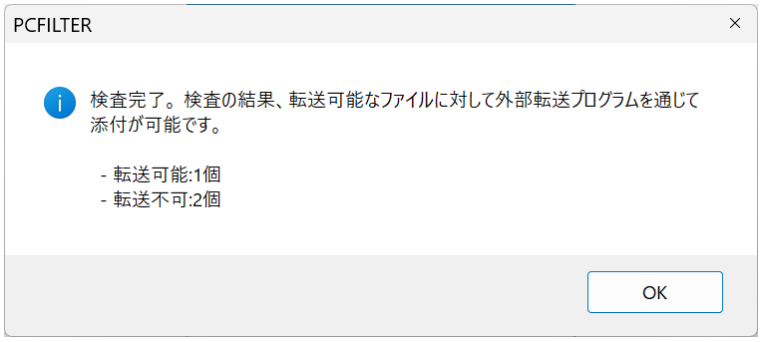


[（プログラムファイル付）持ち出し可能検査]

1. （プログラムファイル付）持ち出し可能検査：ファイルを添付するために、持ち出しファイル個人情報の有無を検査します。



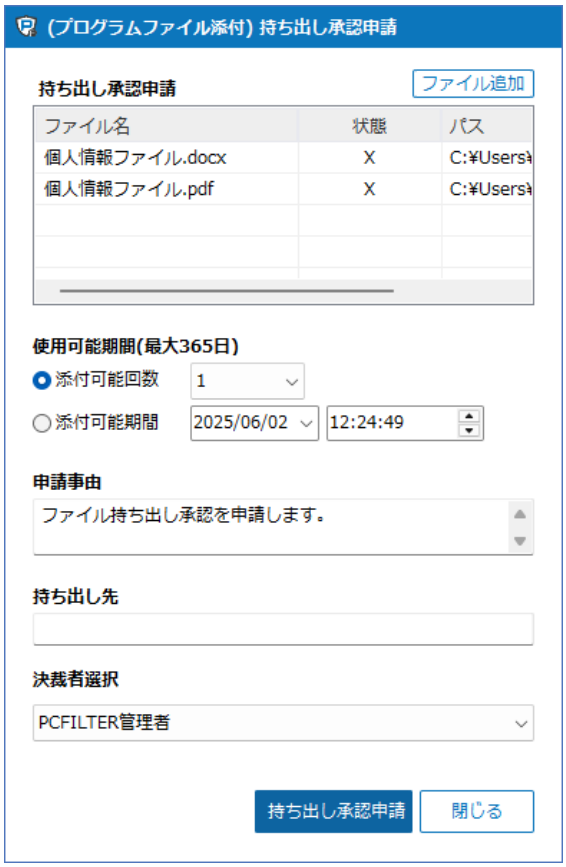
- 持ち出し可能検査リスト：持ち出し検査を行うファイル項目が表示されます。
- ファイル追加：持ち出し可能検査を行うファイルを追加します。
- 持ち出し可能検査：ファイルの持ち出し可能検査を行います。



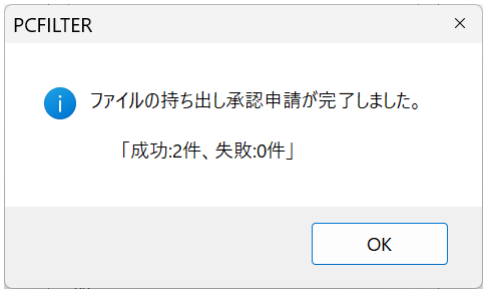
- 持ち出し承認申請：持ち出し可能検査結果で「不可」になったファイルを持ち出し申請画面に移動します。

[（プログラムファイル添付）持ち出し承認申請]

1. （プログラムファイル添付）持ち出し承認申請： 選択したファイルの持ち出しを申請します。

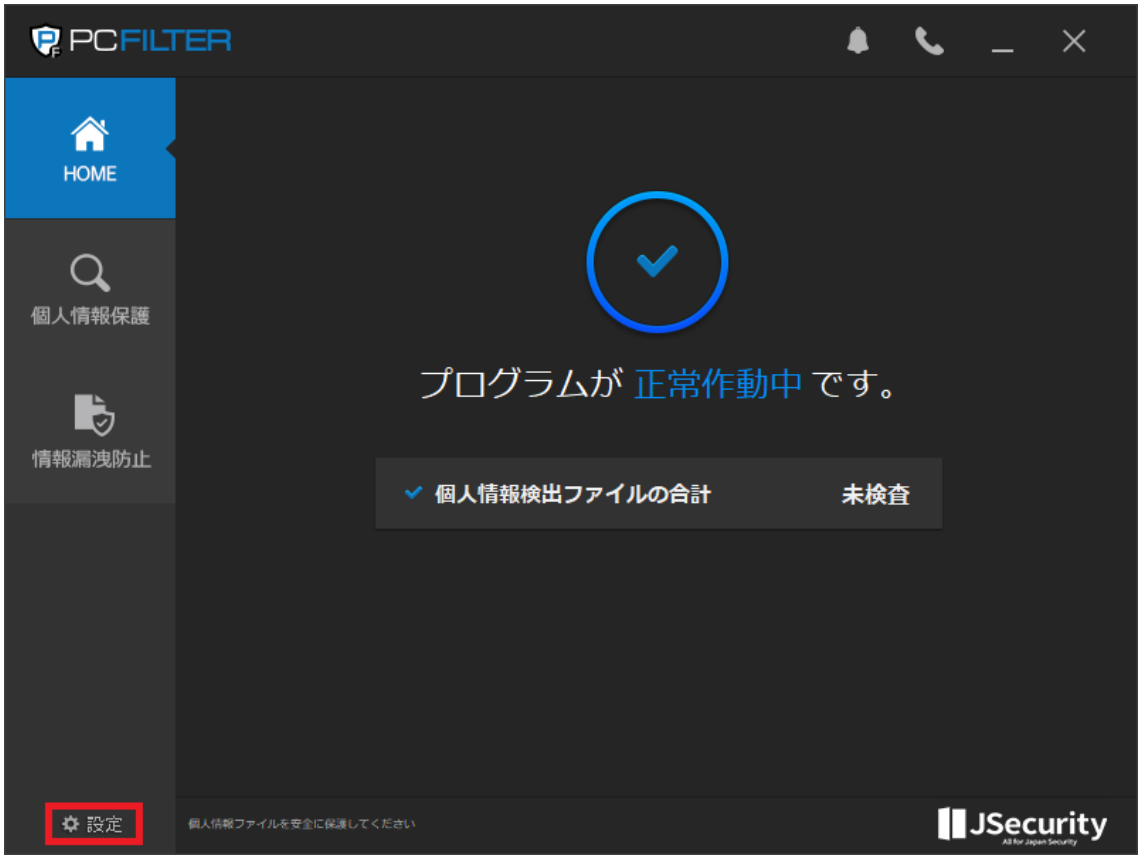


- 持ち出し承認申請：持ち出し承認を申請する項目が表示されます。
- ファイル追加：持ち出し承認申請するファイルを追加します。
- 使用可能期間(最大 365 日)：承認申請するファイルの持ち出しする回数や期間を設定します。
- 申請事由：ファイルの持ち出し事由を記載します。
- 持ち出し先：持ち出し先を入力します。
- 決裁者選択：承認を受ける決裁者を選択します。
- 持ち出し承認申請：ファイルの持ち出し承認を申請します。



6.　環境設定

環境設定メニューに移動してエージェント設定を変更します。

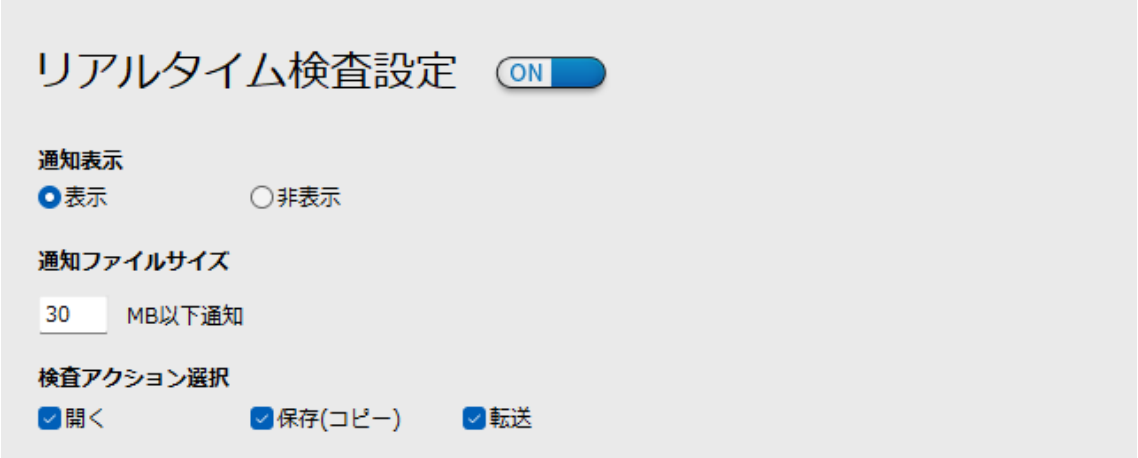


6.1. 検査設定

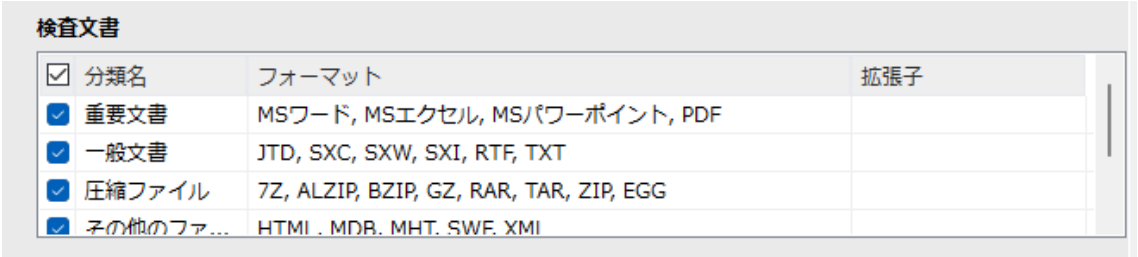
各検査に対して詳細に設定します。

6.1.1. リアルタイム検査設定

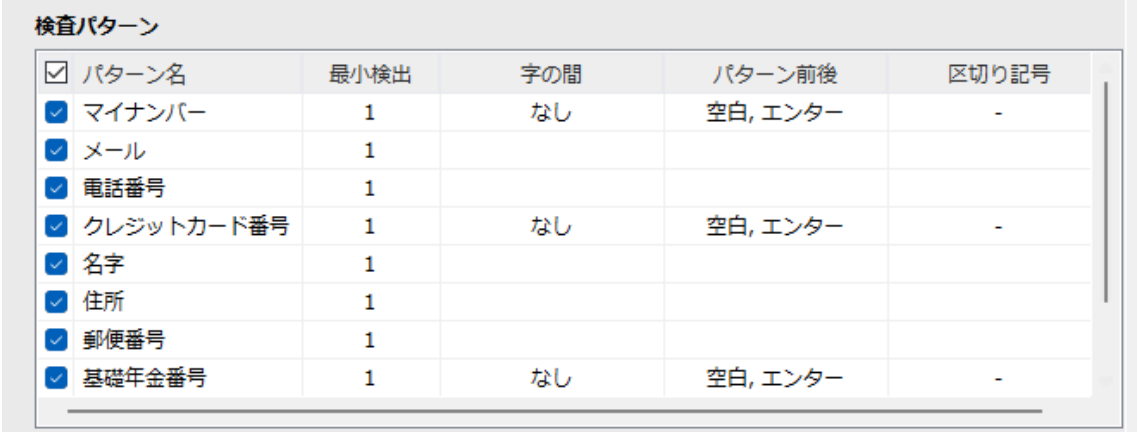
1. ON：リアルタイム検査設定を有効にします。



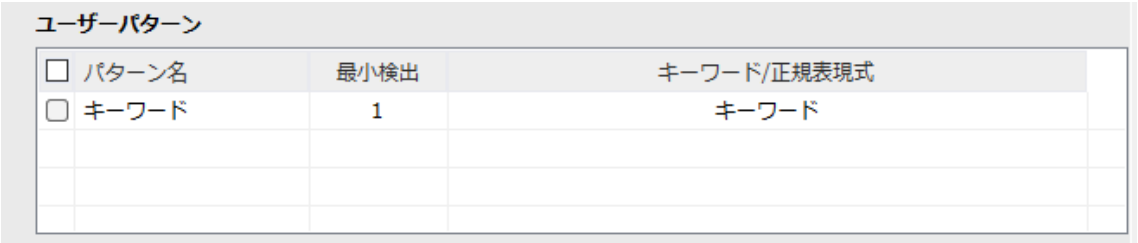
- 通知表示：リアルタイムで個人情報が検出された場合、通知可否を選択します。
- 通知ファイルサイズ：指定した値より容量が少ないファイルのみ検出通知されるように設定します。
- 検査アクション選択：リアルタイムで検査するファイルの動作行為を選択します。



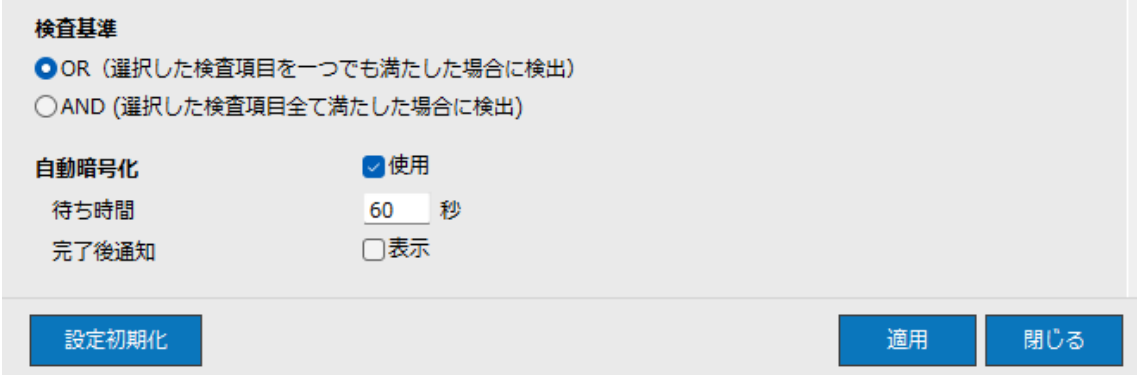
- 検査文書：リアルタイムで検査するファイルの対象文書フォーマットを設定します。



- 検査パターン：リアルタイムで検査する個人情報の対象タイプを選択します。



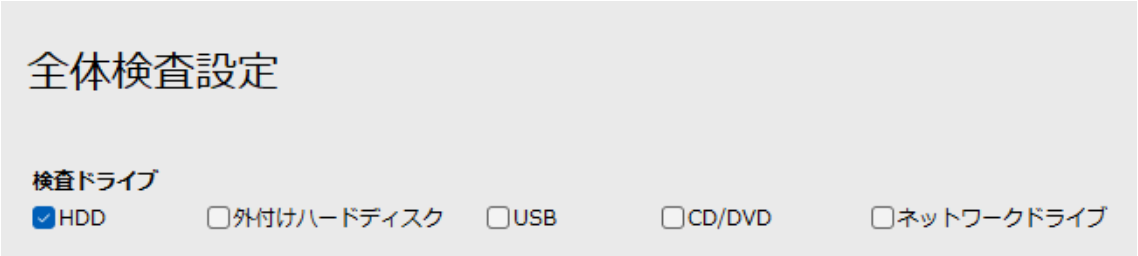
- ユーザーパターン：リアルタイムで検査するユーザー定義パターンを選択します。



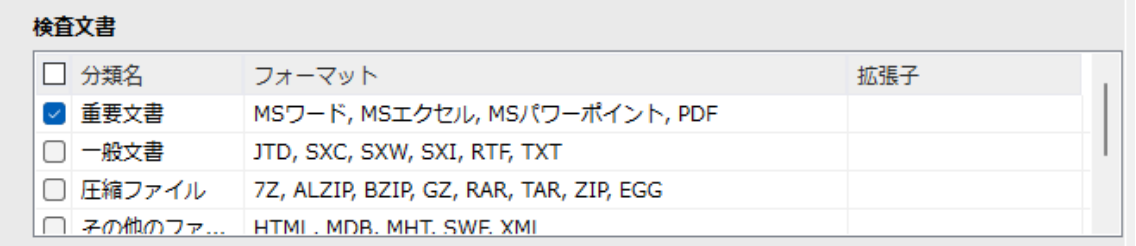
- 検査基準：選択した検査パターン、ユーザー定義パターンがいずれかのキーワードを含むファイルを検査する場合は（OR）、すべてのキーワードを含むファイルを検査する場合は（AND）を選択します。
- 自動暗号化：リアルタイムで検出されたファイルの自動暗号化可否を設定します。
  ※ファイルが実行中の場合、プロセス終了後、ファイル暗号化が行われます。
  ※ファイルを自動暗号化して失敗した場合、30 分以内に自動暗号化機能が再動作します。
- 待ち時間：自動暗号化が行われるまでの待機時間を設定します。
- 完了後通知：自動暗号化完了後の通知の有無を設定します。

- 設定初期化：設定した内容を初期化し、最初の設定に戻します。
- 適用：設定した内容を適用します。
- 閉じる：設定画面を閉じます。

6.1.2. 全体検査設定

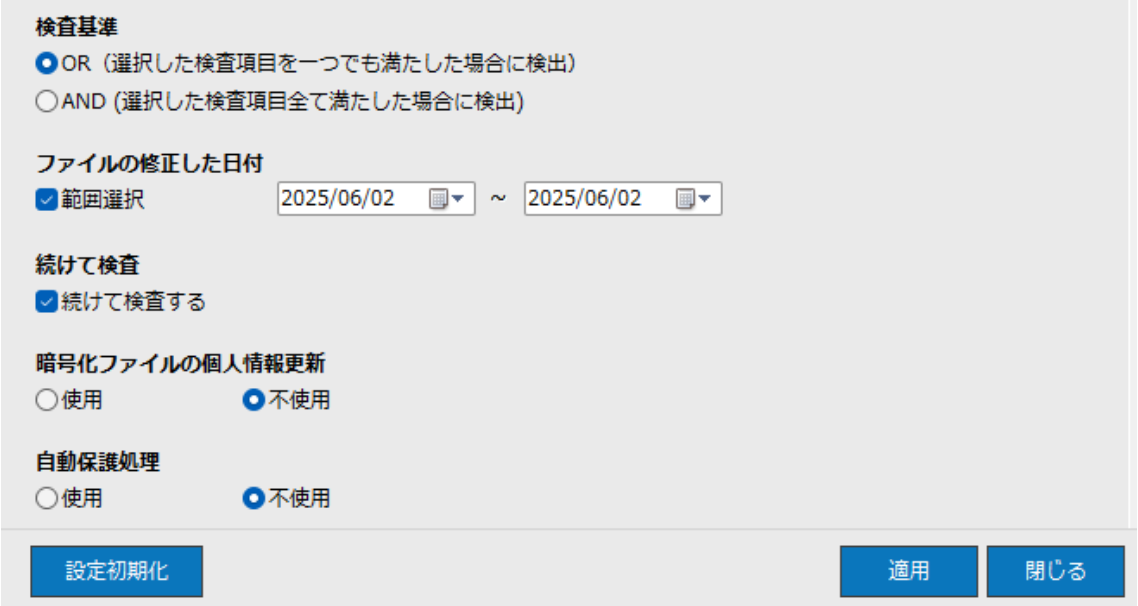


- 検査ドライブ：個人情報検査を行う対象ドライブを選択します。



- 検査対象文書：全体検査時に検査するファイルの対象文書フォーマットを設定します。

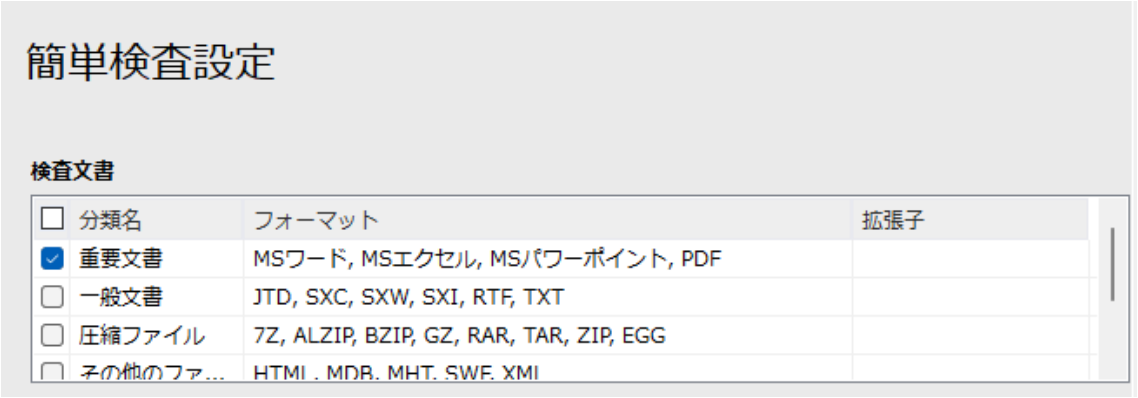
- 検査パターン：全体検査時に検査する個人情報の対象パターンを選択します。
- ユーザーパターン：全体検査時に検査するユーザー定義パターンを選択します。



- 検査基準：選択した検査パターン、ユーザー定義パターンがいずれかのキーワードを含むファイルを検査する場合は（OR）、すべてのキーワードを含むファイルを検査する場合は（AND）を選択します。
- ファイルの修正した日付：全体検査を行うファイルの新規作成または修正された対象期間設定します。
- 続けて検査：以前検査が非常に中止された場合、中止した部分から続けて検査を行います。
- 暗号化ファイルの個人情報更新：PCFITER 暗号化ファイルの個人情報検査可否を設定します。
- 自動保護処理：個人情報検出時、管理者が設定したポリシーによる保護処理を行います。
  ※自動保護処理機能は完全削除猶予設定対処外となります。自動削除に設定されている場合、使用時は復旧ができないので、気をつけてください。

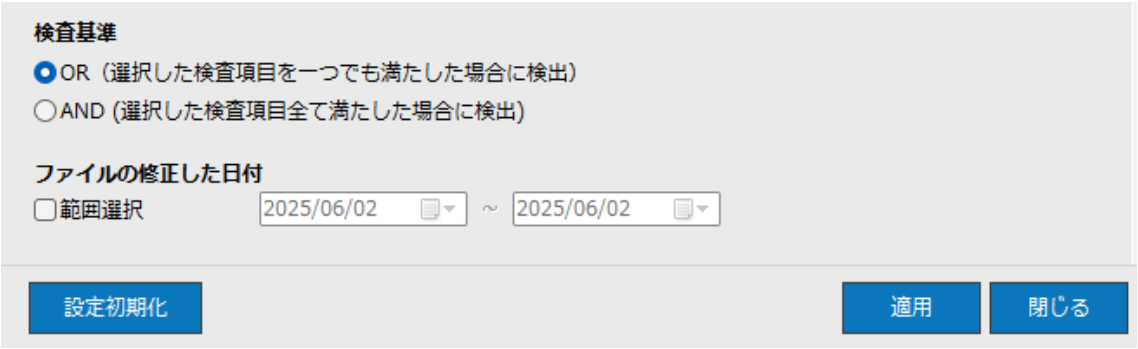
- 設定初期化：設定した内容を初期化し、最初の設定に戻します。
- 適用：設定した内容を適用します。
- 閉じる：設定画面を閉じます。

6.1.3. 簡単検査設定



- 検査文書：簡単検査時に検査するファイルの対象文書フォーマットを設定します。

- 検査パターン：簡単検査時に検査時に検査する個人情報の対象パターンを選択します。
- ユーザーパターン：簡単検査時に検査するユーザー定義パターンを選択します。

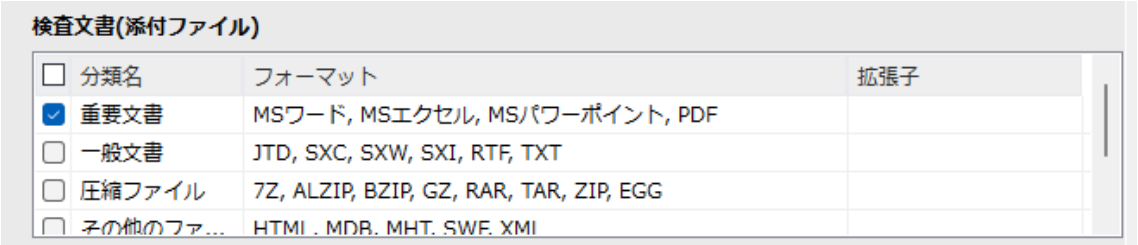


- 検査基準：選択した検査パターン、ユーザー定義パターンがいずれかのキーワードを含むファイルを検査する場合は（OR）、すべてのキーワードを含むファイルを検査する場合は（AND）を選択します。
- ファイルの修正した日付：検査を行うファイルの新規作成または修正された対象期間設定します。

- 設定初期化：設定した内容を初期化し、最初の設定に戻します。
- 適用：設定した内容を適用します。
- 閉じる：設定画面を閉じます。

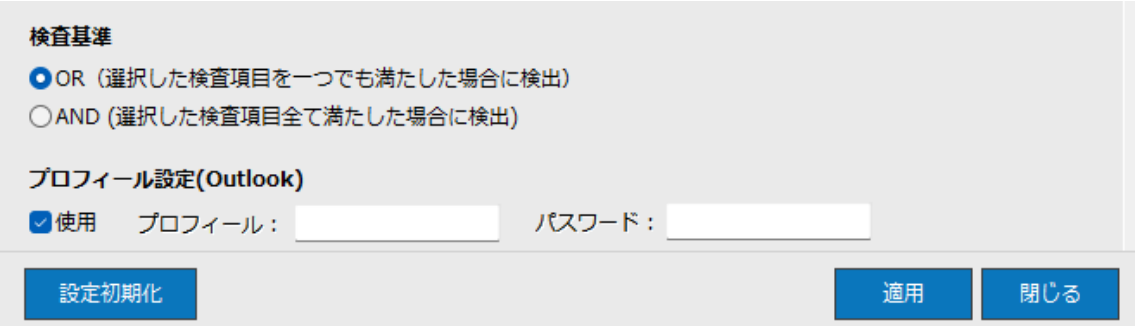
6.1.4. OUTLOOK検査設定

- ファイルのプロパティ：検査するメール対象属性（タイトル/メール本文/添付ファイル）を選択します。
- メールサイズ制限：指定した値より容量が少ないファイルのみ Outlook 検査から検出されるように設定します。



- 検査文書（添付ファイル）：OUTLOOK メール内の添付ファイルに検査する個人情報の対象パターンを選択します。

- 検査パターン：OUTLOOK 添付ファイルに検査するユーザー定義パターンを選択します。
- ユーザーパターン：OUTLOOK 添付ファイルのユーザー定義パターンを選択します。

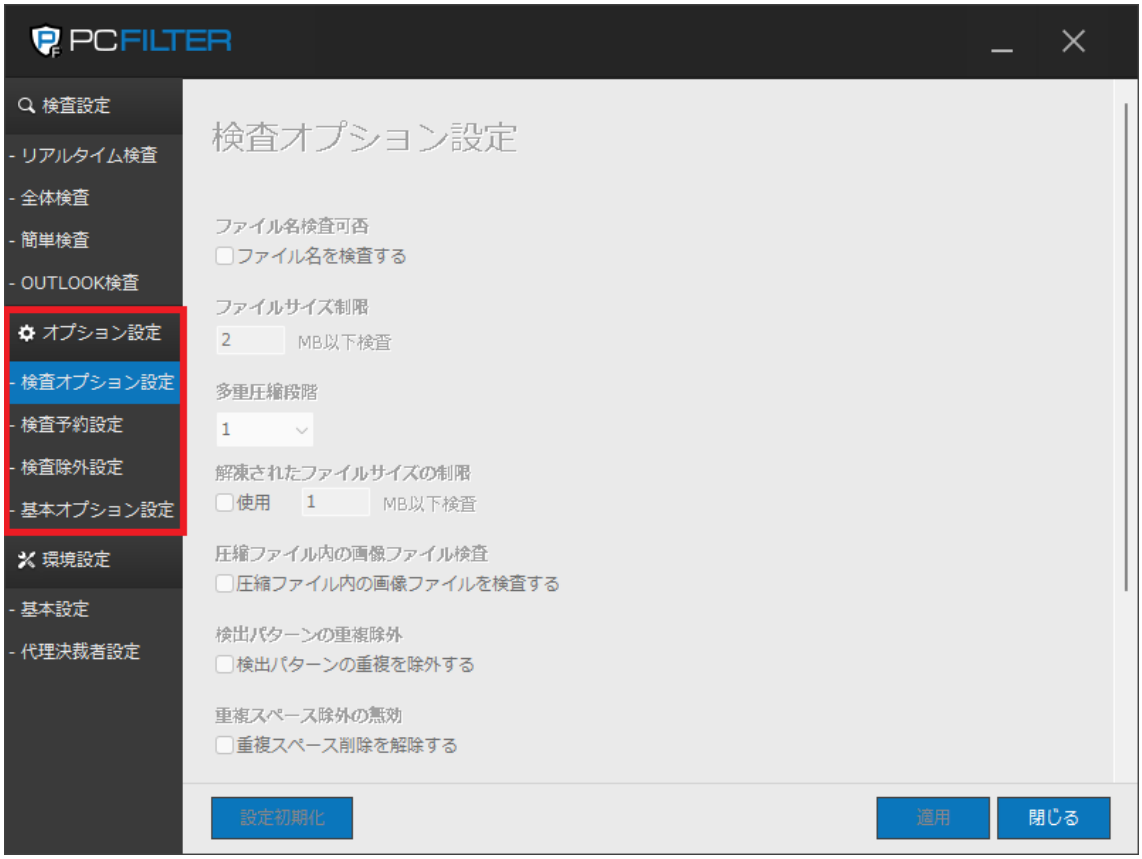


- 検査基準：選択した検査パターン、ユーザー定義パターンがいずれかのキーワードを含むファイルを検査する場合は（OR）、すべてのキーワードを含むファイルを検査する場合は（AND）を選択します。
- プロファイル設定（Outlook）：Outlook 接続アカウント情報を入力します。

- 設定初期化：設定した内容を初期化し、最初の設定に戻します。
- 適用：設定した内容を適用します。
- 閉じる：設定画面を閉じます。

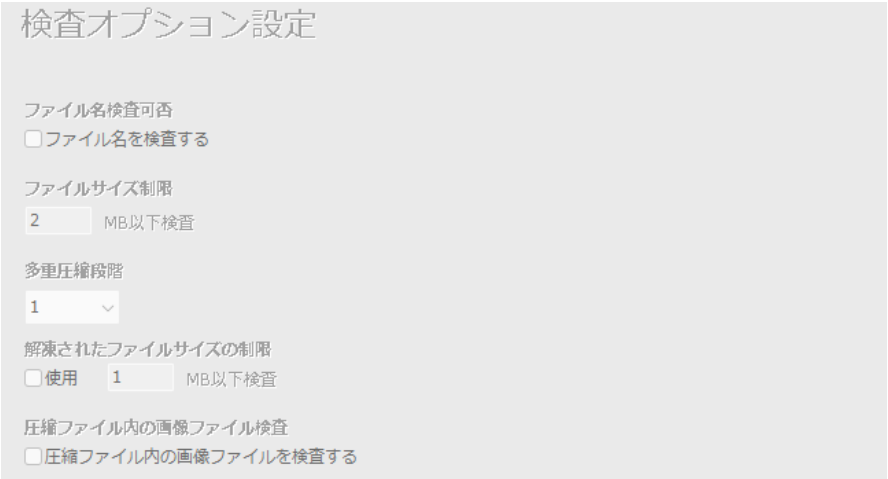
6.2. オプション設定

個人情報検査のポリシーオプションを設定します。



6.2.1. 検査オプション設定（管理者設定メニュー）

管理者が設定した検査オプションが表示されます。ユーザー別設定はできません。



- ファイル名検査可否：管理者が設定したファイル名の検査可否が表示されます。
- ファイルサイズ制限：管理者が設定した検査するファイルの制限サイズが表示されます。
- 多重圧縮段階：管理者が設定した圧縮ファイルのステップが表示されます。 設定された数字より圧縮階層の数が大きい場合検査されません。
- 解凍されたファイルサイズの制限：解凍されたファイルの管理者が設定した制限サイズが表示されます。
- 圧縮ファイル内の画像ファイル検査：圧縮ファイル中画像の検査可否が表示されます。

- 検出パターンの重複除外：検査時の検出パターンの重複削除可否が表示されます。
- 重複スペース除外の無効：検査時に抽出された結果の間に重複した空白削除可否が表示されます。
- エクセルファイルキャッシュデータフィルタリング：キャッシュデータ検査可否が表示されます。
- Excel ファイルからふりがな検査設定：文書内の非表示されているふりがなを含めて漢字の全体ふりがなを検査します。
  ※例えば Excel ファイル内で名字を検査する時、「山田」を検査すると「山田」「やまだ」が検出されます。
- 文書内の画像検査：文書内の画像の検査可否が表示されます。

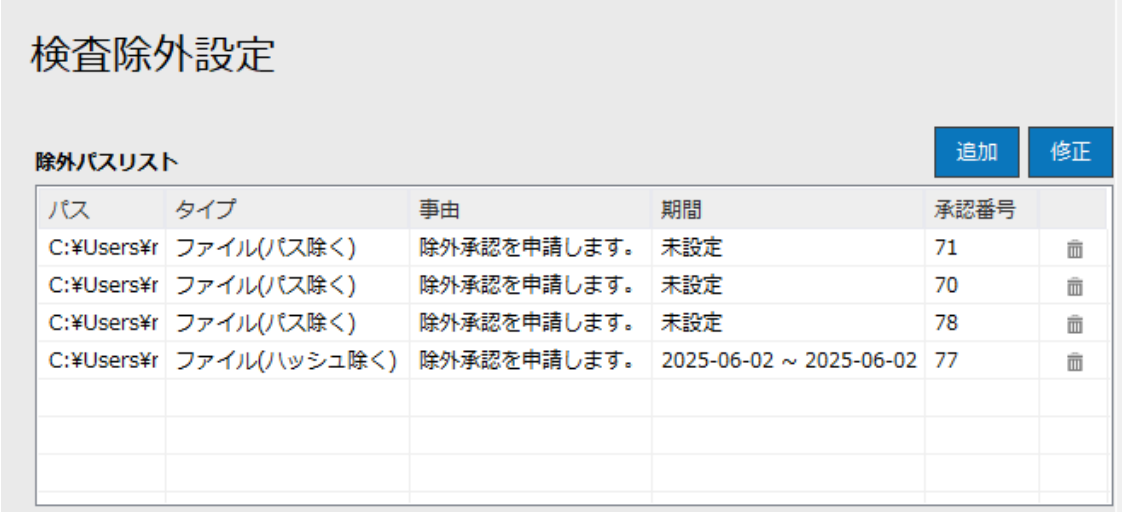
6.2.2. 検査予約設定

1. ON：予約検査設定を有効にします。

- 検査予約リスト：登録された予約検査項目が表示されます。
- 🗑：選択した予約検査を削除します。
- 修正：登録された予約検査ポリシーを修正します。
- 追加：予約検査ポリシーを追加します。

- 作業名：予約検査の作業名を入力します。
- 予約検査日時：予約検査周期(一回/毎日/毎月/毎週)を設定します。
- 終了時間（分）：予約検査開始後設定した時間内に終わらない場合、検査が終了できるように設定します。
- 予約オプション：予約検査完了時にシステム自動終了可否を選択します。

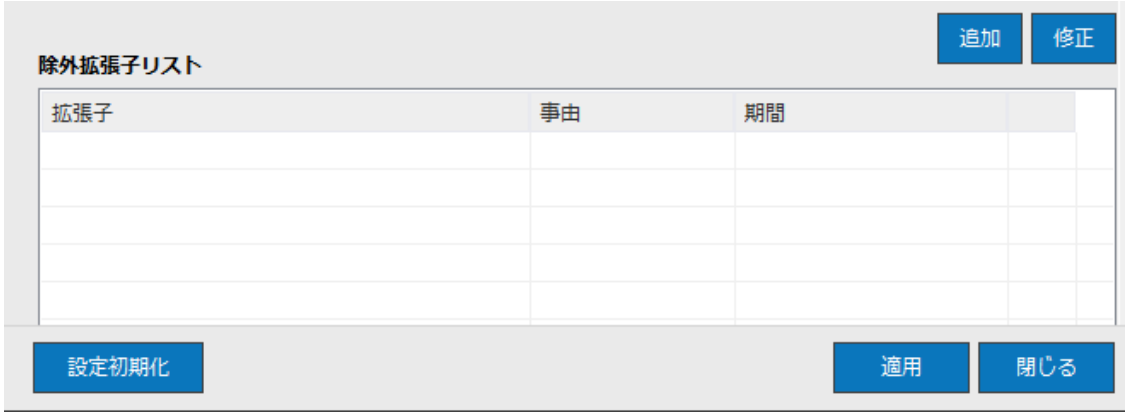
6.2.3. 検査除外設定



- 除外パスリスト：登録された検査除外ファイル,フォルダ情報が表示されます。
- 🗑：選択した除外ファイルパスを削除します。
- 追加：検査で除外させるファイルを追加します。

- パス：検査から除外させるファイル項目が表示されます。
- 検索：検査から除外させるファイルパスを追加します。
- 事由：検査から除外させる理由を記載します。
- 除外期間設定（最大 365 日)：検査除外期間使用有無および有効期間を設定します。
- 決裁者選択：申請先の決裁者を選択します。

- 修正：登録された検査除外ファイルパスを修正します。



- 除外拡張子リスト：登録された検査除外拡張子情報が表示されます。
- 🗑：選択した除外拡張子を削除します。

- 追加：検査除外拡張子を追加します。

- 拡張子：検査から除外する拡張子を登録します。
- 事由：検査から除外する理由を入力します。
- 除外期間設定（最大 365 日)：検査除外期間使用有無と有効期間を設定します。
- 決裁者選択：申請先の決裁者を選択します。

- 修正：登録された検査除外拡張子を修正します。

6.2.4. 基本オプション設定

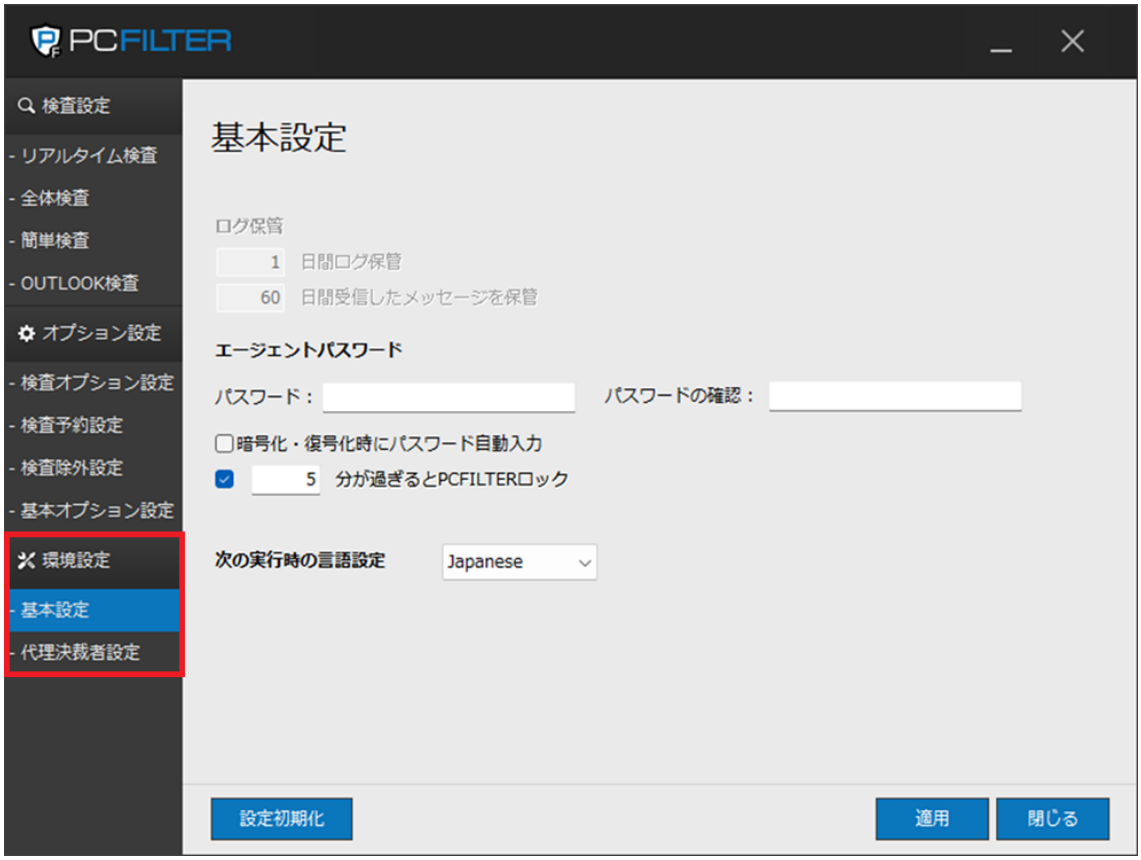
- 完全削除猶予期間：ファイルの完全削除設定時、猶予期間の使用有無および猶予期間を設定します。
- 隔離後削除設定：隔離後、設定した日数が経過した際に完全削除を行う機能の有効/無効を設定します。以下チェック項目で本動作の対象を選択します。
- ユーザー：ユーザーが手動で隔離したファイルを対象にします。
- 検査後自動保護処理：検査後に自動保護処理として隔離が行われたファイルを対象とします。
- 保有登録：保有登録が失効する、あるいは保有登録未登録であったために隔離されたファイルを対象とします。

- USB 自動検査：USB 接続時、ファイル内の個人情報を検出するための自動検査の実施可否を設定します。

- CPU 使用量：PCFILTER の CPU 使用量を設定します。

6.3. 環境設定

ログ保存日およびパスワードを設定します。



6.3.1. 基本設定

- ログ保管：個人情報検査ログ及び管理者から受信したメッセージの保管日数を設定します。
- エージェントパスワード：エージェントパスワードの登録可否を選択します。
- 暗号化・復号化時にパスワード自動入力：暗号化または復号時に登録したエージェントパスワードの自動入力可否を設定します。
- エージェントロック：エージェントを使用しない場合、設定した時間後、PCFILTER をロック設定します。

- 次の実行時の言語設定：次回実行時のソフトウェアの表示言語を選択します。

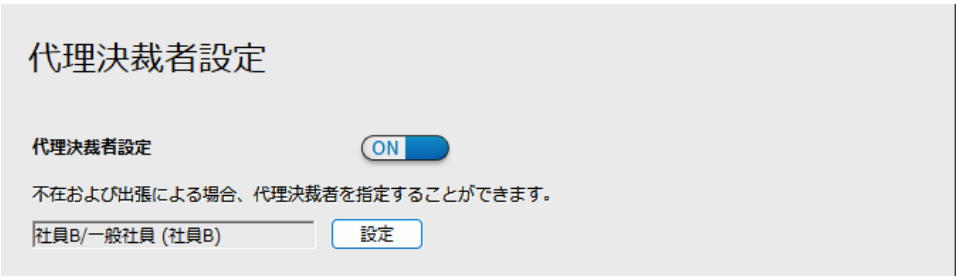
6.3.2. 代理決裁者設定

部署員からの申請承認決裁ができない場合、代わりに決裁できるように代理人を設定します。

※決裁者のみ本機能が表示されます。

※管理コンソールの設定によっては決裁者にも表示されません。

1. ON：代理決裁者設定を有効にします。

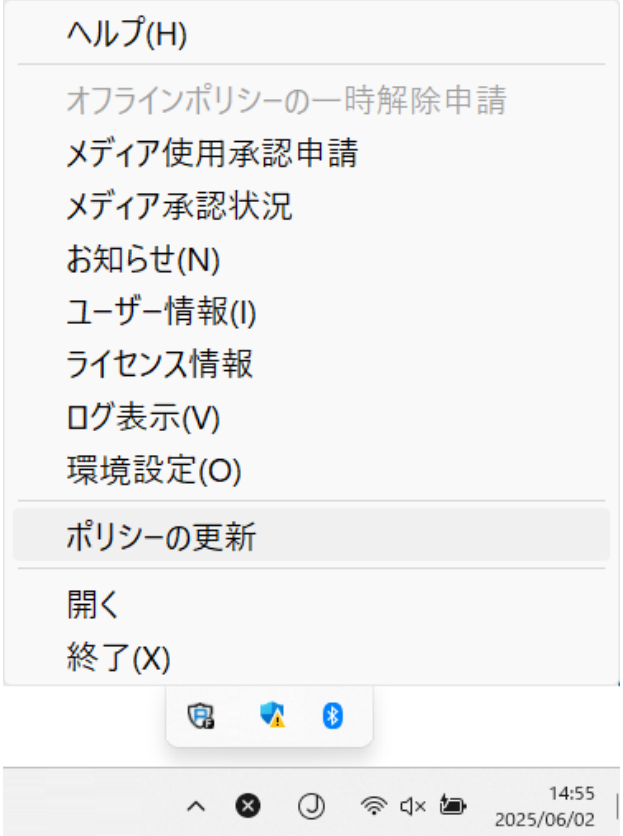


- 設定：代理決裁者を設定します。

- 検索：決裁者を検索します。
- 選択：検索された決裁者をクリック後、選択します。

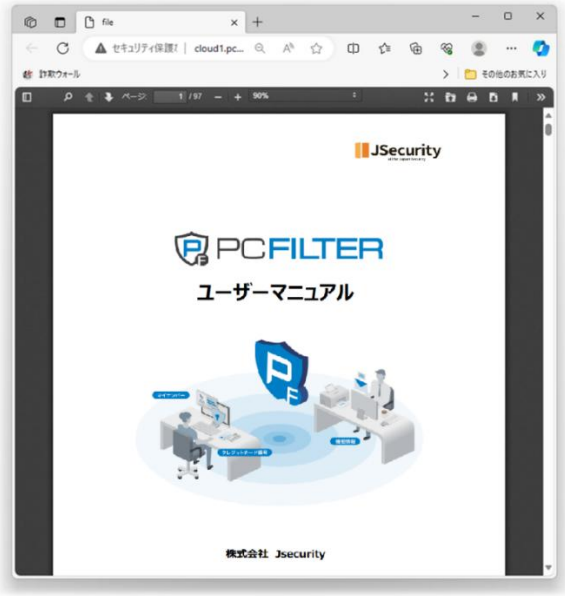
7. トレイメニュー

エージェントウィンドウを開くことなく、トレイメニューから様々な機能が利用できます。



[ヘルプ(H)]

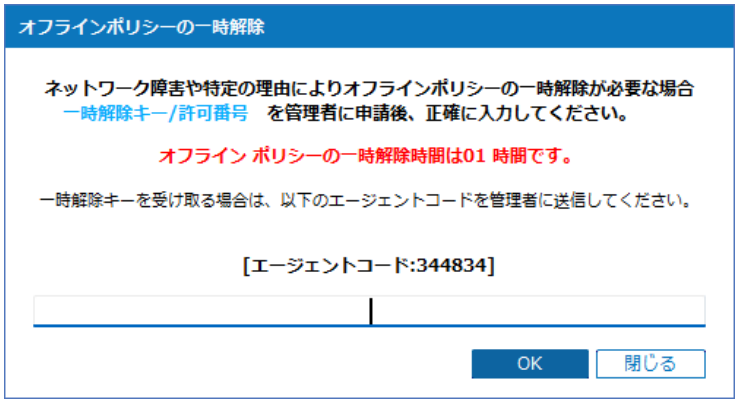
PCFILTER マニュアルを開きます。



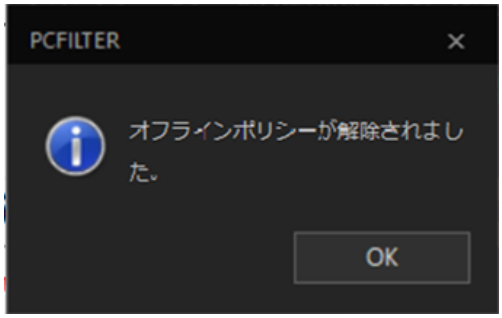
[オフラインポリシーの一時解除申請]

オフラインポリシーの動作時に一時的に解除が必要な場合、ユーザーは管理者に申請してオフラインポリシーを一時解除します。(オフライン時のみ機能が活性化され使用可能です。)

1. オフラインポリシーの一時解除申請をクリックするとポップアップを提供し、エージェントコート 6 桁を管理者に伝えます。その後、管理者から頂いた一時解除キー6 桁を入力した後、OK ボタンをクリックします。

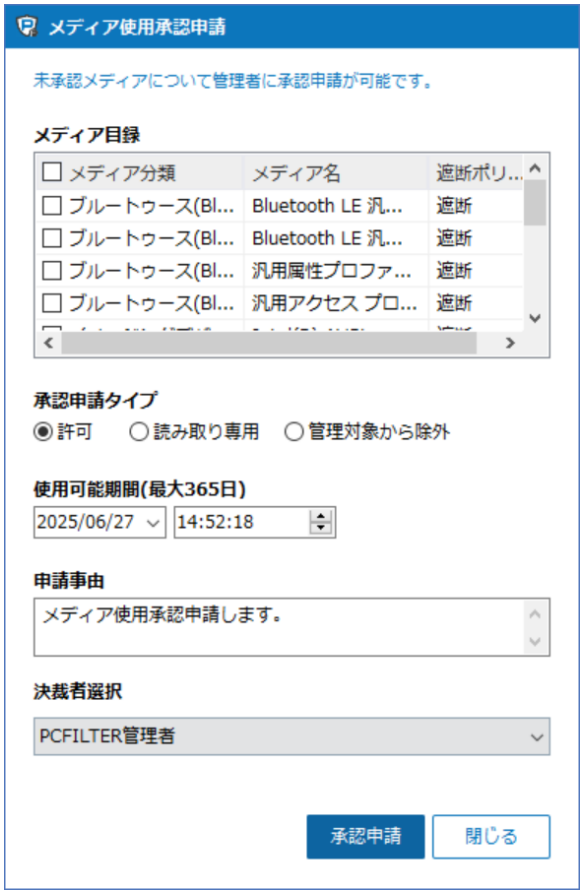


2. 一時解除キーの入力後に一致した場合、オフラインポリシーが解除され、既存の社内ポリシーに従って動作します。



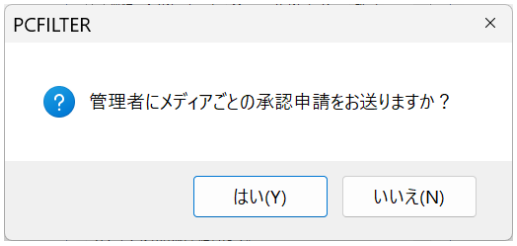
[メディア使用承認申請]

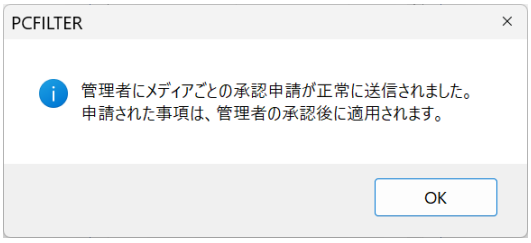
外部メディアの使用承認を申請します。



- メディア目録：承認申請するメディア項目を選択します。
- 承認申請タイプ：承認申請タイプを選択します。
- 許可：メディアの使用を許可します。
- 読み取り専用：読み取り専用でのみ許可します。
- 管理対象から除外：承認メディアを管理対象から除外します。

- 使用可能期間（最大 365 日)：メディアを使用する期間を設定します。
- 申請事由：決裁者に申請するメディア使用事由を入力します。
- 決裁者選択：メディア承認許可を受ける決裁者を選択します。
- 承認申請：メディア使用の許可申請を行います。

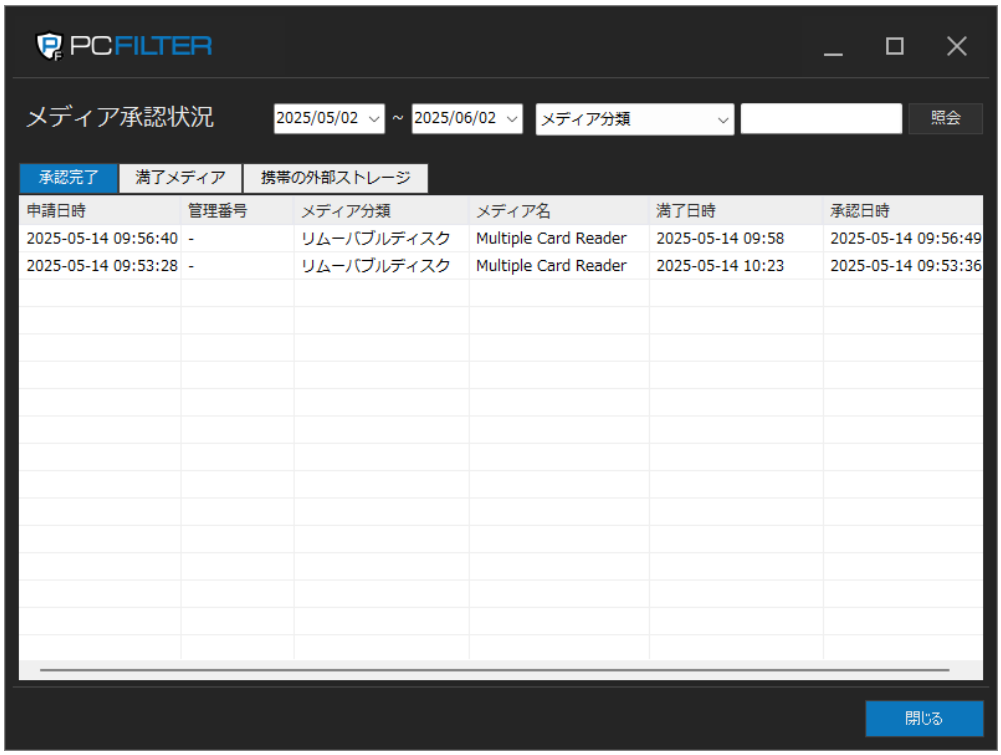




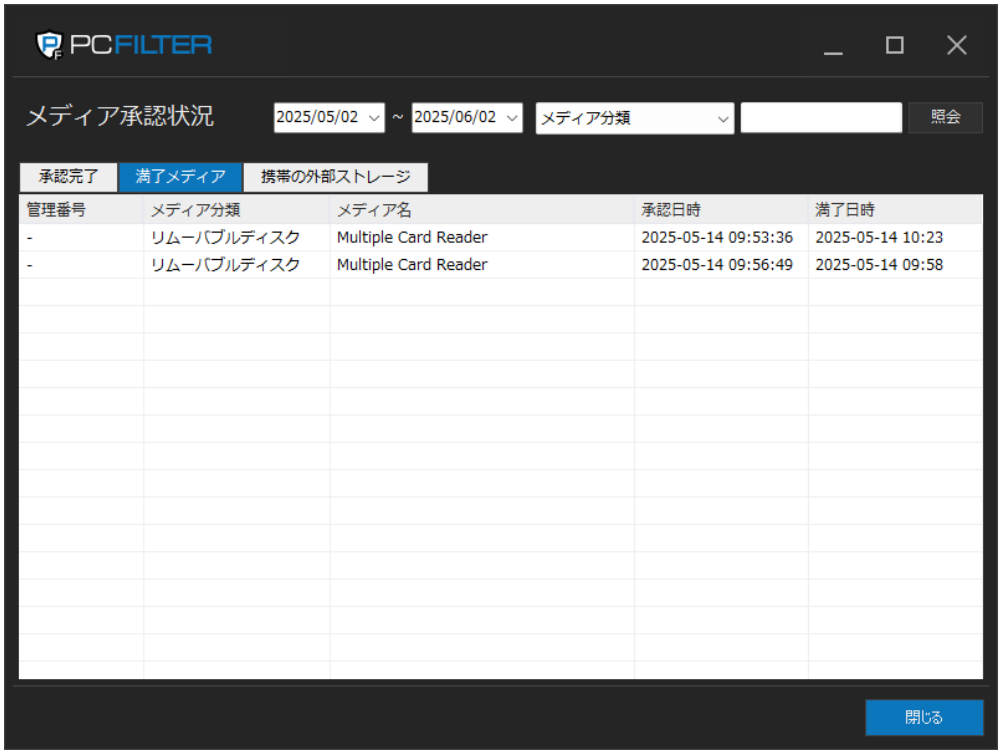
[メディア承認状況]

1.　照会：希望する期間のログ記録を照会します。

1.　承認完了：承認が完了したメディアが表示されます。

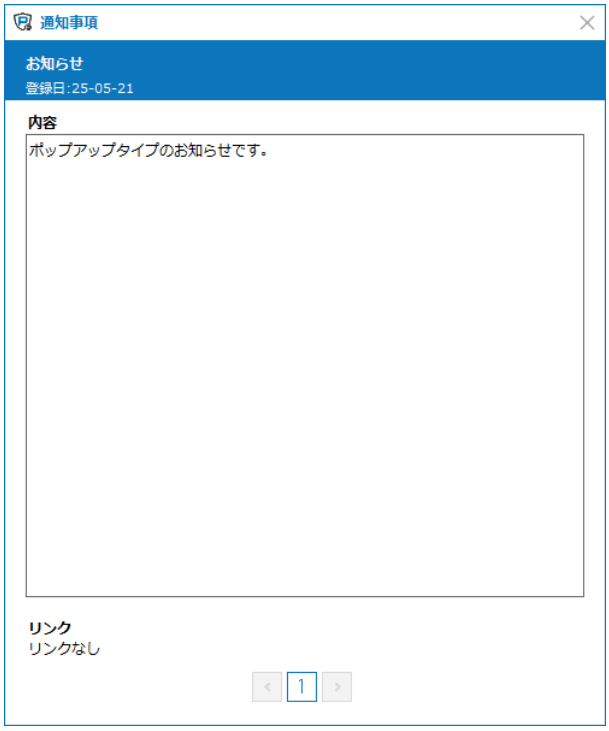


2.　満了メディア：承認が完了したメディアのうち、承認期間が満了したものが表示されます。



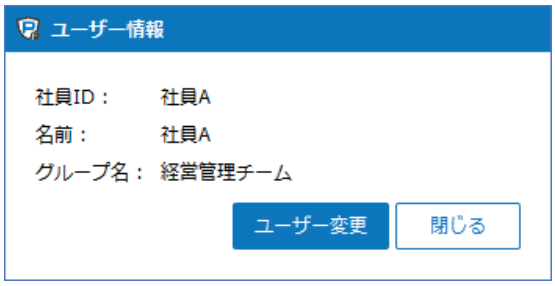
[お知らせ]

管理者からのお知らせが表示されます。



[ユーザー情報]

ユーザー情報が表示されます。（管理者設定により表示される画面が異なる場合があります。）



3. ユーザー変更：ユーザー情報を変更します。（管理者設定により表示される画面が異なる場合があります。）

[ライセンス情報]

利用中のライセンスサービス、期間を表示します。

[ログを見る]

ログ画面を表示します。

（ログ画面については 4.8 ログを見るをご参照ください。）

[環境設定]

環境設定画面を表示します。

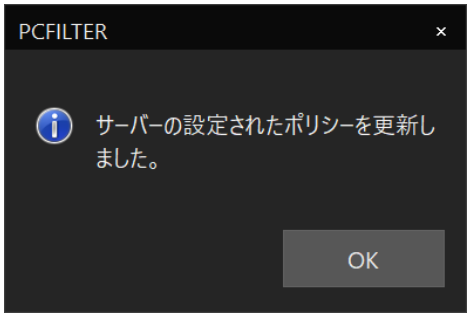
（環境設定については 6 .環境設定をご参照ください。）

[エージェントロック]

エージェントをロックします。（機能が有効になっている場合のみ表示されます。）

[ポリシーを更新する]

管理者ポリシーを手動でアップデートします。



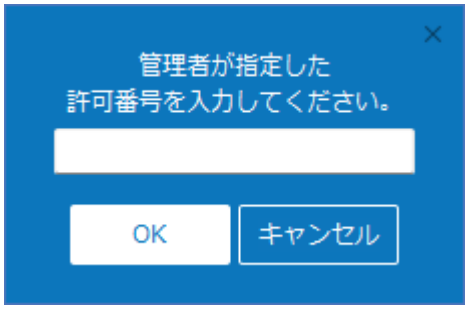
[開く]

PCFILTER 画面を表示します。

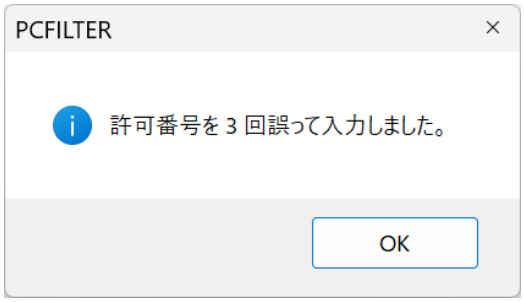
[終了]

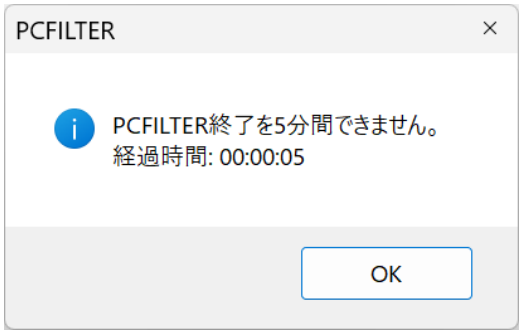
PCFILTER を終了します。

(管理者の設定によっては許可番号入力ウィンドウが表示される場合があります。)



1. 許可番号を正常に入力する場合終了しますが、許可番号を 3 回間違って入力した場合、5 分間 PCFILTER を終了できなくなります。

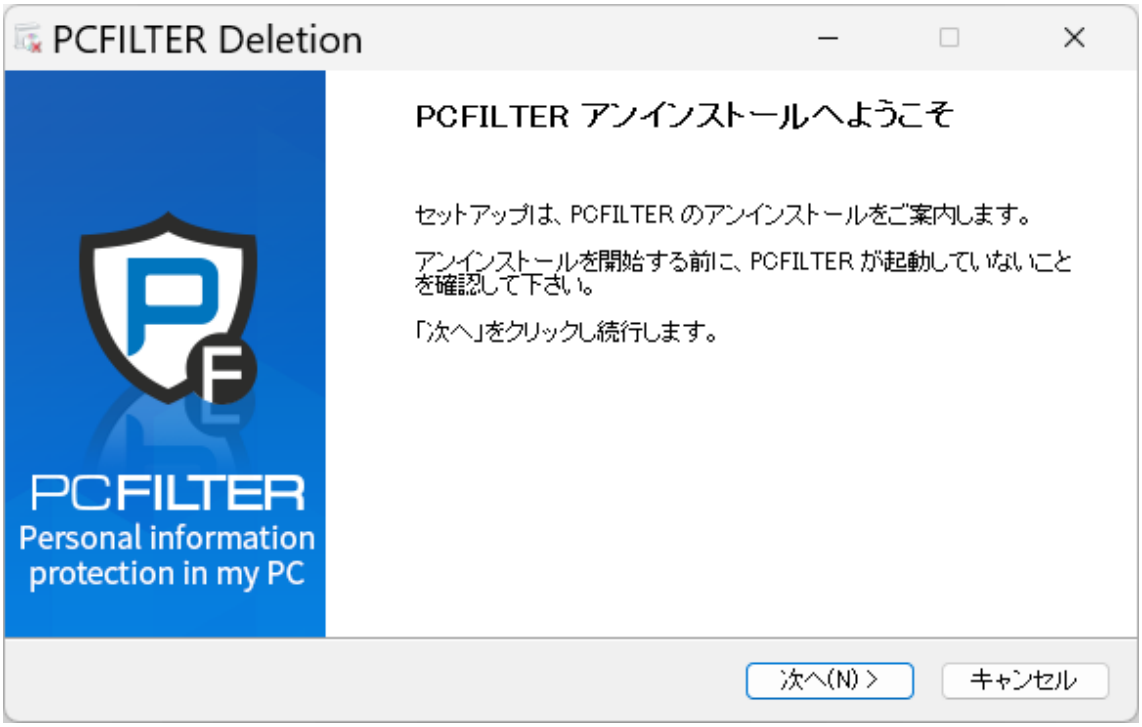




7.1. エージェントアンインストール

エージェントは、「PFUninstall」ファイルまたは、PC 設定を通じて削除することができます。

1.　アンインストール作業を実行します。



2.　アンインストールを選択し、PCFILTER をアンインストールします。

(管理者の設定によっては許可番号入力ウィンドウが表示される場合があります。)

3.　PCFILTER を完全にアンインストールするためには PC を再起動する必要があります。「今すぐ再起動する」か、「後で手動で再起動する」を選択します。

8.　付録

8.1. FAQ

Q：大容量文書ファイルが検出されません。

A：大容量文書ファイルの場合、長く検査時間がかかることがあります。 PCFILTER は、30MB 以下のファイルを検査するよう基本設定されています。 ファイル検査制限容量はエージェントまたは設定変更により変更可能です。（設定可能範囲:1MB~1,024MB）

Q：保護処理（暗号化、暗証番号の圧縮、完全削除など）ができません。

A：ファイルが開いているか、他のプログラムによって使用されている場合、保護処理(暗号化、パスワード圧縮など)は行われません。 開いているファイルを閉じたり、接続されているプログラムを終了すると、保護処理を完了させることができます。

※ネットワークドライブ上のファイルは保護処理、および復号を行うことができません。

Q：「ライセンスが満了している」「ライセンス数量を超えている」旨のメッセージが表示されます。

A：ご購入いただいたライセンスが満了している、あるいは購入ライセンス数が不足している場合に上記のようなメッセージが表示されます。対処方法については社内の管理者へお問い合わせください。